



2016

大学院講義要項

経済学研究科

経済学専攻

京都産業大学大学院

GRADUATE SCHOOL KYOTO SANGYO UNIVERSITY

■ EE001

科目名	: 数理経済学特論A
担当者	: 加茂 知幸
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 大学院レベルのミクロ・マクロ経済学を理解し、理論的な学術論文を読みこなす上で必要となる数学を習得することを目標とする。
授業内容・方法	: 講義および書籍等の文献を講読し、問題演習を繰り返すことで、論理的思考・計算力の向上を目指す。
授業計画	: 第1回 インTRODクシヨN 第2回 微分法1 第3回 微分法2 第4回 微分法3 第5回 線形代数1 第6回 線形代数2 第7回 線形代数3 第8回 凸解析 第9回 制約なし最適化法 第10回 等式制約つき最適化法1 第11回 等式制約つき最適化法2 第12回 不等式制約つき最適化法1 第13回 不等式制約つき最適化法2 第14回 積分と微分方程式1 第15回 積分と微分方程式2
評価方法・基準	: 毎回実施する問題演習への取り組みで評価する（100%）。
教材など	: 受講者のレベルに応じて、授業時に適宜指示する。
備考	:

■ EE002

科目名	: 数理経済学特論B
担当者	: 加茂 知幸
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 大学院レベルのミクロ・マクロ経済学を理解し、理論的な学術論文を読みこなす上で必要となる数学を習得することを目標とする。
授業内容・方法	: 講義および書籍等の文献を講読し、問題演習を繰り返すことで、論理的思考・計算力の向上を目指す。
授業計画	: 第1回 インTRODakション 第2回 距離と位相1 第3回 距離と位相2 第4回 距離と位相3 第5回 距離と位相4 第6回 距離と位相5 第7回 距離と位相6 第8回 距離と位相7 第9回 確率論1 第10回 確率論2 第11回 確率論3 第12回 確率論4 第13回 確率論5 第14回 確率論6 第15回 確率論7
評価方法・基準	: 毎回実施する問題演習への取り組みで評価する（100%）。
教材など	: 受講者のレベルに応じて、授業時に適宜指示する。
備考	:

■ EE003

科目名	: 数理経済学特論演習 I
担当者	: 加茂 知幸
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: ゲーム理論の基礎知識を習得することを目標とする。
授業内容・方法	: 大学院レベルのゲーム理論のテキストを輪読する。受講者はテキストの内容について発表し、教員の試問に答えることが求められる。
授業計画	: 第1回 期待効用理論 1 第2回 期待効用理論 2 第3回 戦略形ゲーム 1 第4回 戦略形ゲーム 2 第5回 戦略形ゲーム 3 第6回 戦略形ゲーム 4 第7回 展開形ゲーム 1 第8回 展開形ゲーム 2 第9回 展開形ゲーム 3 第10回 完全均衡点 1 第11回 完全均衡点 2 第12回 完全均衡点 3 第13回 情報不完備ゲーム 1 第14回 情報不完備ゲーム 2 第15回 情報不完備ゲーム 3
評価方法・基準	: 授業時の発表の内容で評価する (100%)。
教材など	: 岡田章『ゲーム理論』 (有斐閣)
備考	:

■ EE004

科目名	: 数理経済学特論演習Ⅱ
担当者	: 加茂 知幸
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: ゲーム理論の基礎知識を習得することを目標とする。
授業内容・方法	: 数理経済学特論演習Ⅰに引き続き、大学院レベルのゲーム理論のテキストを輪読する。受講者はテキストの内容について発表し、教員の試問に答えることが求められる。
授業計画	: 第1回 イン트로ダクション 第2回 繰り返しゲーム1 第3回 繰り返しゲーム2 第4回 繰り返しゲーム3 第5回 繰り返しゲーム4 第6回 交渉ゲーム1 第7回 交渉ゲーム2 第8回 交渉ゲーム3 第9回 交渉ゲーム4 第10回 提携形ゲーム 第11回 コアの理論 第12回 コアの理論 第13回 コアの理論 第14回 シャープレイ値1 第15回 シャープレイ値2
評価方法・基準	: 授業時の発表の内容で評価する（100%）。
教材など	: 岡田章『ゲーム理論』（有斐閣）
備考	:

■ EE005

科目名	: 数理経済学特論演習Ⅲ
担当者	: 加茂 知幸
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 数理経済学の修士論文テーマを決定し、論文を作成する上で必要な文献のサーベイを行うことを目標とする。
授業内容・方法	: 受講者の研究テーマに関する、基本文献と最新の研究論文を読み、その要点を整理し発表することが求められる。
授業計画	: 第1回 ガイダンス 第2回 基本文献の講読1 第3回 基本文献の講読2 第4回 基本文献の講読3 第5回 基本文献の講読4 第6回 基本文献の講読5 第7回 基本文献の講読6 第8回 中間報告 第9回 最新論文の研究1 第10回 最新論文の研究2 第11回 最新論文の研究3 第12回 最新論文の研究4 第13回 最新論文の研究5 第14回 最新論文の研究6 第15回 最終報告
評価方法・基準	: 授業時の発表の内容で評価する（100%）。
教材など	: 受講者の研究テーマおよび進展状況に応じて適宜指示する。
備考	:

■ EE006

科目名	: 数理経済学特論演習Ⅳ
担当者	: 加茂 知幸
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 数理経済学の修士論文を作成することを目標とする。
授業内容・方法	: 受講者の研究テーマに関するオリジナルな研究成果を発表することが求められる。
授業計画	: 第1回 ガイダンス 第2回 基本方針に関する報告1 第3回 基本方針に関する報告2 第4回 研究指導1 第5回 研究指導2 第6回 研究指導3 第7回 中間報告1 第8回 中間報告2 第9回 研究指導4 第10回 研究指導5 第11回 研究指導6 第12回 論文準備1 第13回 論文準備2 第14回 最終報告1 第15回 最終報告2
評価方法・基準	: 論文の内容 (50%) および最終報告での口頭試問 (50%) により評価する。
教材など	: 受講者の研究の進捗状況に応じて適宜指示する。
備考	:

■ EE007

科目名	: ミクロ経済学基礎
担当者	: 福井 唯嗣
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 大学院での学修に必要となるレベルのミクロ経済学の知識を習得すること。
授業内容・方法	: ミクロ経済学における各分野の直感的理解の確認とそれを数学的分析によって表現するための基礎的な手法について解説する。解説後、演習問題を解くことで理解向上を図る。
授業計画	: 第1回 ガイダンス・イントロダクション 第2回 消費者の理論 (1) 第3回 消費者の理論 (2) 第4回 消費者の理論 (3) 第5回 企業の理論 (1) 第6回 企業の理論 (2) 第7回 部分均衡分析 第8回 一般均衡分析 第9回 不完全競争の理論 第10回 外部性 第11回 ゲーム理論 第12回 公共財の理論 第13回 不確実性の経済学 第14回 情報の経済学 第15回 国際貿易
評価方法・基準	: 授業時の問題演習(60%)、期末演習問題(40%)
教材など	: 参考書: 奥野正寛 編著『ミクロ経済学』(東京大学出版会、2008年) 奥野正寛 編『ミクロ経済学演習』(東京大学出版会、2008年) Mas-Colell, A., Whinston, M. D. and J. R. Green, Microeconomic Theory (Oxford University Press, 1995)
備考	:

■ EE008

科目名	: マクロ経済学基礎
担当者	: 寺井 晃
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: この講義の目的は、①学部でのマクロ経済学の復習・確認、②大学院で必要となるマクロ経済学の知識を習得すること、の2点である。大学院科目であるので、(復習は行うが)学部マクロ経済学A・Bの知識が前提となる。論文を読むことを通じて、マクロ経済学の知識や論文の形式を身に付けていくことを目標としたい。
授業内容・方法	: 以下の授業計画に沿って、講義方式で行う。
授業計画	: 第1回 インTRODクシヨン 第2回 数学準備1 対数・e、偏微分・全微分、チェインルル 第3回 数学準備2 最大化・最小化、制約条件付最大化、ラグランジュ乗数法 第4回 数学準備3 期待値・分散・共分散の演算 第5回 学部マクロ経済学の復習1 IS-LM分析 第6回 学部マクロ経済学の復習2 AD-AS分析、フィリップス曲線 第7回 経済成長モデル1 ソロー・スワンモデル 第8回 経済成長モデル2 人的資本の導入、Mankiw, Romer and Weil(1992)の概説 第9回 異時点間の効用最大化1 2期間モデル、3期間モデル 第10回 異時点間の効用最大化2 ルーカス・ツリーモデル 第11回 無限期モデル1 ラムゼイ・キャス・クープマンズモデル 第12回 無限期モデル2 リアル・ビジネス・サイクルモデル 第13回 無限期モデル3 動学的一般均衡モデル (DSGE モデル) 第14回 無限期モデル4 ニューケインジアン DSGE モデル 第15回 全体のまとめ
評価方法・基準	: 平常点 (20%)、期末試験 (80%)
教材など	: Romer, David(2012) “Advanced Macroeconomics, 4th Edition” McGraw -Hill/ Irwin Mankiw, Romer and Weil(1992) “A Contribution to the Empirics of Economic Growth,” Quarterly Journal of Economics 吉川洋 (2000) 『現代マクロ経済学』創文社 加藤涼 (2007) 『現代マクロ経済学講義』東洋経済新報社
備考	:

■ EE009

科目名	: 経済学英語講義A
担当者	: 田中 寧
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: English Title: Introduction to Japanese Economy A The aim of this course is to describe the Japanese economy and discuss its problems, with an emphasis on international comparisons.
授業内容・方法	: (1)The course is taught in English. (2)It is open to students of all departments and no primary knowledge of Economics is required. (3)The lectures will closely follow as the text the latest edition of ZEMINARU NIHON KEIZAI NYUMON (Introduction to Japanese Economy). (4)Students are advised to take Introduction to Japanese Economy B also.
授業計画	: 第1回 Introduction to Japanese Economy 第2回 Japanese Economy Today I 第3回 Japanese Economy Today II 第4回 Understanding Trade I 第5回 Understanding Trade II 第6回 Planning a New Economic Growth I 第7回 Planning a New Economic Growth II 第8回 Prices and Market Economy I 第9回 Prices and Market Economy II 第10回 Financing an Aging Society I 第11回 Financing an Aging Society II 第12回 A New Era in Monetary Economy I 第13回 A New Era in Monetary Economy II 第14回 Presentations by students 第15回 Course summary
評価方法・基準	: A written exam at the end of the semester in either English or Japanese (50%) and two essays during the semester (50%)
教材など	: 三橋規宏・他「ゼミナール日本経済入門」および配付資料
備考	: The course is primarily intended for two types of students; A. Overseas students (mainly exchange students) who are interested in learning about Japanese economy but whose Japanese is not competent enough to follow the courses in Japanese at KSU. B. Japanese speaking students who are interested in acquiring the knowledge and skills to describe the Japanese economy in English.

■ EE010

科目名	: 経済学英語講義B
担当者	: 齊藤 健太郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: The aim of this course is to describe the Japanese economy and discuss its problems, with an emphasis on international comparisons.
授業内容・方法	: (1)The course is taught in English. (2) It is open to students of all departments and no primary knowledge of Economics is required. (3) The lectures will in principle follow the text the latest edition(2009 version) of 'ZEMINARU NIHON KEIZAI NYUMON (Introduction to Japanese Economy) (4) Students are advised to take Lectures on Economics in English A also.
授業計画	: 第1回 Modernization and economic growth (1) 第2回 Modernization and economic growth (2) 第3回 Japan & International Trade (1) 第4回 Japan & International Trade (2) 第5回 Japan & International Trade (3) 第6回 Yen under Globalization (1) 第7回 Yen under Globalization (1) 第8回 Industrial Structure in Transformation (1) 第9回 Industrial Structure in Transformation (2) 第10回 Industrial Structure in Transformation (3) 第11回 Employment Issues (1) 第12回 Employment Issues (2) 第13回 Economy & Environment (1) 第14回 Economy & Environment (2) 第15回 Conclusions
評価方法・基準	: Discussion (40%) + A written examination (60%)
教材など	: 三橋規宏、内田茂男、池田吉紀 『新・日本経済入門』(日本経済新聞社、2015年版). David Flath, The Japanese Economy (Oxford University Press, 2000).
備考	: The course is primarily intended for two types of students; A. Overseas students (mainly exchange students) who are interested in learning about Japanese economy but whose Japanese is not competent enough to follow the courses in Japanese at KSU. B. Japanese speaking students who are interested in acquiring the knowledge and skills to describe the Japanese economy in English.

■ EE011

科目名	: マクロ経済学特論(1) A
担当者	: 山田 勝裕
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 理論経済学の諸概念がどのように用いられて経済のシミュレーションがどのようになされるかを探る。
授業内容・方法	: 本年度は下記の書物をテキストに用いて分担発表してもらい、必要があれば担当者による解説がおこなわれ、議論を深めるための課題が与えられる。
授業計画	: 第1回 短期・長期の計量モデルとは 第2回 需給ギャップモデル 第3回 価格調整モデル 第4回 単一方程式モデル 第5回 連立方程式モデル 第6回 テキスト輪読-1 第7回 テキスト輪読-2 第8回 テキスト輪読-3 第9回 VARモデルとは 第10回 自己回帰モデル 第11回 構造化 第12回 テキスト輪読-1 第13回 テキスト輪読-2 第14回 テキスト輪読-3 第15回 プログラム紹介
評価方法・基準	: 報告の内容、課題の達成度、授業時の発表20%、発表30%、レポート50%
教材など	: 『社会保障の計量モデル分析-これからの年金・医療・介護』、国立社会保障・人口問題研究所編、東京大学出版会、2010年。
備考	: この書物について担当者は短評を書いたので参考にされたい: 『人口学研究』、日本人口学会機関誌、第47号、2011年。

■ EE012

科目名	: マクロ経済学特論(1) B
担当者	: 山田 勝裕
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 理論経済学の諸概念がどのように用いられて経済のシミュレーションがどのようになされるかを探る。
授業内容・方法	: 本年度は下記の書物をテキストに用いて分担発表してもらい、必要があれば担当者による解説がおこなわれ、議論を深めるための課題が与えられる。
授業計画	: 第1回 OLGモデルとは 第2回 新古典派成長モデル 第3回 新古典派生産関数の性質 第4回 1次同次関数とオイラーの定理 第5回 Diamond (1965)論文－解説1 第6回 Diamond (1965)論文－解説2 第7回 OLGモデルの問題点 第8回 テキスト輪読－1 第9回 テキスト輪読－2 第10回 テキスト輪読－3 第11回 遷移確率モデルとは 第12回 確率過程 第13回 遷移行列の性質 第14回 テキスト輪読－1 第15回 テキスト輪読－2
評価方法・基準	: 報告の内容、課題の達成度、授業時の発表 20%、発表 30%、レポート 50%
教材など	: 『社会保障の計量モデル分析－これからの年金・医療・介護』、国立社会保障・人口問題研究所編、東京大学出版会、2010年。
備考	: この書物について担当者は短評を書いたので参考にされたい：『人口学研究』、日本人口学会機関誌、第47号、2011年。

■ EE013

科目名	: マクロ経済学特論演習(1) I
担当者	: 山田 勝裕
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 担当者作成分析ツール YSCP の数学的展開による証明および具体的問題への適用が出来るように指導する。
授業内容・方法	: 分析ツールを最適化問題、保険数理、計量経済、時系列に便宜上分類し、順次講述する。文献を逐次課題として示すので次回までに読んで理解してることが求められる。
授業計画	: 第1回 線形代数とは 第2回 行列 第3回 行列式 第4回 固有値 第5回 線形計画法とは 第6回 シンプレック法とは 第7回 実行可能解時と基本解 第8回 最適解ー最小と最大 第9回 双対問題 第10回 ガソリン混合問題を解く 第11回 輸送問題 第12回 最適配置問題 第13回 最適パス問題 第14回 ゲーム理論の混合戦略解の求め方 第15回 非線形計画、動的計画など経済理論のトピック
評価方法・基準	: 達成度で評価する、授業時の発表 20%、発表 30%、レポート 50%
教材など	: 古屋『行列と行列式』培風館は必読である。
備考	: 各人のテーマを持っている人はそのテーマに合わせて分析ツールを指導する。

■ EE014

科目名	: マクロ経済学特論演習(1) II
担当者	: 山田 勝裕
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 担当者作成分析ツール YSCP の数学的展開による証明および具体的問題への適用が出来るように指導する。
授業内容・方法	: 分析ツールを最適化問題、保険数理、計量経済、時系列に便宜上分類し、順次講述する。文献を逐次課題として示すので次回までに読んで理解してくることが求められる。
授業計画	: 第1回 非線形計画法とは 第2回 動的計画法とは 第3回 経済動学への応用 第4回 文献研究-1 第5回 文献研究-2 第6回 文献研究-3 第7回 エクセルでモデル作成 第8回 金利計算 第9回 瞬間利子率の理解 第10回 保険数学入門 第11回 リスクの導入 第12回 ポートフォリオ・セレクション 第13回 文献研究-4 第14回 文献研究-5 第15回 文献研究-6
評価方法・基準	: 達成度で評価する、授業時の発表 20%、発表 30%、レポート 50%
教材など	: 小針『確率・統計入門』 岩波書店
備考	: 各人のテーマを持っている人はそのテーマに合わせて分析ツールを指導する。

■ EE015

科目名	: マクロ経済学特論演習(1) III
担当者	: 山田 勝裕
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 担当者作成分析ツール YSCP の数学的展開による証明および具体的問題への適用が出来るように指導する。
授業内容・方法	: 分析ツールを最適化問題、保険数理、計量経済、時系列に便宜上分類し、順次講述する。文献を逐次課題として示すので次回までに読んで理解してることが求められる。
授業計画	: 第1回 計量経済学とは 第2回 回帰分析 第3回 多重回帰分析 第4回 連立方程式の推定 第5回 多重共線性 第6回 自己回帰分析 第7回 文献研究-1 第8回 文献研究-2 第9回 文献研究-3 第10回 文献研究-4 第11回 文献研究-5 第12回 仮説検定とは 第13回 様々な基準の整理-1 第14回 様々な基準の整理-2 第15回 文献研究-6
評価方法・基準	: 達成度で評価する、授業時の発表 20%、発表 30%、レポート 50%
教材など	: J. Johnston & J. DiNardo, Econometric Methods, McGraw-Hill
備考	: 各人のテーマを持っている人はそのテーマに合わせて分析ツールを指導する。

■ EE016

科目名	: マクロ経済学特論演習(1) IV
担当者	: 山田 勝裕
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 担当者作成分析ツール YSCP の数学的展開による証明および具体的問題への適用が出来るように指導する。
授業内容・方法	: 分析ツールを最適化問題、保険数理、計量経済、時系列に便宜上分類し、順次講述する。文献を逐次課題として示すので次回までに読んで理解してることが求められる。
授業計画	: 第1回 時系列分析とは 第2回 スペクトル分析とは 第3回 三角関数 第4回 直交行列の性質 第5回 YSCP プログラムの説明 第6回 太陽黒点の波動を調べる 第7回 経済の波動を調べる 第8回 人口の波動を調べる 第9回 文献研究-1 第10回 文献研究-2 第11回 文献研究-3 第12回 研究指導-1 第13回 研究指導-2 第14回 研究指導-3 第15回 研究指導-4
評価方法・基準	: 達成度で評価する、授業時の発表 20%、発表 30%、レポート 50%
教材など	: 山田勝裕、「経済と人口 一波動分析の試み」、『経済学論究』、2010年3月
備考	: 各人のテーマを持っている人はそのテーマに合わせて分析ツールを指導する。

■ EE017

科目名	: マクロ経済学特論 (2) A
担当者	: 寺井 晃
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 大学院レベルのマクロ経済学を扱う。主なトピックとして、世代重複モデル、動的計画法 (Dynamic Programming)、消費と投資の理論、貨幣の理論、労働市場の理論などをカバーする予定である。
授業内容・方法	: 以下の授業計画に沿って、演習形式で行う。テキストは授業前に各自で準備しておくこと。
授業計画	: 第1回 イン트로ダクション 第2回 ソローモデル 第3回 ソローモデル 第4回 世代重複モデル・動的計画法 第5回 世代重複モデル・動的計画法 第6回 サーチモデル 第7回 サーチモデル 第8回 受講生による報告 第9回 消費 第10回 消費 第11回 投資 第12回 投資 第13回 金融政策 第14回 金融政策 第15回 受講生による報告, まとめ
評価方法・基準	: 授業への参加・報告 (50%)、期末レポート (50%) を総合的に評価
教材など	: 教科書: Romer, <i>Advanced Macroeconomics 4th Edition</i> , McGraw-Hill/Irwin, 2011 Ljungqvist and Sargent, <i>Recursive Macroeconomic Theory third Edition</i> , The MIT Press, 2012 参考書: Adda and Cooper, <i>Dynamic Economics</i> , The MIT Press, 2003 Blanchard and Fischer, <i>Lectures on Macroeconomics</i> , The MIT Press, 1989
備考	:

■ EE018

科目名	: マクロ経済学特論 (2) B
担当者	: 寺井 晃
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 大学院レベルのマクロ経済学を扱う。主なトピックはRBCモデル、DSGEモデルについて。この解法をPC上で行う手法を、カバーする予定である。
授業内容・方法	: 以下の授業計画に沿って、演習形式で行う。PCソフトを授業前に各自で準備しておくこと。
授業計画	: <ul style="list-style-type: none"> 第1回 イン트로ダクション 第2回 DSGEモデルの解法。どのようなモデルか 第3回 DSGEモデルの解法。Blanchard and Kahnの手法 第4回 Matlabによる解法。起動、コードのルール、計算 第5回 Matlabによる解法。DSGEモデルをMatlabコードで書く 第6回 Matlabによる解法。カリブレーション・シミュレーション、パラメータの検討 第7回 受講生による報告 第8回 Dynareの導入。起動、コードのルール 第9回 Dynareによる解法。DSGEモデルをDynareで書く 第10回 Dynareによる解法。パラメータの検討、パラメータの推定 第11回 受講生による報告 第12回 EViewsによる解法。起動、“Model”の使い方 第13回 EViewsによる解法。AIMアルゴリズムでDSGEモデルを解く 第14回 Matlab, Dynare, EViewsでの解法の比較 第15回 受講生による報告
評価方法・基準	: 授業への参加・報告(50%)、期末レポート(50%)を総合的に評価
教材など	: <p>教科書:</p> <p>Burnside “Real Business Cycle Models: Linear Approximation and GMM Estimation,” 1999</p> <p>Barillas, Bhandari, Colacito, Kitao, Matthes, Sargent and Shin “Practicing Dynare,” 2010</p> <p>加藤涼『現代マクロ経済学講義』東洋経済新報社, 2007</p> <p>PCソフト:</p> <p>Matlab, EViews, R. EViewsはバージョン7.1以上(アドインを利用)とし、Rとの関連付けを設定すること。MatlabはDynareが利用できるようにすること。</p>
備考	:

■ EE019

科目名	: マクロ経済学特論演習(2) I
担当者	: 寺井 晃
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文作成を目的とし、関連する論文を輪読する。修士論文は公表される論文であり、こうした公表に耐える論文の作成が本演習の最終的な目的である。演習 I では、教科書の輪読を行い、大学院レベルのマクロ経済学を身につける事が目標である。
授業内容・方法	: 教科書の輪読、受講生の報告。以下の授業計画は、Romer <i>Advanced Macroeconomics</i> の目次に基づく。
授業計画	: 第1回 イン트로ダクション 第2回 ソロー成長モデル 第3回 無限期間モデルと世代重複モデル 第4回 新成長理論 第5回 リアルビジネスサイクル理論 第6回 ケインジアン理論 第7回 名目値調整の不完全性のミクロ的基礎 第8回 受講生による報告 第9回 消費 第10回 投資 第11回 失業 第12回 インフレーションと金融政策 第13回 財政赤字と財政政策 第14回 受講生による報告 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 授業への参加・報告(50%)、期末レポート(50%)を総合的に評価
教材など	: 教科書: Romer, <i>Advanced Macroeconomics 4th Edition</i> , McGraw-Hill/Irwin, 2011
備考	:

■ EE020

科目名	: マクロ経済学特論演習（2）Ⅱ
担当者	: 寺井 晃
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文作成を目的とし、関連する論文を輪読する。修士論文は公表される論文であり、こうした公表に耐える論文の作成が本演習の最終的な目的である。演習Ⅱでは、受講生によるテーマの設定を行い、関連する文献の輪読を行う。受講生の設定したテーマについて、サーベイを行うことが目標である。
授業内容・方法	: 教科書の輪読、受講生の報告。
授業計画	: 第1回 インTRODakション 第2回 論文の選定 第3回 論文の輪読 第4回 論文の輪読 第5回 論文の輪読 第6回 受講生の報告 第7回 論文の選定 第8回 論文の輪読 第9回 論文の輪読 第10回 論文の輪読 第11回 受講生の報告 第12回 論文の選定 第13回 論文の輪読 第14回 論文の輪読 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 授業での報告等(50%)、期末レポート(50%)を総合的に評価
教材など	: 受講生と相談のうえで決める。雑誌に掲載されている様々な論文が教材となる。
備考	:

■ EE021

科目名	: マクロ経済学特論演習（2）Ⅲ
担当者	: 寺井 晃
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文作成を目的とし、関連する論文を輪読する。修士論文は公表される論文であり、こうした公表に耐える論文の作成が本演習の最終的な目的である。演習Ⅲでは、受講生の設定したテーマについて、修士論文でどのようなアプローチを取るのか、分析の対象をどの範囲にするのかなど、具体的に絞り込み、論文の執筆を本格化させることが目標である。
授業内容・方法	: 教科書の輪読、受講生の報告。
授業計画	: 第1回 インTRODakション 第2回 先行研究の分析手法のまとめ 第3回 先行研究の分析手法のまとめ 第4回 先行研究の分析手法のまとめ 第5回 受講生の報告 第6回 理論・データの整理 第7回 理論・データの整理 第8回 理論・データの整理 第9回 受講生の報告 第10回 分析手法の検討 第11回 分析手法の検討 第12回 分析手法の検討 第13回 受講生の報告 第14回 受講生の報告 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 授業での報告等(50%)、期末レポート(50%)を総合的に評価
教材など	: 受講生と相談のうえで決める。雑誌に掲載されている様々な論文が教材となる。
備考	:

■ EE022

科目名	: マクロ経済学特論演習（2）IV
担当者	: 寺井 晃
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文作成を目的とし、関連する論文を輪読する。修士論文は公表される論文であり、こうした公表に耐える論文の作成が本演習の最終的な目的である。演習IVでは、修士論文の完成を目標とする。
授業内容・方法	: 教科書の輪読、受講生の報告。
授業計画	: 第1回 インTRODクシヨN 第2回 先行研究・サーベIの検討 第3回 先行研究・サーベIの検討 第4回 受講生の報告 第5回 論文のオリジナリテIの検討 第6回 論文のオリジナリテIの検討 第7回 論文のオリジナリテIの検討 第8回 受講生の報告 第9回 論文の成果の検討 第10回 論文の成果の検討 第11回 論文の成果の検討 第12回 受講生の報告 第13回 論文の仕上げ 第14回 論文の仕上げ 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 修士論文(100%)を評価
教材など	: 受講生と相談のうえで決める。雑誌に掲載されている様々な論文が教材となる。
備考	:

■ EE023

科目名	: ミクロ経済学特論 (1) A
担当者	: 荒山 裕行
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 理論的に経済主体 (家計および企業) の活動を捉えることを学ぶ
授業内容・方法	: 経済活動を担う経済主体 (家計と企業) に焦点をあて、経済学がこれらをどのように分析するのかについての理解を促す。この理解に立ち、経済における市場の役割と市場システムの限界についての解説を行う。
授業計画	: 第1回 Introduction: What Do Economists Mean by Markets? What is Price? What is Price Theory? 第2回 Household Behavior (1): Utility, Budget Constraint and Consumption 第3回 Household Behavior (2): Substitution Effect, Income Effect and Ordinary Demand Curve 第4回 Household Behavior (3): Applications and Extensions of Demand Theory 第5回 Duality: Compensated Demand Curve and Measurement for Welfare Change 第6回 Firm Behavior (1): Production Functions 第7回 Firm Behavior (2): Cost Functions and Profit Maximization 第8回 Firm Behavior (3): Short-run and Long-run Supply 第9回 Market Equilibrium in the Product Market 第10回 Theory of Pure Exchange: Offer Curve & Contract Curve 第11回 Theory of Pure Exchange: Pareto Efficiency 第12回 The Firm and the Industry: Monopolies, Cartels, and Economy of Scale 第13回 Imperfect Competition and Market Failure: Externality 第14回 Imperfect Competition and Market Failure: Monopoly & Public Goods 第15回 Imperfect Competition and Market Failure: Asymmetric Information
評価方法・基準	: 練習問題(30%)および期末レポート(70%)により評価する。
教材など	: 講義において指示する。
備考	: 講義は、履修生の希望により、英語、日本語、または英語/日本語で行う。

■ EE024

科目名	: ミクロ経済学特論 (1) B
担当者	: 荒山 裕行
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 産業を対象とした視点を学ぶ
授業内容・方法	: 経済を構成する主体である企業の経済活動がどのように産業を形成するのかについての理解を促す。この理解に立ち、一国の経済活動を産業の立場からどのように考え、分析すべきかについて解説する。
授業計画	: 第1回 Classical Theory (Smith), Marginal Utility Theory (Menger, Walras and Jevons) and Neo-classical Theory (Marshall and Pigou) 第2回 Partial Equilibrium: Neo-classical Theory of Firm Behavior: 第3回 Partial Equilibrium: Production Functions at Firm Level 第4回 Partial Equilibrium: Profit Maximization vs. Cost Minimization 第5回 Production Function: Firm Level vs. Aggregate Level 第6回 Market for Factors(1): Marginal Productivity and the Theory of Derived Demand 第7回 Market for Factors (2): Labor Supply and Household Production 第8回 What is General Equilibrium? 第9回 Neo-classical General Equilibrium: Cobb-Douglas Production Function 第10回 Neo-classical General Equilibrium: One-sector Model and Income Distribution 第11回 Neo-classical General Equilibrium: Neutral Technological Progress 第12回 Neo-classical General Equilibrium: One-sector Growth Model 第13回 Neo-classical General Equilibrium: National Income Accounting for a One-sector Model 第14回 Heckscher-Ohlin-Samuelson model (HOS) General Equilibrium : Structure 第15回 Heckscher-Ohlin-Samuelson model (HOS) General Equilibrium : Analysis
評価方法・基準	: 練習問題(30%)および期末レポート(70%)により評価する。
教材など	: 講義において指示する。
備考	: 講義は、履修生の希望により、英語、日本語、または英語/日本語で行う。

■ EE025

科目名	: ミクロ経済学特論演習(1) I
担当者	: 荒山 裕行
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 経済理論の応用について学ぶ
授業内容・方法	: この演習は、「ミクロ経済学特論(1) A」の各講義で取り上げる内容に即した練習問題の理解の仕方、解き方、応用の仕方についての報告とディスカッションを通し、経済学の理解を深めてもらうことを目的とする。
授業計画	: 第1回 Introduction: What Do Economists Mean by Markets? What is Price? What is Price Theory? 第2回 Household Behavior (1): Utility, Budget Constraint and Consumption 第3回 Household Behavior (2): Substitution Effect, Income Effect and Ordinary Demand Curve 第4回 Household Behavior (3): Applications and Extensions of Demand Theory 第5回 Duality: Compensated Demand Curve and Measurement for Welfare Change 第6回 Firm Behavior (1): Production Functions 第7回 Firm Behavior (2): Cost Functions and Profit Maximization 第8回 Firm Behavior (3): Short-run and Long-run Supply 第9回 Market Equilibrium in the Product Market 第10回 Theory of Pure Exchange: Offer Curve & Contract Curve 第11回 Theory of Pure Exchange: Pareto Efficiency 第12回 The Firm and the Industry: Monopolies, Cartels, and Economy of Scale 第13回 Imperfect Competition and Market Failure: Externality 第14回 Imperfect Competition and Market Failure: Monopoly & Public Goods 第15回 Imperfect Competition and Market Failure: Asymmetric Information
評価方法・基準	: 課題の提出(50%)および演習における報告(50%)で評価とする。
教材など	: 「ミクロ経済学特論(1) A」に準ずる。
備考	: 演習は、履修生の希望により、英語、日本語、または英語/日本語で行う。

■ EE026

科目名	: ミクロ経済学特論演習(1) II
担当者	: 荒山 裕行
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 経済理論の応用について学ぶ
授業内容・方法	: この演習は、「ミクロ経済学特論(1) B」の各講義で取り上げる内容に即した練習問題の理解の仕方、解き方、応用の仕方についての報告とディスカッションを通し、経済学の理解を深めてもらうことを目的とする。
授業計画	: 第1回 Classical Theory (Smith), Marginal Utility Theory (Menger, Walras and Jevons) and Neo-classical Theory (Marshall and Pigou) 第2回 Partial Equilibrium: Neo-classical Theory of Firm Behavior: 第3回 Partial Equilibrium: Production Functions at Firm Level 第4回 Partial Equilibrium: Profit Maximization vs. Cost Minimization 第5回 Production Function: Firm Level vs. Aggregate Level 第6回 Market for Factors(1): Marginal Productivity and the Theory of Derived Demand 第7回 Market for Factors (2): Labor Supply and Household Production 第8回 What is General Equilibrium? 第9回 Neo-classical General Equilibrium: Cobb-Douglas Production Function 第10回 Neo-classical General Equilibrium: One-sector Model and Income Distribution 第11回 Neo-classical General Equilibrium: Neutral Technological Progress 第12回 Neo-classical General Equilibrium: One-sector Growth Model 第13回 Neo-classical General Equilibrium: National Income Accounting for a One-sector Model 第14回 Heckscher-Ohlin-Samuelson model (HOS) General Equilibrium(I) 第15回 Heckscher-Ohlin-Samuelson model (HOS) General Equilibrium(II)
評価方法・基準	: 課題の提出(50%)および演習における報告(50%)で評価とする。
教材など	: 「ミクロ経済学特論(1) A」に準ずる。
備考	: 演習は、履修生の希望により、英語、日本語、または英語/日本語で行う。

■ EE027

科目名	: ミクロ経済学特論演習（1）Ⅲ
担当者	: 荒山 裕行
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文・博士論文で扱うべきテーマを絞り込む
授業内容・方法	: 修士論文や博士論文を書くとはどういうことかについての理解を促し、各自が関心のあるテーマに沿った関連分野の代表的論文を読みその報告を行うことを通し、関連研究のサーベイを進める。論文で扱う研究手法を絞り込み、それが確定した後、理論モデルの確定と実証分析の準備を開始する。
授業計画	: 第1回 論文を書くとはどういうことか？ 第2回 論文のスタイルと執筆要項について 第3回 関連論分のサーベイ 1（検索エンジン） 第4回 関連論分のサーベイ 2（キーワード） 第5回 関連論分のサーベイ 3（JEL 分類） 第6回 関連論分のサーベイ 4（引用文献の整理） 第7回 研究テーマの決定と研究手法について 第8回 研究手法の検討 1（理論モデル） 第9回 研究手法の検討 2（変数とパラメーター） 第10回 研究手法の検討 3（比較静学） 第11回 研究手法の検討 4（理論的インプリケーション） 第12回 理論モデルと実証分析について 第13回 理論モデルと実証分析 1（データ） 第14回 理論モデルと実証分析 2（計量モデル） 第15回 理論モデルと実証分析報告 3（推計方法）
評価方法・基準	: 演習における報告(50%)および期末レポート(50%)で評価を行う。
教材など	: 研究の進展に併せ指示する。
備考	: 演習は、履修生の希望により、英語、日本語、または英語/日本語で行う。

■ EE028

科目名	: ミクロ経済学特論演習(1) IV
担当者	: 荒山 裕行
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 論文を完成する
授業内容・方法	: 一貫した論理展開により論文を構成することについての理解を促す。すでに進められた関連研究のサーベイ、基本的理論モデルおよび予備的実証分析に基づき目次(案)を作成し、それに基づき本論文の執筆を進める。進捗状況の報告に即して、論文指導を行う。
授業計画	: 第1回 論理の流れとはなにか? 第2回 関連論文のサーベイ、基本的理論モデルおよび実証分析1(式および図) 第3回 関連論文のサーベイ、基本的理論モデルおよび実証分析2(ノーテーション) 第4回 論文の作成1(目次の作成) 第5回 論文の作成2(図表の作成) 第6回 論文の作成3(参考文献、引用と注) 第7回 論文の作成4(文体と文章表現) 第8回 進捗部分の報告とその確認・指導1(論文スタイルの統一) 第9回 進捗部分の報告とその確認・指導2(章立て、節立て、文、段落) 第10回 中間報告会 第11回 論文の仕上とその確認・指導1(投稿と査読の受け方) 第12回 論文の仕上とその確認・指導2(プレゼンテーション) 第13回 論文の仕上とその確認・指導3(ディスカスタントおよびコメンテーターの役割) 第14回 論文の仕上とその確認・指導4(アブストラクト(論文要旨)と参考文献リスト) 第15回 最終報告会
評価方法・基準	: 演習における報告(50%)および期末レポート(50%)で評価を行う。論文が提出された場合は期末レポートに代えその評価(50%)をもって評価とする。
教材など	: 研究の進展に併せ指示する。
備考	: 演習は、履修生の希望により、英語、日本語、または英語/日本語で行う。

■ EE029

科目名	: ミクロ経済学特論 (2) A
担当者	: 小田 秀典
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 基礎的なゲーム理論の習得
授業内容・方法	: 講義
授業計画	: 第1回 Constrained Optimisation 1
	: 第2回 Constrained Optimisation
	: 第3回 Constrained Optimisation
	: 第4回 Dynamical System
	: 第5回 Dynamical System
	: 第6回 Dynamical System
	: 第7回 Simple Decision Model
	: 第8回 Simple Decision Processes
	: 第9回 Markov Decision Processes
	: 第10回 Static Games
	: 第11回 Finite Dynamic Games
	: 第12回 Games with Continuous Strategy Sets
	: 第13回 Infinite Dynamic Games
	: 第14回 Population Games
	: 第15回 Replicator Dynamics
評価方法・基準	: 授業時の発表 50%、レポート 50%
教材など	: James N. Webb “Game Theory: Decisions, Interactions and Evolution,” Springer 2007
備考	:

■ EE030

科目名	: ミクロ経済学特論 (2) B
担当者	: 小田 秀典
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 基礎的なオークション理論の習得
授業内容・方法	: 講義
授業計画	: 第1回 Continuous Distributions 第2回 Stochastic Orders 第3回 Order Statistics 第4回 Affiliated Random Variables 第5回 Linear Algebra 第6回 Games of Incomplete Information 第7回 Private Value Auctions 第8回 Revenue Equivalence Principle 第9回 Qualifications and Extensions 第10回 Mechanism Design 第11回 Auctions with Independent Values 第12回 Linkage Principle 第13回 Asymmetries 第14回 Efficiency 第15回 Bidding Rings
評価方法・基準	: 授業時の発表 50%、レポート 50%
教材など	: Vijay Krishna “Auction Theory (second edition),” Academic Press, 2010
備考	:

■ EE031

科目名	: ミクロ経済学特論演習 (2) I
担当者	: 小田 秀典
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 基礎的なゲーム理論の習得
授業内容・方法	: 教科書の演習問題を解いて報告する。
授業計画	: 第1回 Constrained Optimisation 1 第2回 Constrained Optimisation 第3回 Constrained Optimisation 第4回 Dynamical System 第5回 Dynamical System 第6回 Dynamical System 第7回 Simple Decision Model 第8回 Simple Decision Processes 第9回 Markov Decision Processes 第10回 Static Games 第11回 Finite Dynamic Games 第12回 Games with Continuous Strategy Sets 第13回 Infinite Dynamic Games 第14回 Population Games 第15回 Replicator Dynamics
評価方法・基準	: 授業時の発表 50%、レポート 50%
教材など	: James N. Webb “Game Theory: Decisions, Interactions and Evolution,” Springer 2007
備考	:

■ EE032

科目名	: ミクロ経済学特論演習(2) II
担当者	: 小田 秀典
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 基礎的なオークション理論の習得
授業内容・方法	: 教科書の演習問題を解いて報告する。
授業計画	: 第1回 Continuous Distributions 第2回 Stochastic Orders 第3回 Order Statistics 第4回 Affiliated Random Variables 第5回 Linear Algebra 第6回 Games of Incomplete Information 第7回 Private Value Auctions 第8回 Revenue Equivalence Principle 第9回 Qualifications and Extensions 第10回 Mechanism Design 第11回 Auctions with Independent Values 第12回 Linkage Principle 第13回 Asymmetries 第14回 Efficiency 第15回 Bidding Rings
評価方法・基準	: 授業時の発表 50%、レポート 50%
教材など	: Vijay Krishna “Auction Theory (second edition),” Academic Press, 2010
備考	:

■ EE033

科目名	: ミクロ経済学特論演習(2) III
担当者	: 小田 秀典
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 基礎的な実験経済学の習得
授業内容・方法	: 各自が教科書練を読んでくることを前提に練習問題を解く。
授業計画	: 第1回 Randomized Strategies 第2回 Monopoly and Cournot Markets 第3回 Vertical Market Relationships 第4回 Market Institutions and Power 第5回 Collusion and Price Competition 第6回 Lemons and Matching Markets 第7回 Asset Markets and Price Bubbles 第8回 Ultimatum Bargaining 第9回 Principal-Agent Games 第10回 Voluntary Contributions 第11回 The Volunteer's Dilemma 第12回 Common Pool Resources 第13回 Rent Seeking 第14回 Voting and Politics Experiments 第15回 Private Value Auctions
評価方法・基準	: 授業時の発表 50%、レポート 50%
教材など	: CHARLES A. HOLT "Markets, Games, & Strategic Behavior," ADDISON-WESLEY, 2007
備考	:

■ EE034

科目名	: ミクロ経済学特論演習(2) IV
担当者	: 小田 秀典
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 基礎的な実験経済学の習得
授業内容・方法	: 各自が教科書練を読んでもることを前提に練習問題を解く。
授業計画	: 第1回 The Takeover Game 第2回 Common-Value Auctions 第3回 Combinatorial Auctions 第4回 Multi-Stage Games 第5回 Matching Pennies 第6回 The Traveler's Dilemma 第7回 Coordination Games 第8回 Probability Matching 第9回 Lottery Choice 第10回 In Search for 第11回 Bayes' Rule 第12回 Information Cascade 第13回 Statistical Discrimination 第14回 Signaling Game 第15回 Prediction Market
評価方法・基準	: 授業時の発表 50%、レポート 50%
教材など	: CHARLES A. HOLT "Markets, Games, & Strategic Behavior," ADDISON-WESLEY, 2007
備考	:

■ EE041

科目名	: 経済史特論A
担当者	: 玉木 俊明
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 近世ヨーロッパ経済の理解
授業内容・方法	: 16世紀にオランダがヘゲモニーを握ってから、17世紀中頃までのヨーロッパ経済について貿易史を中心に講義する。
授業計画	: 第1回 商業資本主義とはなにか1 第2回 商業資本主義とはなにか2 第3回 商業資本主義とはなにか3 第4回 地中海の衰退のバルト海の台頭1 第5回 地中海の衰退のバルト海の台頭2 第6回 地中海の衰退のバルト海の台頭3 第7回 財政=軍事国家論をめぐって1 第8回 財政=軍事国家論をめぐって2 第9回 「穀物の時代」のバルト海貿易1 第10回 「穀物の時代」のバルト海貿易2 第11回 「穀物の時代」のバルト海貿易3 第12回 大国時代のスウェーデンの貿易1 第13回 大国時代のスウェーデンの貿易2 第14回 大国時代のスウェーデンの貿易3 第15回 大国時代のスウェーデンの貿易4
評価方法・基準	: 授業中の発表 20% レポート 80%
教材など	: 玉木俊明『北方ヨーロッパの商業と経済 1550-1815』(知泉書館、2008)
備考	:

■ EE042

科目名	: 経済史特論B
担当者	: 玉木 俊明
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: ヨーロッパ経済の近世から近代への移行
授業内容・方法	: オランダのヘゲモニーが衰え、イギリスがヘゲモニー国家になる過程を扱う。
授業計画	: 第1回 「原材料の時代」のバルト海貿易1 第2回 「原材料の時代」のバルト海貿易2 第3回 「原材料の時代」のバルト海貿易3 第4回 イギリスの白海・バルト海貿易1 第5回 イギリスの白海・バルト海貿易2 第6回 イギリスの白海・バルト海貿易3 第7回 近世ハンブルクの貿易1 第8回 近世ハンブルクの貿易2 第9回 近世ハンブルクの貿易3 第10回 近世ハンブルクの貿易4 第11回 世界貿易の拡大と北方ヨーロッパ1 第12回 世界貿易の拡大と北方ヨーロッパ2 第13回 アムステルダム・ロンドン・ハンブルクの関係1 第14回 アムステルダム・ロンドン・ハンブルクの関係2 第15回 アムステルダム・ロンドン・ハンブルクの関係3
評価方法・基準	: 授業中の発表 20% レポート 80%
教材など	: 玉木俊明『北方ヨーロッパの商業と経済 1550-1815』（知泉書館、2008）
備考	:

■ EE043

科目名	: 経済史特論演習 I
担当者	: 玉木 俊明
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 近世イギリスの史料の読解
授業内容・方法	: 近世経済の史料として有名なゴールドスミス・ライブラリーから史料をコピーして読む。
授業計画	: 第1回 史料とはなにか 第2回 史料をどう読むか 第3回 史料読解(1) 第4回 史料読解(2) 第5回 史料読解(3) 第6回 史料読解(4) 第7回 史料読解(5) 第8回 史料読解(6) 第9回 史料読解(7) 第10回 史料読解(8) 第11回 史料読解(9) 第12回 史料読解(10) 第13回 史料読解(11) 第14回 史料読解(12) 第15回 史料読解(13)
評価方法・基準	: 史料読解力(平常点)100%
教材など	: プリントを配付
備考	:

■ EE044

科目名	: 経済史特論演習Ⅱ
担当者	: 玉木 俊明
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 近世イギリスの史料の読解
授業内容・方法	: 近世経済の史料として有名なゴールドスミス・ライブラリーから史料をコピーして読む。
授業計画	: 第1回 史料論について 第2回 史料の収集法 第3回 史料読解(1) 第4回 史料読解(2) 第5回 史料読解(3) 第6回 史料読解(4) 第7回 史料読解(5) 第8回 史料読解(6) 第9回 史料読解(7) 第10回 史料読解(8) 第11回 史料読解(9) 第12回 史料読解(10) 第13回 史料読解(11) 第14回 史料読解(12) 第15回 史料読解(13)
評価方法・基準	: 史料読解力(平常点)100%
教材など	: プリントを配付
備考	:

■ EE045

科目名	: 経済史特論演習Ⅲ
担当者	: 玉木 俊明
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 近世ヨーロッパ大陸の史料の読解
授業内容・方法	: 近世経済の史料として有名なエーアソン海峡通行税台帳の分析。
授業計画	: 第1回 エーアソン海峡通行税台帳について 第2回 エーアソン海峡通行税台帳の研究史 第3回 史料読解(1) 第4回 史料読解(2) 第5回 史料読解(3) 第6回 史料読解(4) 第7回 史料読解(5) 第8回 史料読解(6) 第9回 史料読解(7) 第10回 史料読解(8) 第11回 史料読解(9) 第12回 史料読解(10) 第13回 史料読解(11) 第14回 史料読解(12) 第15回 史料読解(13)
評価方法・基準	: 史料読解力(平常点)100%
教材など	: プリントを配付
備考	:

■ EE046

科目名	: 経済史特論演習IV
担当者	: 玉木 俊明
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文の作成計画および全体構想にしたがって、修士論文を完成する。
授業内容・方法	: 完成度の高い修士論文をめざして、発表と質疑応答を繰り返して、修士論文の追加・削除・訂正を行なっていく。
授業計画	: <ul style="list-style-type: none"> 第1回 修士論文の構想の発表 1 第2回 修士論文の構想の発表 2 第3回 修士論文(第1章)に関する発表と質疑応答 第4回 修士論文(第1章)の手直し 第5回 修士論文(2章)に関する発表と質疑応答 第6回 修士論文(2章)の手直し 第7回 修士論文(3章)に関する発表と質疑応答 第8回 修士論文(3章)の手直し 第9回 修士論文(4章)に関する発表と質疑応答 第10回 修士論文(4章)の手直し 第11回 修士論文(結論部)に関する発表と質疑応答 第12回 修士論文(結論部)に関する手直し 第13回 修士論文全体の発表と質疑応答 第14回 修士論文に関する部分的手直し 第15回 修士論文に全体に関するコメント
評価方法・基準	: レポート 70%: 授業中の質疑応答 30%
教材など	: テーマに関連する文献を授業時に配布
備考	:

■ EE047

科目名	: 西洋経済史特論A
担当者	: 齊藤 健太郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 18世紀~20世紀前半の西欧経済に関する専門的な理解を深めることを目的とする。
授業内容・方法	: 数量経済史の英文テキストを読みながら、経済史研究に必要な数量的手法について学ぶ。
授業計画	: 第1回 Introduction 第2回 Descriptive statistics 第3回 Correlation 第4回 Simple linear regression 第5回 Standard errors and confidence intervals 第6回 Hypothesis testing 第7回 Multiple relationships 第8回 The classical linear regression model 第9回 Dummy variables and lagged values 第10回 Violating the assumptions of the classical linear regression model 第11回 Non-linear model and functional analysis 第12回 Case studies 1: Unemployment in Britain 第13回 Case studies 2: Emigration from Ireland 第14回 Case studies 3: the Old Poor Law in England 第15回 Case studies 4: Leaving home in the United States, 1850-1860
評価方法・基準	: 平常点(テキストの読解・質疑応答)40%、レポートの提出・その内容60%で評価する。
教材など	: C. Feinstein and M. Thom, Making History Count; a primer in quantitative methods for historians (Cambridge, 2002)
備考	:

■ EE048

科目名	: 西洋経済史特論B
担当者	: 齊藤 健太郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 16世紀～20世紀前半の西欧経済に関する専門的な理解を深めることを目的とする。
授業内容・方法	: 16～20世紀の生活水準の変動および地域間市場統合について議論する。広く欧米諸国に関して、最近の研究動向の紹介・検討を行う。テキストは英文を用いる。
授業計画	: <ul style="list-style-type: none"> 第1回 Introduction on Market Integration 第2回 Bread and Enlightenment; the quest for price stability and free trade in eighteenth-century Europe (1) 第3回 Bread and Enlightenment; the quest for price stability and free trade in eighteenth-century Europe (2) 第4回 Markets, mortality and human capabilities (1) 第5回 Markets, mortality and human capabilities (2) 第6回 Harvest fluctuations, storage and grain-price responses (1) 第7回 Harvest fluctuations, storage and grain-price responses (2) 第8回 Market failures and the regulation of grain markets: a new interpretation (1) 第9回 Market failures and the regulation of grain markets: a new interpretation (2) 第10回 Market integration and the stabilization of grain prices in Europe, 1500-1900 (1) 第11回 Market integration and the stabilization of grain prices in Europe, 1500-1900 (2) 第12回 Authoritarian liberalism and the decline of grain market regulation in Europe, 1760-1860 (1) 第13回 Authoritarian liberalism and the decline of grain market regulation in Europe, 1760-1860 (2) 第14回 Authoritarian liberalism and the decline of grain market regulation in Europe, 1760-1860 (3) 第15回 Conclusions
評価方法・基準	: 平常点(テキストの読解・質疑応答)40%、レポートの提出・その内容60%で評価する。
教材など	: Persson, K.G., <i>Grain Market in Europe, 1500-1900, Integration and deregulation</i> (Cambridge, 1999). 最初の講義で文献リストを配付する。
備考	:

■ EE049

科目名	西洋経済史特論演習 I	
担当者	齊藤 健太郎	
週時間数	2	
単位数	2	
配当年次	1年	
開講期間	春学期	
授業目標	本演習では、18～20世紀の欧米の労働市場と労使関係に関する問題を検討する。特に各自が実際に資料を収集・分析し、論文を作成する方法を身に付けることを目的とする。	
授業内容・方法	19世紀のイギリス議会文書Nineteenth/Twentieth Century House of Commons Parliamentary Papers を用いて、一次資料の読み方を習得する。演習 I では、19世紀イギリス労働史の基本的なテーマに関して、議会資料・二次文献を検索、情報を収集・分析することが求められる。	
授業計画	<p>第1回 Introduction (1) 19世紀のイギリス労働史</p> <p>第2回 Introduction (2) イギリス議会資料の構成</p> <p>第3回 Combination Law をめぐる文献読解</p> <p>第4回 Combination Law をめぐる資料読解 (1)</p> <p>第5回 Combination Law をめぐる資料読解 (2)</p> <p>第6回 Combination Law をめぐる資料読解 (3)</p> <p>第7回 炭鉱災害に関する文献読解</p> <p>第8回 Accidents in Mines の読解 (1)</p> <p>第9回 Accidents in Mines の読解 (2)</p> <p>第10回 Accidents in Mines の読解 (3)</p> <p>第11回 Conciliation Act をめぐる文献読解</p> <p>第12回 Conciliation Act をめぐる資料読解 (1)</p> <p>第13回 Conciliation Act をめぐる資料読解 (2)</p> <p>第14回 Conciliation Act をめぐる資料読解 (3)</p> <p>第15回 Conclusions</p>	
評価方法・基準	平常点(文献の読解・質疑応答)40%、レポートの提出30%・その内容30%で評価する。	
教材など	19世紀のイギリス議会文書Nineteenth/Twentieth Century House of Commons Parliamentary Papers	
備考	テーマについては、参加者と相談のうえ変更することがある。	

■ EE050

科目名	: 西洋経済史特論演習Ⅱ
担当者	: 齊藤 健太郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 本演習では、18～20世紀の欧米の労働市場と労使関係に関する問題を検討する。特に各自が実際に資料を収集・分析し、論文を作成する方法を身に付けることを目的とする。
授業内容・方法	: 20世紀のイギリス議会文書 Nineteenth/Twentieth Century House of Commons Parliamentary Papers を用いて、一次資料の読み方を習得する。演習Ⅱでは、イギリス労使関係に関する基本的なテーマを選び、議会資料・二次文献を検索、情報を収集・分析する。
授業計画	: 第1回 Introduction (1) 20世紀のイギリス労働史 第2回 Introduction (2) Re. Archives in Britain 第3回 Industrial Dispute Act をめぐる文献読解 第4回 Industrial Dispute Act の読解 (1) 第5回 Industrial Dispute Act の読解 (2) 第6回 Industrial Dispute Act の読解 (3) 第7回 第二次大戦期の Manpower Policy の検討 第8回 Manpower Policy に関する資料読解 (1) 第9回 Manpower Policy に関する資料読解 (2) 第10回 Manpower Policy に関する資料読解 (3) 第11回 Industrial Relation Act に関する文献読解 第12回 Industrial Relation Act の読解 (1) 第13回 Industrial Relation Act の読解 (2) 第14回 Industrial Relation Act の読解 (3) 第15回 Conclusions
評価方法・基準	: 平常点(文献の読解・質疑応答)40%、レポートの提出30%・その内容30%で評価する。
教材など	: 20世紀のイギリス議会文書 Nineteenth/Twentieth Century House of Commons Parliamentary Papers
備考	: テーマについては、参加者と相談のうえ変更することがある。

■ EE051

科目名	: 西洋経済史特論演習Ⅲ
担当者	: 齊藤 健太郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 本演習では、18～20世紀の欧米の労働市場と労使関係に関する問題を検討する。特に各自が実際に資料を収集・分析し、論文を作成する方法を身に付けることを目的とする。
授業内容・方法	: 演習Ⅲでは、参加者各自のそれぞれの研究テーマを決定し、テーマに関する研究史・文献史的レポート Bibliographical Essay を作成する。作成の過程では、収集した文献に関して、検討・議論・報告することが求められる。また、テーマに関する一次資料を収集する。
授業計画	: 第1回 全体のガイダンス 第2回 参加者による研究テーマの設定（1） 第3回 参加者による研究テーマの設定（1） 第4回 参考文献を中心とした報告（1） 第5回 参考文献を中心とした報告（2） 第6回 参考文献を中心とした報告（3） 第7回 参考文献を中心とした報告（4） 第8回 ビブリオ全体に関する中間報告（1） 第9回 参考文献を中心とした報告（5） 第10回 参考文献を中心とした報告（6） 第11回 参考文献を中心とした報告（7） 第12回 参考文献を中心とした報告（8） 第13回 ビブリオ全体に関する中間報告（2） 第14回 全体のまとめ（1） 第15回 全体のまとめ（2）
評価方法・基準	: 平常点(文献の読解・質疑応答)40%、ビブリオグラフィカル・エッセイの提出とその内容で60%を評価する。
教材など	: 原文による文献または資料を読みながら、西洋経済史に関する諸問題と研究上の諸方法について検討する。
備考	:

■ EE052

科目名	: 西洋経済史特論演習Ⅳ
担当者	: 齊藤 健太郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 本演習では、18～20世紀の欧米の労働市場と労使関係に関する問題を検討する。特に各自が実際に資料を収集・分析し、論文を作成する方法を身に付けることを目的とする。
授業内容・方法	: 参加者が決定したテーマにもとづいて、実証研究をおこなう。演習Ⅳでは、随時、研究の進捗を報告・議論する。また、それらの結果の文書化を通じて学術的論文の作成方法を学ぶ。
授業計画	: 第1回 全体のガイダンス 第2回 問題点の確認と仮説の設定など 第3回 資料の選択（1） 第4回 資料の選択（2） 第5回 資料の読解と報告（1） 第6回 資料の読解と報告（2） 第7回 資料の読解と報告（3） 第8回 中間まとめ（1）：仮説の方法の再確認 第9回 資料の読解と報告（4） 第10回 資料の読解と報告（5） 第11回 資料の読解と報告（6） 第12回 論文作成の方法など（1） 第13回 実証からの結論の検討と修正 第14回 修正後の結論の再検討 第15回 全体のまとめ：結論の確定と展望
評価方法・基準	: 平常点(資料の読解・質疑応答)40%、レポートの提出30%・その内容30%で評価する。
教材など	: 演習のはじめに詳細な文献目録を配付する。
備考	:

■ EE053

科目名	: 日本経済史特論A
担当者	: 山内 太
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 近世期から明治期にかけての日本経済に関する理解を深めることを目標とする。
授業内容・方法	: 近世期から明治期にかけての日本経済史に関するテキスト、専門書、論文をできるだけたくさん読み、討議を行い、日本経済に関する理解を深める。
授業計画	: 第1回 ガイダンス。授業進行のための打合せ 第2回 日本経済史関係基本テキスト読解、討議 第3回 日本経済史関係基本テキスト読解、討議 第4回 日本経済史関係基本テキスト読解、討議 第5回 日本経済史関係基本テキスト読解、討議 第6回 日本経済史関係基本テキスト読解、討議 第7回 日本経済史関係古典読解、討議 第8回 日本経済史関係古典読解、討議 第9回 日本経済史関係古典読解、討議 第10回 日本経済史関係専門書読解、討議 第11回 日本経済史関係専門書読解、討議 第12回 日本経済史関係専門書読解、討議 第13回 日本経済史関係専門論文読解、討議 第14回 日本経済史関係専門論文読解、討議 第15回 総括レポート提出、討議
評価方法・基準	: 平常点(授業への積極的参加、レジュメ・報告の内容、討議の内容等)60%とレポート40%
教材など	: 受講生と相談の上、決定する。
備考	:

■ EE054

科目名	: 日本経済史特論B
担当者	: 山内 太
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 第一次世界大戦期から太平洋戦争期にかけての日本経済に関する理解を深めることを目標とする。
授業内容・方法	: 第一次世界大戦期から太平洋戦争期にかけての日本経済史に関するテキスト、専門書、論文をできるだけたくさん読み、討議を行い、日本経済に関する理解を深める。
授業計画	: 第1回 ガイダンス。授業進行のための打合せ 第2回 日本経済史関係基本テキスト読解、討議 第3回 日本経済史関係基本テキスト読解、討議 第4回 日本経済史関係基本テキスト読解、討議 第5回 日本経済史関係基本テキスト読解、討議 第6回 日本経済史関係基本テキスト読解、討議 第7回 日本経済史関係古典読解、討議 第8回 日本経済史関係古典読解、討議 第9回 日本経済史関係古典読解、討議 第10回 日本経済史関係専門書読解、討議 第11回 日本経済史関係専門書読解、討議 第12回 日本経済史関係専門書読解、討議 第13回 日本経済史関係専門論文読解、討議 第14回 日本経済史関係専門論文読解、討議 第15回 総括レポート提出、討議
評価方法・基準	: 平常点(授業への積極的参加、レジュメ・報告の内容、討議の内容等)60%とレポート40%
教材など	: 受講生と相談の上、決定する。
備考	:

■ EE055

科目名	: 日本経済史特論演習 I
担当者	: 山内 太
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 近世・近代文書資料に慣れ、それを読めるようになる。
授業内容・方法	: テキストや実際の古文書を用いて、古文書読解を行う。
授業計画	: 第1回 ガイダンス、打合せ 第2回 古文書テキストを用いての授業 第3回 古文書テキストを用いての授業 第4回 古文書テキストを用いての授業 第5回 古文書テキストを用いての授業 第6回 基礎的な古文書読解 第7回 基礎的な古文書読解 第8回 基礎的な古文書読解 第9回 基礎的な古文書読解 第10回 基礎的な古文書読解 第11回 古文書読解 第12回 古文書読解 第13回 古文書読解 第14回 古文書を使ったレポート報告 第15回 古文書を使ったレポート報告
評価方法・基準	: 平常点 (演習への取り組み) 60%、レポート報告内容 40%
教材など	: 受講生と相談のうえ決定する。
備考	:

■ EE056

科目名	: 日本経済史特論演習Ⅱ
担当者	: 山内 太
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 論文作成の準備を行う。
授業内容・方法	: 各自の研究テーマ・論文テーマの絞り込み、それに関する先行研究を確認し、討議する。 また研究テーマのための資料収集、検討を行う。
授業計画	: 第1回 ガイダンス、打合せ 第2回 研究テーマに関するディスカッション 第3回 研究テーマに関するディスカッション 第4回 研究テーマに関する先行研究一覧作成・検討 第5回 研究テーマに関する先行研究検討 第6回 研究テーマに関する先行研究検討 第7回 研究テーマに関する先行研究検討 第8回 研究テーマに関する先行研究検討 第9回 研究テーマに関する再検討 第10回 研究テーマに関する資料一覧作成・検討 第11回 研究テーマに関する資料検討 第12回 研究テーマに関する資料検討 第13回 研究テーマに関する資料検討 第14回 研究テーマに関する資料検討 第15回 論文のあらまし、目次検討
評価方法・基準	: 平常点（演習への取り組み）100%
教材など	: 受講生と相談のうえ決定する。
備考	:

■ EE057

科目名	: 日本経済史特論演習Ⅲ
担当者	: 山内 太
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 論文作成の準備を行う。
授業内容・方法	: 各自の研究・論文テーマに関するデータ・資料を確認・検討するとともに、論文の内容検討を進める。
授業計画	: 第1回 ガイダンス、打合せ 第2回 研究テーマに関するデータ・資料検討 第3回 研究テーマに関するデータ・資料検討 第4回 研究テーマに関するデータ・資料検討 第5回 研究テーマに関するデータ・資料検討 第6回 研究テーマに関する内容発表・検討 第7回 研究テーマに関する内容発表・検討 第8回 研究テーマに関する内容発表・検討 第9回 研究テーマに関する内容発表・検討 第10回 研究テーマに関する内容発表・検討 第11回 研究テーマに関する内容発表・検討 第12回 研究テーマに関する内容発表・検討 第13回 研究テーマに関する内容発表・検討 第14回 研究テーマに関する内容発表・検討 第15回 論文のあらすじ、目次検討
評価方法・基準	: 平常点（演習への取り組み）100%
教材など	: 受講生と相談のうえ決定する。
備考	:

■ EE058

科目名	: 日本経済史特論演習Ⅳ
担当者	: 山内 太
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 論文を完成する。
授業内容・方法	: 論文の添削、検討等、本格的な論文執筆のための指導を行う。
授業計画	: 第1回 ガイダンス、打合せ 第2回 論文執筆指導 第3回 論文執筆指導 第4回 論文執筆指導 第5回 論文執筆指導 第6回 論文執筆指導 第7回 論文執筆指導 第8回 論文執筆指導 第9回 論文執筆指導 第10回 論文執筆指導 第11回 論文内容検討 第12回 論文内容検討 第13回 論文文体指導 第14回 論文最終チェック 第15回 論文評価
評価方法・基準	: 提出論文評価 (100%)
教材など	: 受講生と相談のうえ決定する。
備考	:

■ EE065

科目名	: 産業組織論特論A
担当者	: 北村 紘
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 大学院レベルの産業組織論の基本的な分析ツールを身に付け、産業組織論の最先端の論文を自分の力で読めるようになることを目標とする。
授業内容・方法	: 以下の授業計画に沿って学生が発表する形で授業を進める予定。場合によっては、教員による講義形式も採用する。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 二次関数の微分 第3回 線形需要曲線の効用最大化からの導出 第4回 独占企業の利潤最大化 第5回 社会余剰の計算 第6回 ゲーム理論の基礎 第7回 クールノー競争 第8回 ベルトラン競争 第9回 差別化ベルトラン 第10回 ホテリングの立地モデル 第11回 動学ゲーム 第12回 参入阻止ゲーム 第13回 N企業クールノー競争と自由参入 第14回 自由参入と過剰参入定理 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 発表 50%、期末レポート 50%
教材など	: 小田切宏之 (2001) 『新しい産業組織論：理論・実証・政策』有斐閣
備考	:

■ EE066

科目名	: 産業組織論特論B
担当者	: 北村 紘
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 大学院レベルの産業組織論の基本的な分析ツールを身に付け、産業組織論の最先端の論文を自分の力で読めるようになることを目標とする。
授業内容・方法	: 以下の授業計画に沿って学生が発表する形で授業を進める予定。場合によっては、教員による講義形式も採用する。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 合併と独占禁止法 第3回 合併のパラドクス 第4回 合併と社会厚生 第5回 研究開発と特許制度 第6回 研究開発のモデル分析 第7回 共同開発と社会厚生 第8回 市場の垂直構造 第9回 二重の限界化 第10回 再販とフランチャイズ 第11回 小売店によるサービス供給 第12回 排他条件付取引の経済理論1 第13回 排他条件付取引の経済理論2 第14回 排他条件付取引の経済理論3 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 発表 50%、期末レポート 50%
教材など	: 小田切宏之 (2001) 『新しい産業組織論：理論・実証・政策』有斐閣
備考	:

■ EE067

科目名	: 産業組織論特論演習 I
担当者	: 北村 紘
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文を完成させるために必要な分析手法を身に付けることを目標とする。
授業内容・方法	: 受講生に与えられたテーマについて報告してもらう。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 関数と変数 第3回 連立方程式と市場均衡 第4回 グラフと余剰分析 第5回 競争企業の利潤最大化問題 第6回 競争企業の費用最小化問題 第7回 費用関数を用いた競争企業の利潤最大化問題 第8回 独占企業の利潤最大化問題 第9回 独占市場均衡分析 第10回 2企業のクールノー競争 第11回 N企業のクールノー競争 第12回 差別化された2企業のクールノー競争 第13回 同質財ベルトラン競争 第14回 差別化ベルトラン競争 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 報告内容(100%)
教材など	: 参考文献など必要な教材については、講義時に随時指定する。
備考	: 受講生のレベルに応じて、変更する場合がある。

■ EE068

科目名	: 産業組織論特論演習Ⅱ
担当者	: 北村 紘
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文を作成する上で必要不可欠な理論分析の手法を身に付けることを目標とする。
授業内容・方法	: 受講生に与えられたテーマについて報告してもらう。終盤に経済学の先行研究を報告する時間を設ける。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 展開形による動学ゲーム分析 第3回 シュタッケルベルグ競争 第4回 繰り返しゲームとカルテル 第5回 二重マージン問題 第6回 二部料金 第7回 垂直分離 第8回 垂直統合 第9回 最小差別化定理 第10回 最大差別化定理 第11回 先行研究の報告 第12回 先行研究の報告 第13回 先行研究の報告 第14回 先行研究の報告 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 報告内容(100%)
教材など	: 参考文献など必要な教材については、講義時に随時指定する。
備考	: 受講生のレベルに応じて内容を変更する場合がある。

■ EE069

科目名	: 産業組織論特論演習Ⅲ
担当者	: 北村 紘
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 秋学期の修士論文の提出を見据え、オリジナリティのある理論モデルの完成を目標とする。
授業内容・方法	: 受講生に自身の研究論文と先行研究を報告してもらう。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 先行研究の報告 第3回 先行研究の報告 第4回 先行研究の報告 第5回 先行研究の報告 第6回 先行研究の報告 第7回 先行研究の報告 第8回 研究テーマに関する分析手法の検討 第9回 研究テーマに関する分析手法の検討 第10回 研究テーマに関する分析手法の検討 第11回 研究テーマに関する分析手法の検討 第12回 分析結果の報告と検討 第13回 分析結果の報告と検討 第14回 分析結果の報告と検討 第15回 分析結果の報告と検討
評価方法・基準	: 報告評価(50%) 学期末レポート(50%)
教材など	: 参考文献など必要な教材については、講義時に随時指定する。
備考	: 受講生の研究状況に応じて、適宜変更する場合がある。

■ EE070

科目名	: 産業組織論特論演習Ⅳ
担当者	: 北村 紘
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文の完成を目標とし、学会等で報告できるレベルの報告の技術の習得も同時に目指す。
授業内容・方法	: 受講生に自身の研究論文を報告してもらう。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 論文執筆指導 第3回 論文執筆指導 第4回 論文執筆指導 第5回 論文執筆指導 第6回 論文執筆指導 第7回 論文執筆指導 第8回 論文内容検討 第9回 論文内容検討 第10回 論文内容検討 第11回 論文内容検討 第12回 学会スタイルでの研究報告練習 第13回 学会スタイルでの研究報告練習 第14回 最終研究報告 第15回 最終研究報告
評価方法・基準	: 修士論文(100%)を評価
教材など	: 参考文献など必要な教材については、講義時に随時指定する。
備考	: 受講生のレベルに応じて内容を変更する場合がある。

■ EE071

科目名	: 企業経済論特論A
担当者	: 沈 政郁
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: この授業では、企業の実証研究を理解し、 基礎的な実証研究ができるようになることをその目的とします。 企業経済論特論Aでは Corporate Governance を主な Topic としてとりあげ、 これと関連する実際の企業データを操作することで、実証研究の基礎作りをします。
授業内容・方法	: まず基礎的な内容を英語の論文を読みながらしっかり理解し、 その理解を実際のデータと繋げるために Excel と統計ソフトを利用して、 課題に取り組んでもらうのが基本的な授業の内容と方法です。
授業計画	: 第1回 Introduction 第2回 Corporate Governance とは?1 第3回 Corporate Governance とは?2 第4回 External control mechanism (The Market for corporate control) 1 第5回 External control mechanism (The Market for corporate control) 2 第6回 External control mechanism (The Market for corporate control) 3 第7回 External control mechanism (The Ownership structure) 1 第8回 External control mechanism (The Ownership structure) 2 第9回 External control mechanism (The Ownership structure) 3 第10回 External control mechanism (The Ownership structure) 4 第11回 Internal control mechanism (Law・Regulation) 1 第12回 Internal control mechanism (Law・Regulation) 2 第13回 Internal control mechanism (The Board of Directors) 1 第14回 Internal control mechanism (The Board of Directors) 2 第15回 Internal control mechanism (The Board of Directors) 3
評価方法・基準	: 報告内容 (50%) 小テスト (20%) 期末 Report (30%)
教材など	: 論文を読むので特別な教材はありません。
備考	: 英語の論文を読むので英語の読解力は必須です。

■ EE072

科目名	: 企業経済論特論B
担当者	: 沈 政郁
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: この授業では、企業の実証研究を理解し、 基礎的な実証研究ができるようになることをその目的とします。 企業経済論特論BではFamily Businessを主なTopicとしてとりあげ、 このテーマを経営学アプローチと経済学アプローチから理解し、 これと関連する実際の企業データを操作することで、 実証研究の基礎を強固なものにします。
授業内容・方法	: まず基礎的な内容を英語の論文を読みながらしっかり理解し、 その理解を実際のデータと繋げるためにExcelと統計ソフトを利用して、 課題に取り組んでもらうのが基本的な授業の内容と方法です。
授業計画	: 第1回 Introduction 第2回 Family Businessとは?1 第3回 Family Businessとは?2 第4回 Family Businessに対する経済学的アプローチ1 第5回 Family Businessに対する経済学的アプローチ2 第6回 Family Businessに対する経済学的アプローチ3 第7回 Family Businessに対する経営学的アプローチ1 第8回 Family Businessに対する経営学的アプローチ2 第9回 Family Businessに対する経営学的アプローチ3 第10回 Family Business (Performance) 1 第11回 Family Business (Performance) 2 第12回 Family Business (Succession) 1 第13回 Family Business (Succession) 2 第14回 Family Business (Succession) 3 第15回 Family Business (Succession) 4
評価方法・基準	: 報告内容 (50%) 小テスト (20%) 期末Report (30%)
教材など	: 論文を読むので特別な教材はありません。
備考	: 英語の論文を読むので英語の読解力は必須です。 企業経済論特論Aを履修していることが望ましいです。

■ EE073

科目名	: 企業経済論特論演習 I
担当者	: 沈 政郁
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文作成に必要となる実証分析の基礎を理解することをその目標とします。
授業内容・方法	: 各 Topics に対して、理論を理解した後に、実際のデータを使って理解度を深めます。 各 Topics に対して、報告をしてもらいます。 その後、理解度を確認するために、小テストを行います。
授業計画	: 第1回 実証分析における心構え 第2回 確率統計の基礎 第3回 最小二乗法 (OLS) 第4回 重回帰分析 第5回 決定係数 第6回 仮説検定 第7回 さまざまなモデル 第8回 バイアスへの対処 第9回 不均一分散への対処 第10回 質的変数のモデル 第11回 最尤法 (MLE) 第12回 サバイバル分析 第13回 因果効果の推定 第14回 Matching 分析 第15回 DD 分析 (Difference-in-Difference)
評価方法・基準	: 報告内容 (50%) 毎回の小テスト (50%)
教材など	: 教科書: 森田 果 『実証分析入門』 (日本評論社、2014)
備考	: 上記の内容は最低限の水準です。 レベルアップを目指して頑張りましょう!

■ EE074

科目名	企業経済論特論演習Ⅱ
担当者	沈 政郁
週時間数	2
単位数	2
配当年次	1年
開講期間	秋学期
授業目標	春学期に続いて、 修士論文作成に必要となる実証分析の基礎を理解することをその目標とします。 さらに秋学期には、それに加えて、 先行研究のサーベイを通して、学術論文の下準備をおこないます。
授業内容・方法	各 Topics に対して、理論を理解した後に、実際のデータを使って理解度を深めます。 各 Topics に対して、報告をしてもらいます。 その後に、理解度を確認するために、小テストを行います。
授業計画	第1回 固定効果方法 (Fixed effect) 第2回 操作変数法 (Instrumental variable) 第3回 構造推定法 第4回 イベントスタディ (Event Study) 第5回 その他のトピックス 1 第6回 その他のトピックス 2 第7回 その他のトピックス 3 第8回 先行研究のサーベイ 1 (指定した論文 7本) 第9回 先行研究のサーベイ 2 (指定した論文 7本) 第10回 先行研究のサーベイ 3 (指定した論文 7本) 第11回 先行研究のサーベイ 4 (指定した論文 7本) 第12回 先行研究のサーベイ 5 (指定した論文 7本) 第13回 先行研究のサーベイ 6 (指定した論文 7本) 第14回 先行研究のサーベイ 7 (指定した論文 7本) 第15回 先行研究のサーベイ 8 (指定した論文 7本)
評価方法・基準	報告内容 (50%) 毎回の小テスト (50%)
教材など	教科書：森田 果 『実証分析入門』 (日本評論社、2014) 先行研究に関しては、授業で指定する。
備考	上記の内容は最低限の水準です。 レベルアップを目指して頑張りましょう！

■ EE075

科目名	: 企業経済論特論演習Ⅲ
担当者	: 沈 政郁
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文の下準備をおこないます。 サーベイを完成させ、問題意識を明確にして、 First Draft を完成させることが、春学期の授業の目的です。
授業内容・方法	: 各 Topics に対して、報告をしてもらいます。
授業計画	: 第1回 先行研究のサーベイ 1 (指定した論文 10本) 第2回 先行研究のサーベイ 2 (指定した論文 10本) 第3回 先行研究のサーベイ 3 (指定した論文 10本) 第4回 先行研究のサーベイ 4 (指定した論文 10本) 第5回 先行研究のサーベイ 5 (指定した論文 10本) 第6回 サーベイ論文作成 1 第7回 サーベイ論文作成 2 第8回 サーベイ論文作成 3 第9回 サーベイ論文作成 4 第10回 Research Question 1 (問題意識の明確化) 第11回 Research Question 2 (問題意識の明確化) 第12回 Research Question 3 (問題意識の明確化) 第13回 First Draft 作成 1 第14回 First Draft 作成 2 第15回 First Draft 作成 3
評価方法・基準	: サーベイ論文作成 (50%) First Draft 作成 (50%)
教材など	: 必要になる教材に関しては、授業で指定する。
備考	: 上記の内容は最低限の水準です。 レベルアップを目指して頑張りましょう!

■ EE076

科目名	: 企業経済論特論演習Ⅳ
担当者	: 沈 政郁
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文の完成を目指します。
授業内容・方法	: 各 Topics に対して、報告をしてもらいます。
授業計画	: 第1回 修士論文執筆指導 1 第2回 修士論文執筆指導 2 第3回 修士論文執筆指導 3 第4回 修士論文執筆指導 4 第5回 修士論文執筆指導 5 第6回 修士論文執筆指導 6 第7回 修士論文執筆指導 7 第8回 修士論文執筆指導 8 第9回 修士論文評価 1 第10回 修士論文評価 2 第11回 修士論文評価 3 第12回 学会発表の準備 1 第13回 学会発表の準備 2 第14回 修士論文最終報告 1 第15回 修士論文最終報告 2
評価方法・基準	: 修士論文 (100%)
教材など	: 必要になる教材に関しては、授業で指定する。
備考	: 海外の Journal に投稿できるように頑張りましょう！

■ EE077

科目名	: 中小企業論特論A
担当者	: 大西 辰彦
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 本年度休講
授業目標	: 京都地域における中小・ベンチャー企業の事業活動の分析と成長支援についての実証的な考察、研究を行う。
授業内容・方法	: 京都産業、企業に関する研究論文、研究報告など諸文献を選定、講読し、議論を行うとともに、設定した研究テーマにより発表を行う。
授業計画	: 第1回 京都産業に関する諸文献を講読、議論（1） 第2回 京都産業に関する諸文献を講読、議論（2） 第3回 京都産業に関する諸文献を講読、議論（3） 第4回 分析視点や実証方法の講義（1） 第5回 分析視点や実証方法の講義（2） 第6回 分析視点や実証方法の講義（3） 第7回 分析視点や実証方法の講義（4） 第8回 分析視点や実証方法の講義（5） 第9回 研究テーマの検討と設定（1） 第10回 研究テーマの検討と設定（2） 第11回 研究テーマの検討と設定（3） 第12回 発表（1） 第13回 発表（2） 第14回 発表（3） 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 発表内容(70%)及び出席状況、授業への参画等の平常点(30%)により評価する。
教材など	: 教科書、参考文献など必要な教材については、講義時に随時指定する。
備考	: 受講生の関心や熟度により一部内容を変更する場合がある。

■ EE078

科目名	： 中小企業論特論B
担当者	： 大西 辰彦
週時間数	： 2
単位数	： 2
配当年次	： 1年
開講期間	： 本年度休講
授業目標	： 京都地域における中小・ベンチャー企業の事業活動の分析と成長支援についての考察、研究を行う。特にフィールドワークに重点を置き、企業・産地の訪問、取材、診断などによる実証的研究を進める。
授業内容・方法	： 京都産業、企業に関する諸課題の抽出と研究テーマの設定を行い、企業、産業支援拠点、地場産業の集積地域などへのフィールドワークを実践し、研究内容を発表する。
授業計画	： 第1回 京都産業に関する諸課題の抽出と研究テーマの設定（1） 第2回 京都産業に関する諸課題の抽出と研究テーマの設定（2） 第3回 京都産業に関する諸課題の抽出と研究テーマの設定（3） 第4回 京都産業に関する諸課題の抽出と研究テーマの設定（4） 第5回 フィールドワークの実践（1） 第6回 フィールドワークの実践（2） 第7回 フィールドワークの実践（3） 第8回 フィールドワークの実践（4） 第9回 収集したデータの分析と編集（1） 第10回 収集したデータの分析と編集（2） 第11回 収集したデータの分析と編集（3） 第12回 発表（1） 第13回 発表（2） 第14回 発表（3） 第15回 まとめ
評価方法・基準	： 発表内容(70%)及び出席状況、授業への参画等の平常点(30%)により評価する。
教材など	： 教科書、参考文献など必要な教材については、講義時に随時指定する。
備考	： 受講生の関心や熟度により、一部内容を変更する場合がある。

■ EE079

科目名	： 中小企業論特論演習 I
担当者	： 大西 辰彦
週時間数	： 2
単位数	： 2
配当年次	： 1年
開講期間	： 本年度休講
授業目標	： 受講生の関心や問題意識に基づき中小企業に関する考察を進め、修士論文に関する研究テーマや分析方法等の検討を行う。
授業内容・方法	： 受講生の研究テーマに関する論文等の文献収集を行い、研究テーマとしての妥当性や意義等について、検討を行う。受講生は指導教員の助言を踏まえ、研究テーマの意義、論文の構成などをまとめた修士論文作成計画をレポート形式で作成し、提出する。
授業計画	： 第1回 文献の検索・収集（1） 第2回 文献の検索・収集（2） 第3回 文献の検索・収集（3） 第4回 文献の講読・受講生による発表（1） 第5回 文献の講読・受講生による発表（2） 第6回 文献の講読・受講生による発表（3） 第7回 研究テーマ・分析方法の検討（1） 第8回 研究テーマ・分析方法の検討（2） 第9回 研究テーマ・分析方法の検討（3） 第10回 修士論文作成計画の作成指導（1） 第11回 修士論文作成計画の作成指導（2） 第12回 修士論文作成計画の作成指導（3） 第13回 修士論文作成計画を発表（1） 第14回 修士論文作成計画（修正版）を発表（2） 第15回 まとめ
評価方法・基準	： 提出レポートの内容(80%)と、発表及び授業での質疑応答など(20%)により総合的に評価する。
教材など	： 参考文献など必要な教材については、講義時に随時指定する。
備考	： 受講生の研究状況により、適宜変更することがある。

■ EE080

科目名	: 中小企業論特論演習Ⅱ
担当者	: 大西 辰彦
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 本年度休講
授業目標	: 受講生の修士論文作成計画に沿って、本格的に修士論文作成に着手する。
授業内容・方法	: 修士論文計画に基づき、原稿を作成する。受講生は、指導教員との間で原稿ベースに議論を行い、原稿を追加、削除など修正する。その成果を修士論文（一次原稿）としてレポート形式で提出する。
授業計画	: 第1回 各種文献・資料の検討、図表等の作成（1） 第2回 各種文献・資料の検討、図表等の作成（2） 第3回 各種文献・資料の検討、図表等の作成（3） 第4回 各種文献・資料の検討、図表等の作成（4） 第5回 修士論文（一次原稿）原稿の作成と発表（1） 第6回 修士論文（一次原稿）原稿の作成と発表（2） 第7回 修士論文（一次原稿）原稿の作成と発表（3） 第8回 修士論文（一次原稿）の作成と発表（4） 第9回 指導教員との質疑応答、追加、修正（1） 第10回 指導教員との質疑応答、追加、修正（2） 第11回 指導教員との質疑応答、追加、修正（3） 第12回 指導教員との質疑応答、追加、修正（4） 第13回 修士論文（一次原稿）レポート形式の作成（1） 第14回 修士論文（一次原稿）レポート形式の作成（2） 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 提出レポートの内容(80%)と、発表及び授業での質疑応答など(20%)により総合的に評価する。
教材など	: 参考文献など必要な教材については、講義時に随時指定する。
備考	: 受講生の研究状況により、適宜変更することがある。

■ EE081

科目名	: 中小企業論特論演習Ⅲ
担当者	: 大西 辰彦
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 本年度休講
授業目標	: 受講生の修士論文作成計画に沿って、引き続き修士論文作成に着手する。
授業内容・方法	: 修士論文計画に基づき、引き続き原稿を作成し、全体を網羅した中間報告にまで仕上げる。受講生は、指導教員との間で原稿ベースに議論を行い、原稿を追加、削除など修正する。その成果を修士論文（中間報告）としてレポート形式で提出する。
授業計画	: 第1回 各種文献・資料の検討、図表等の作成（1） 第2回 各種文献・資料の検討、図表等の作成（2） 第3回 各種文献・資料の検討、図表等の作成（3） 第4回 各種文献・資料の検討、図表等の作成（4） 第5回 修士論文（中間報告）原稿の作成（1） 第6回 修士論文（中間報告）原稿の作成（2） 第7回 修士論文（中間報告）原稿の作成（3） 第8回 修士論文（中間報告）原稿の作成（4） 第9回 発表（1） 第10回 指導教員との質疑応答、追加、修正（1） 第11回 指導教員との質疑応答、追加、修正（2） 第12回 発表（2） 第13回 修士論文（中間報告）をレポート形式で作成（1） 第14回 修士論文（中間報告）をレポート形式で作成（2） 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 提出レポートの内容(80%)と、発表及び授業での質疑応答など(20%)により総合的に評価する。
教材など	: 参考文献など必要な教材については、講義時に随時指定する。
備考	: 受講生の研究状況により、適宜変更することがある。

■ EE082

科目名	: 中小企業論特論演習Ⅳ
担当者	: 大西 辰彦
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 本年度休講
授業目標	: 受講生の修士論文作成計画に沿って、修士論文を完成する。
授業内容・方法	: 修士論文計画に基づき、修士論文を完成する。受講生は、指導教員との間で最終案をベースに議論を行い、最終的な原稿の追加、削除、修正などを行う。最後に修士論文（最終原稿）を期日までに提出する。なお、10月に中間発表を、2月に口頭試問が課せられる。
授業計画	: 第1回 各種文献・資料の検討、図表等の追加（1） 第2回 各種文献・資料の検討、図表等の追加（2） 第3回 各種文献・資料の検討、図表等の追加（3） 第4回 各種文献・資料の検討、図表等の追加（4） 第5回 修士論文（最終案）原稿の作成（1） 第6回 修士論文（最終案）原稿の作成（2） 第7回 修士論文（最終案）原稿の作成（3） 第8回 修士論文（最終案）原稿の作成（4） 第9回 発表（1） 第10回 指導教員との質疑応答、追加、修正（1） 第11回 指導教員との質疑応答、追加、修正（2） 第12回 発表（2） 第13回 修士論文（最終案）を完成（1） 第14回 修士論文（最終案）を完成（2） 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 提出レポートの内容(80%)と、発表及び授業での質疑応答など(20%)により総合的に評価する。
教材など	: 参考文献など必要な教材については、講義時に随時指定する。
備考	: 受講生の研究状況により、適宜変更することがある。

■ EE083

科目名	: 農業政策特論 A
担当者	: 並松 信久
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 農業政策の現状を理解し、農業政策の経済的な分析ができるようになることをめざす。
授業内容・方法	: 日本農業問題を取り上げ、その問題に対して実施されている農業政策の分析を行っていく。わが国の農業政策は、国民経済的な観点や食料安全保障、そして国土保全という観点から主張されている。しかしながら農業は依然として多くの問題を抱え、農業政策が円滑に実施されているとは言い難い。講義では資料を通して、日本の農業政策を分析して、その有効性が発揮できない要因を考察していく。 農業政策を分析する手法を検討するため、まず、邦文・欧文の論文を中心に、資料の収集を行う。受講者で分担して、その資料の講読および討議を行う。農業政策全般に関する講義を行う。講義内容から受講者が、自分自身の関心に応じて課題を設定し、レポートを提出する。レポートに基づいて受講者が発表をして、討議を行う。さらにレポートに検討を加えて、最終レポートを提出する。
授業計画	: 第1回 日本農業の概要 第2回 現代日本農業の構造 第3回 現代日本農業の問題点 第4回 農業政策の分析視点 第5回 農業政策の理念 第6回 農業政策の理論 第7回 戦前日本農政の展開(1) 第8回 戦前日本農政の展開(2) 第9回 戦後日本農政の展開(1) 第10回 戦後日本農政の展開(2) 第11回 現代日本農政の方向 第12回 現代日本農政の展開 第13回 国際化と農業政策 第14回 経済発展と農業政策 第15回 日本農業の方向性
評価方法・基準	: 平常点（授業での質疑応答）40%、発表とレポート60%で評価する。
教材など	: 教科書：並松信久『近代日本の農業政策論』（昭和堂、2012年） その他、プリントを配付する。
備考	:

■ EE084

科目名	: 農業政策特論B
担当者	: 並松 信久
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 農業政策の現状を理解し、農業政策の経済的な分析ができるようになることをめざす。
授業内容・方法	: 我が国の農業問題を取り上げ、その問題に対して実施されている農業政策の分析を行っていく。とくに農業問題の理解を深めるとともに、農業政策の有効性について考えていく。わが国の農業は数多くの問題を抱えているが、それらを整理したうえで、農業政策がどのような結果をもたらしたのかを明らかにしていく。受講者で分担して、農業問題に関する資料の講読および討議を行う。農業問題を整理した後、その農業問題に対する農業政策について講義を行う。講義内容から受講者が、自分自身の関心に応じて課題を設定し、レポートを提出する。レポートに基づいて受講者が発表をして、討議を行う。さらにレポートに検討を加えて、最終レポートを提出する。
授業計画	: 第1回 農業政策の展開 第2回 農業政策の理論 第3回 価格政策の問題点 第4回 補助金政策による社会的損失 第5回 農産物貿易政策の展開 第6回 農地政策の変遷と問題点 第7回 食糧管理制度の展開 第8回 基本法農政の理念と現実 第9回 食料・農業・農村基本法の理念 第10回 農協制度の問題点 第11回 農業をめぐる政治と構造 第12回 WTO 農業交渉と日本の対応 第13回 国際農産物市場と日本農業 第14回 TPP 交渉と農業団体 第15回 農業政策と農業戦略
評価方法・基準	: 平常点（授業での質疑応答）40%、発表とレポート60%で評価する。
教材など	: プリントを配付する。資料については講義中に指示する。
備考	:

■ EE085

科目名	: 農業政策特論演習 I
担当者	: 並松 信久
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 農業政策の現状を理解し、農業に関する経済的な分析ができることをめざす。
授業内容・方法	: 現在の日本農業の問題点を取り上げ、その問題に対して実施されている農業政策の分析を行っていく。主に資料や文献を通して、レポート発表と質疑応答によって、農業政策に関する理解を深めていく。
授業計画	: 第1回 日本農業の現状に関する講義 第2回 農業政策の展開に関する講義 第3回 農業政策に関する資料の紹介と資料検索 第4回 現代日本農業の構造に関する発表と質疑応答 第5回 現代日本の農業政策の背景に関する発表と質疑応答 第6回 農業政策論の展開に関する発表と質疑応答 第7回 農業政策の理論に関する発表と質疑応答 第8回 農業政策の理論に関する発表と質疑応答 第9回 戦後日本農政の展開過程に関する発表と質疑応答 第10回 戦後日本農政の展開過程に関する発表と質疑応答 第11回 現代日本農政の展開に関する発表と質疑応答 第12回 現在日本農政の展開に関する発表と質疑応答 第13回 農業政策と国際化に関する発表と質疑応答 第14回 農業政策と国際化に関する発表と質疑応答 第15回 今後の農業政策の方向性に関する発表と質疑応答
評価方法・基準	: 提出レポートの内容 (60%) と発表 (20%) および授業での質疑応答 (20%) などによって、総合的に判断する。
教材など	: 授業のテーマごとの資料および文献。
備考	:

■ EE086

科目名	: 農業政策特論演習Ⅱ
担当者	: 並松 信久
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 農業政策の現状を理解し、農業政策に関する経済的な分析ができることをめざす。
授業内容・方法	: 現代日本の農業政策の分析を行なっていく。主に資料や文献を通して、レポート発表と質疑応答によって、農業政策に関する理解を深めていく。
授業計画	: <ul style="list-style-type: none"> 第1回 農業政策の阻害要因に関する考察 第2回 農業保護政策に関する問題点の把握 第3回 農業構造と農業政策の関連に関する考察 第4回 国際化と農業政策の関連に関する考察 第5回 価格政策の問題点に関する考察 第6回 貿易理論と農業政策との関連性の理解 第7回 補助金政策と農業予算に関する考察 第8回 農地制度と農業政策に関する考察 第9回 コメ政策の変遷に関する考察 第10回 基本法農政の問題点に関する理解 第11回 政治と農業政策の関連性に関する理解 第12回 農協制度の問題点に関する考察 第13回 農業政策の国際化対応に関する理解 第14回 農業政策の国際化対応に関する考察 第15回 国際農産物市場と農業政策に関する考察
評価方法・基準	: 提出レポートの内容（60％）と発表（20％）および授業での質疑応答（20％）などによって、総合的に判断する。
教材など	: 授業のテーマごとの資料および文献。
備考	:

■ EE087

科目名	: 農業政策特論演習Ⅲ
担当者	: 並松 信久
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文の課題を確定し、論文の構成や分析方法について考察する。
授業内容・方法	: 修士論文の作成計画に基づいて、発表および質疑応答を繰り返し、修士論文の全体構想をまとめる。
授業計画	: 第1回 修士論文計画の作成 第2回 修士論文の課題に関連する文献・資料の検討 第3回 修士論文の課題に関連する文献・資料の整理 第4回 修士論文の全体構成に関する検討 第5回 修士論文の章別構成に関する検討（4章に区切る） 第6回 修士論文(1章)に関する発表と質疑応答 第7回 修士論文(2章)に関する発表と質疑応答 第8回 修士論文(3章)に関する発表と質疑応答 第9回 修士論文(4章)に関する発表と質疑応答 第10回 実態調査の検討と資料の分析方法 第11回 実態調査の方法と資料の収集 第12回 実態調査の結果分析 第13回 修士論文の図表などの追加作成 第14回 修士論文の修正に関する検討 第15回 修士論文の全体構想の再検討
評価方法・基準	: 提出レポートの内容（60%）と発表（20%）および授業での質疑応答（20%）などによって、総合的に判断する。
教材など	: 研究テーマに関する資料や文献。
備考	:

■ EE088

科目名	: 農業政策特論演習Ⅳ
担当者	: 並松 信久
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文の作成計画および全体構想にしたがって、修士論文を完成する。
授業内容・方法	: 完成度の高い修士論文をめざして、発表と質疑応答を繰り返して、修士論文の追加・削除・訂正を行なっていく。
授業計画	: 第1回 修士論文の全体構想の発表 第2回 修士論文の全体構想の再検討実態調査結果の補足部分に関する検討 第3回 実態調査結果の補足部分に関する検討 第4回 修士論文(1章)に関する発表と質疑応答 第5回 修士論文(1章)に関する発表と質疑応答 第6回 修士論文(2章)に関する発表と質疑応答 第7回 修士論文(2章)に関する発表と質疑応答 第8回 修士論文(3章)に関する発表と質疑応答 第9回 修士論文(3章)に関する発表と質疑応答 第10回 修士論文(4章)に関する発表と質疑応答 第11回 修士論文(4章)に関する発表と質疑応答 第12回 論文の削除部分と追加部分の検討 第13回 修正部分の発表と質疑応答 第14回 修正部分の発表と質疑応答 第15回 論文概要と要旨の作成
評価方法・基準	: 提出レポートの内容(80%)と発表(10%)および授業での質疑応答(10%)などによって、総合的に判断する。
教材など	: 研究テーマに関する資料や文献。
備考	:

■ EE089

科目名	: 経済体制論特論A
担当者	: 後藤 富士男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: この授業では、共産主義思想の興亡史を見た上で、18世紀から20世紀にかけてのヨーロッパ諸国における市場社会の形成と崩壊の歴史を学ぶことにする。ただし、ここで言う崩壊とは市場社会がファシズムと共産主義にとって代わられたことを意味する。各国の置かれた地政学的環境も含めて、この歴史を研究することによって、「市場社会のもつ強靱さと脆弱さ」を知ることが目標である。
授業内容・方法	: 下記のテキストを講読して、その内容について毎回、報告を受けたのち、質疑応答とわたくしからの追加説明、ディスカッションを行う。学期の最後に、まとめのレポートの提出を求める。
授業計画	: 第1回 授業遂行についての打ち合わせ 第2回 共産主義の興亡（野尻） 第3回 共産主義の興亡（野尻） 第4回 共産主義の興亡（野尻） 第5回 国際システム（ポラニー） 第6回 国際システム（ポラニー） 第7回 市場経済の勃興と崩壊（ポラニー） 第8回 市場経済の勃興と崩壊（ポラニー） 第9回 市場経済の勃興と崩壊（ポラニー） 第10回 市場経済の勃興と崩壊（ポラニー） 第11回 市場経済の勃興と崩壊（ポラニー） 第12回 大転換の進展（ポラニー） 第13回 大転換の進展（ポラニー） 第14回 大転換の進展（ポラニー） 第15回 総括
評価方法・基準	: 受講中の報告内容と質疑応答（50%）、そして最後のレポート（50%）で評価する。
教材など	: (1) 野尻武敏「共産主義の興亡」野尻・丹羽・福田・嵐田(1991)『ひとつのドラマの終わり—共産主義の倒壊—』晃洋書房の第1章 (2) カール・ポラニー著、野口・栖原訳（2009）『新訳：大転換』東洋経済新報社
備考	:

■ EE090

科目名	: 経済体制論特論B
担当者	: 後藤 富士男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: この授業ではドイツを例にとり、計画経済から市場経済への経済体制の移行史を研究する。1990年の東ドイツ統合に際して、西独首相コールはこの地域に市場社会主義という「第三の道」を許すことなく、一挙に西側市場経済へ吸収した。ドイツが置かれた地政学上の環境や保守派の封じ込めなど、さまざまな要因が彼にこのショック療法をとらせたのである。しかし、統一後の復興は予想外に重い負担を西側に強いることとなった。この体制移行史を研究することによって、「市場化の困難と問題点」を知ることが目標である。
授業内容・方法	: 下記のテキストについて、受講生にその内容を報告してもらい、わたくしがコメントと追加説明を行う。最後に、それまでの内容をまとめたレポート（A4で4～5枚）を提出していただく。
授業計画	: 第1回 打ち合わせ 第2回 Introduction 第3回 1. Switching from Socialism to Capitalism 第4回 1. Switching from Socialism to Capitalism 第5回 2. The DDR Economy Revised 第6回 3. The 1948 Currency and Economic Reform 第7回 3. The 1948 Currency and Economic Reform 第8回 4. Restructuring and Privatization 第9回 4. Restructuring and Privatization 第10回 5. The Labour Market 第11回 5. The Labour Market 第12回 6. Catching up with the West 第13回 7. Convergence and Catch-Up 第14回 8. International and Domestic Repercussions of German Unification 第15回 総括
評価方法・基準	: 受講中の報告内容と質疑応答（50%）、最後のレポート（50%）を総合して評価する。
教材など	: Thomas Lange and Geoffrey Pugh(1998), <i>The Economics of German Unification</i> , Edward Elgar
備考	:

■ EE091

科目名	： 経済体制論特論演習 I
担当者	： 後藤 富士男
週時間数	： 2
単位数	： 2
配当年次	： 1年
開講期間	： 春学期
授業目標	： 受講生が希望する研究テーマについて検討し、先行研究と基本文献、関連文献について調査した上で、基本文献を講読することで研究に必要な基礎知識を習得する。
授業内容・方法	： 受講生に毎回、調査結果を報告してもらい、まずは基本文献を絞り込み講読する。学期末に、まとめのレポート提出を求める。
授業計画	： 第1回 春学期の学習スケジュールの確認 第2回 研究テーマの検討 第3回 先行研究、基本文献、関連文献についての調査結果の報告 第4回 先行研究、基本文献、関連文献についての調査結果の報告 第5回 先行研究、基本文献、関連文献についての調査結果の報告 第6回 研究テーマの再検討 第7回 先行研究、基本文献、関連文献についての調査結果の報告 第8回 基本文献を講読した上での報告と質疑応答 第9回 基本文献を講読した上での報告と質疑応答 第10回 基本文献を講読した上での報告と質疑応答 第11回 基本文献を講読した上での報告と質疑応答 第12回 基本文献を講読した上での報告と質疑応答 第13回 基本文献を講読した上での報告と質疑応答 第14回 基本文献を講読した上での報告と質疑応答 第15回 基本文献を講読した上での報告と質疑応答
評価方法・基準	： 授業での報告と質疑応答（50%）、最終レポート（50%）を総合して評価する。
教材など	： 研究テーマに関連する文献
備考	： 毎回、報告を求める。

■ EE092

科目名	: 経済体制論特論演習Ⅱ
担当者	: 後藤 富士男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 先行研究と関連文献を講読する一方、分析手法の習得と必要データの収集を行う。
授業内容・方法	: 受講生に講読結果やデータの収集状況を報告してもらいつつ、必要な分析手法については講義する。またデータの収集についてもサポートする。学期末に、まとめのレポート提出を求める。
授業計画	: 第1回 秋学期の学習スケジュールの確認 第2回 先行研究・関連文献の講読、報告 第3回 先行研究・関連文献の講読、報告 第4回 データ収集状況についての報告 第5回 分析手法についての講義 第6回 先行研究・関連文献の講読、報告 第7回 先行研究・関連文献の講読、報告 第8回 データ収集状況についての報告 第9回 分析手法についての講義 第10回 分析手法についての講義 第11回 分析手法についての講義 第12回 分析手法についての講義 第13回 先行研究・関連文献の講読、報告 第14回 先行研究・関連文献の講読、報告 第15回 データ収集状況についての報告
評価方法・基準	: 授業での報告と質疑応答（50%）、最終レポート（50%）を総合して評価する。
教材など	: 研究テーマに関連する文献
備考	: 毎回、報告を求める。

■ EE093

科目名	: 経済体制論特論演習Ⅲ
担当者	: 後藤 富士男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文のテーマを確定し、論文構成や内容、分析方法を固めていく。
授業内容・方法	: 受講生に修士論文の構成、各章の内容、添付予定データなどについて報告してもらい、ともに、それらの内容について検討し逐次修正する。秋の中間報告会を目標とする。学期末に修士論文中間レポートの提出を求める。
授業計画	: <ul style="list-style-type: none"> 第1回 春学期の授業計画の確認 第2回 論文の執筆方法に関する講義 第3回 修士論文の内容、添付予定データについての報告と質疑応答、次回までの課題の提示 第4回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第5回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第6回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第7回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第8回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第9回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第10回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第11回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第12回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第13回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第14回 中間レポートの達成状況についての報告と課題の提示 第15回 中間報告会に向けての模擬報告とコメント
評価方法・基準	: 授業での報告と質疑応答（50%）、学期末の修士論文中間レポート（50%）を総合して評価する。
教材など	: 研究テーマに関連する文献、資料、データ
備考	: 毎回、報告を求める。

■ EE094

科目名	： 経済体制論特論演習Ⅳ
担当者	： 後藤 富士男
週時間数	： 2
単位数	： 2
配当年次	： 2年
開講期間	： 秋学期
授業目標	： 中間報告会で受けたコメントに沿って修士論文中間レポートの内容を改善し修士論文を完成するとともに、最終口頭試問の合格を目指す。
授業内容・方法	： 受講生から、作成途上の修士論文の構成、各章の内容、添付予定データなどについて報告してもらうとともに、それらの内容について検討し逐次改善、修正する。そして修士論文の完成と口頭試問の準備を行う。
授業計画	： 第1回 秋学期の研究計画の確認 第2回 中間報告会で受けたコメントの確認 第3回 修士論文中間レポートの内容の改善と追加調査・分析についての報告、次回への課題の提示 第4回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第5回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第6回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第7回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第8回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第9回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第10回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第11回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第12回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第13回 課題の達成状況についての報告と質疑応答、次回への課題の提示 第14回 口頭試問に向けての模擬報告とコメント 第15回 修士論文完成に向けてのコメント
評価方法・基準	： 授業での報告と質疑応答（50%）、学期末の修士論文（50%）を総合して評価する。
教材など	： 研究テーマに関連する文献、資料、データ
備考	： 毎回、報告を求める。

■ EE095

科目名	: 財政学特論A
担当者	: 吉田 和男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 財政学の基本を習得し、論文作成に資することを目標とする。
授業内容・方法	: 教科書の輪読を中心として内容に関連して議論を行う。
授業計画	: 第1回 An Introduction to Public Economics 第2回 An Introduction to Public Economics 第3回 Equilibrium and Efficiency 第4回 Equilibrium and Efficiency 第5回 Public Sector Statistics 第6回 Public Sector Statistics 第7回 Theories of the Public sector 第8回 Theories of the Public sector 第9回 Public Goods 第10回 Public Goods 第11回 Club Goods and Local Public Goods 第12回 Club Goods and Local Public Goods 第13回 Externalities 第14回 Externalities 第15回 まとめ
評価方法・基準	: レポート
教材など	: J.Hindriks and G.D.Myles(2006) 'Intermediate Public Economics' The MIT Press Cambridge, Massachusetts London, England
備考	:

■ EE096

科目名	: 財政学特論B
担当者	: 吉田 和男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 財政学の基本を習得し、論文作成に資することを目標とする。
授業内容・方法	: 財政学特論Aに続いて教科書の輪読を中心として内容に関連して議論を行う。
授業計画	: 第1回 Imperfect Competition 第2回 Imperfect Competition 第3回 Asymmetric Information 第4回 Asymmetric Information 第5回 Voting 第6回 Voting 第7回 Rent-Seeking 第8回 Rent-Seeking 第9回 Optimality and Comparability 第10回 Optimality and Comparability 第11回 Inequality and Poverty 第12回 Inequality and Poverty 第13回 Comodity Taxation 第14回 Comodity Taxation 第15回 まとめ
評価方法・基準	: レポート
教材など	: J.Hindriks and G.D.Myles(2006) 'Intermediate Public Economics' The MIT Press Cambtidge, Massachusetts London, England
備考	:

■ EE097

科目名	: 財政学特論演習 I
担当者	: 吉田 和男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 論文の作成に資することを目標とする。
授業内容・方法	: 作成しようとする論文のテーマに関連する英文論文を輪読するとともに、論文作成の指導を行う。
授業計画	: 各回の一つ以上の英文論文を読んで学生が報告を行い内容を議論し、論文作成に向けて指導していく。
	第1回 はじめに
	第2回 論文講読
	第3回 論文講読
	第4回 論文講読
	第5回 論文講読
	第6回 論文講読
	第7回 論文講読
	第8回 論文講読
	第9回 論文講読
	第10回 論文講読
	第11回 論文講読
	第12回 論文講読
	第13回 論文講読
	第14回 論文講読
	第15回 まとめ
評価方法・基準	: レポート
教材など	: C. K. Rowley (eds.) <i>Public Choice Theory I, II, III</i> (The International Library of Critical Writings in Economics Series), Edward Elger, 1993, などに収録されている論文を参考に重要な論文を適宜選択する。
備考	:

■ EE098

科目名	: 財政学特論演習Ⅱ
担当者	: 吉田 和男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 論文の作成に資することを目標とする。
授業内容・方法	: 作成しようとする論文のテーマに関連する英文論文を輪読するとともに、論文作成の指導を行う。
授業計画	: 各回の一つ以上の英文論文を読んで学生が報告を行い内容を議論し、論文作成に向けて指導していく。
	第1回 はじめに
	第2回 論文講読
	第3回 論文講読
	第4回 論文講読
	第5回 論文講読
	第6回 論文講読
	第7回 論文講読
	第8回 論文講読
	第9回 論文講読
	第10回 論文講読
	第11回 論文講読
	第12回 論文講読
	第13回 論文講読
	第14回 論文講読
	第15回 まとめ
評価方法・基準	: レポート
教材など	: C. K. Rowley (eds.) <i>Public Choice Theory I, II, III</i> (The International Library of Critical Writings in Economics Series), Edward Elger, 1993, などに収録されている論文を参考に重要な論文を適宜選択する。
備考	:

■ EE099

科目名	: 財政学特論演習Ⅲ
担当者	: 吉田 和男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 論文の作成に資することを目標とする。
授業内容・方法	: 作成しようとする論文のテーマに関連する英文論文を輪読するとともに、論文作成の指導を行う。
授業計画	: 各回の一つ以上の英文論文を読んで学生が報告を行い内容を議論し、論文作成に向けて指導していく。
	第1回 はじめに
	第2回 論文講読
	第3回 論文講読
	第4回 論文講読
	第5回 論文講読
	第6回 論文講読
	第7回 論文講読
	第8回 論文講読
	第9回 論文講読
	第10回 論文講読
	第11回 論文講読
	第12回 論文講読
	第13回 論文講読
	第14回 論文講読
	第15回 まとめ
評価方法・基準	: レポート
教材など	: C. K. Rowley (eds.) <i>Public Choice Theory I, II, III</i> (The International Library of Critical Writings in Economics Series), Edward Elger, 1993, などに収録されている論文を参考に重要な論文を適宜選択する。
備考	:

■ EE100

科目名	: 財政学特論演習Ⅳ
担当者	: 吉田 和男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 論文の作成に資することを目標とする。
授業内容・方法	: 作成しようとする論文のテーマに関連する英文論文を輪読するとともに、論文作成の指導を行う。
授業計画	: 各回の一つ以上の英文論文を読んで学生が報告を行い内容を議論し、論文作成に向けて指導していく。
	第1回 はじめに
	第2回 論文講読
	第3回 論文講読
	第4回 論文講読
	第5回 論文講読
	第6回 論文講読
	第7回 論文講読
	第8回 論文指導
	第9回 論文指導
	第10回 論文指導
	第11回 論文指導
	第12回 論文指導
	第13回 論文指導
	第14回 論文指導
	第15回 まとめ
評価方法・基準	: 修士論文
教材など	: C. K. Rowley (eds.) <i>Public Choice Theory I, II, III</i> (The International Library of Critical Writings in Economics Series), Edward Elger, 1993, などに収録されている論文を参考に重要な論文を適宜選択する。
備考	:

■ EE101

科目名	: 日本租税論特論A
担当者	: 八塩 裕之
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: わが国の租税制度の概要と所得税・消費税・法人税が経済に与える影響について、基礎的な理解を深めること。
授業内容・方法	: 基本的に教科書・論文の輪読を進めていく（必要に応じて教員の講義をいれる）。
授業計画	: 第1回 ガイダンスおよび内容説明 第2回 日本の財政と税制の現状 第3回 日本の財政と税制の現状 第4回 日本の財政と税制の現状 第5回 日本の財政と税制の現状 第6回 所得税制度の現状 第7回 所得税制度の現状 第8回 所得税制度の現状 第9回 消費税制度の現状 第10回 消費税制度の現状 第11回 消費税制度の現状 第12回 法人税制度の現状 第13回 法人税制度の現状 第14回 法人税制度の現状 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 講義での報告内容 50%、講義での議論 50%
教材など	: 扱う教科書・論文は第1回時の学生との協議などを踏まえて決定する。
備考	: 教科書・論文は必ず事前に熟読すること。

■ EE102

科目名	: 日本租税論特論B
担当者	: 八塩 裕之
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: わが国の租税制度の概要と資産税・地方税が経済に与える影響について理解を深めること。少なくとも一つの税目について専門的な知識を持つこと。
授業内容・方法	: 基本的に教科書・論文の輪読を進めていく。(必要に応じて教員の講義をいれる)
授業計画	: 第1回 ガイダンスおよび内容説明 第2回 日本の財政と税制の現状について 第3回 所得税制度の現状(復習) 第4回 消費税制度の現状(復習) 第5回 法人税制度の現状(復習) 第6回 資産税制度の現状 第7回 資産税制度の現状 第8回 資産税制度の現状 第9回 地方税制度の現状 第10回 地方税制度の現状 第11回 地方税制度の現状 第12回 受講生によるプレゼン(特定の税目について) 第13回 受講生によるプレゼン(特定の税目について) 第14回 受講生によるプレゼン(特定の税目について) 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 講義での報告内容 50%、講義における議論 50%
教材など	: 扱う教科書・論文は第1回時の学生との協議などを踏まえて決定する。
備考	: 教科書・論文は必ず事前に熟読すること。

■ EE103

科目名	: 日本租税論特論演習 I
担当者	: 八塩 裕之
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文の執筆に向けて、テーマ設定（大まかでよい）ができるようになること。また、自分がテーマとする税制の概要を理解すること。
授業内容・方法	: 論文の輪読（4本の論文を読むことを目標とする）を中心とするが、講義の最後に受講生のプレゼンを予定。
授業計画	: 第1回 ガイダンスおよび内容説明 第2回 論文の輪読 第3回 論文の輪読 第4回 論文の輪読とその内容考察 第5回 論文の輪読 第6回 論文の輪読 第7回 論文の輪読とその内容考察 第8回 論文の輪読 第9回 論文の輪読 第10回 論文の輪読とその内容考察 第11回 論文の輪読 第12回 論文の輪読とその内容考察 第13回 受講生によるプレゼン（修士論文内容） 第14回 受講生によるプレゼン（修士論文内容） 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 講義での報告内容 50%、講義での議論 50%
教材など	: 講義中に指示する。
備考	:

■ EE104

科目名	: 日本租税論特論演習Ⅱ
担当者	: 八塩 裕之
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文の執筆に向けて、具体的なテーマ設定ができるようになること。自分がテーマとする税制度が経済にどのような影響を及ぼしているか、理解を深めること。
授業内容・方法	: 論文の輪読（3本の論文を読むことを目標とする）を中心とし、中盤と最後に受講生プレゼンを予定。
授業計画	: 第1回 ガイダンスおよび内容説明 第2回 論文の輪読 第3回 論文の輪読 第4回 論文の輪読とその内容考察 第5回 論文の輪読 第6回 論文の輪読 第7回 論文の輪読とその内容考察 第8回 受講生によるプレゼン（修士論文内容） 第9回 受講生によるプレゼン（修士論文内容） 第10回 論文の輪読 第11回 論文の輪読 第12回 論文の輪読とその内容考察 第13回 受講生によるプレゼン（修士論文内容） 第14回 受講生によるプレゼン（修士論文内容） 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 講義での報告内容 50%、講義での議論 50%
教材など	: 講義中に指示する。
備考	:

■ EE105

科目名	: 日本租税論特論演習Ⅲ
担当者	: 八塩 裕之
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文の章立ての決定。自分が専門とする税制について深い知識を持つこと。
授業内容・方法	: 受講生によるプレゼンを中心としつつ、関連する論文の輪読を実施する予定。
授業計画	: 第1回 ガイダンスおよび内容説明 第2回 受講生によるプレゼン（修士論文内容） 第3回 受講生によるプレゼン（修士論文内容） 第4回 論文の輪読 第5回 論文の輪読 第6回 論文の輪読とその内容考察 第7回 受講生によるプレゼン（修士論文内容） 第8回 受講生によるプレゼン（修士論文内容） 第9回 論文の輪読 第10回 論文の輪読とその内容考察 第11回 論文の輪読 第12回 論文の輪読とその内容考察 第13回 受講生によるプレゼン（修士論文内容） 第14回 受講生によるプレゼン（修士論文内容） 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 講義での報告内容 50%、講義での議論 50%
教材など	: 講義中に指示する。
備考	:

■ EE106

科目名	: 日本租税論特論演習Ⅳ
担当者	: 八塩 裕之
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文の執筆・完成。
授業内容・方法	: 受講生によるプレゼンを中心とする。関連する論文の輪読をはさむ予定。
授業計画	: 第1回 ガイダンスおよび内容説明 第2回 受講生によるプレゼン (修士論文内容) 第3回 受講生によるプレゼン (修士論文内容) 第4回 論文の輪読 第5回 論文の輪読とその内容考察 第6回 受講生によるプレゼン (修士論文内容) 第7回 受講生によるプレゼン (修士論文内容) 第8回 論文の輪読 第9回 論文の輪読 第10回 論文の輪読とその内容考察 第11回 受講生によるプレゼン (修士論文内容) 第12回 受講生によるプレゼン (修士論文内容) 第13回 受講生によるプレゼン (修士論文内容) 第14回 受講生によるプレゼン (修士論文内容) 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 修士論文の内容 100%
教材など	: 講義中に指示する。
備考	:

■ EE107

科目名	: 公共経済学特論A
担当者	: 飯田 善郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 市場の失敗と政府の介入の意義について、経済理論に沿って分析するための知識を学び、それに基づいて公共政策の望ましいありようについて考察する力を身につける。
授業内容・方法	: 各回テーマごとに参考文献を読み、適宜講義形式をとりながらすすめる。理論が基本であるが、現実との対応を考えることを求める。
授業計画	: 第1回 公共経済学の成り立ちと方法 第2回 市場の効率性と政府の役割 第3回 課税と市場のゆがみ 第4回 独占均衡と資源配分 第5回 自然独占への規制 第6回 ピークロード料金・ラムゼイ価格 第7回 公共財の概念 第8回 公共財の最適供給問題 第9回 ただ乗り問題を巡る議論 第10回 公共財自発的最適供給のメカニズム 第11回 外部性と資源配分 第12回 外部不経済の内部化 第13回 規制と課税・補助金 第14回 排出権取引 第15回 大きな政府と小さな政府
評価方法・基準	: 6回目、10回目、15回目に課すレポートで100%評価する。
教材など	: 参考文献についてはその都度指示する。
備考	:

■ EE108

科目名	: 公共経済学特論B
担当者	: 飯田 善郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 所得再分配をめぐる議論および政府の失敗と公共選択論について学ぶ。まず経済的合理性から必ずしも結論が出ない問題として所得の再分配を捉え、それに対する社会的な決定のメカニズムとして多数決を評価する。
授業内容・方法	: 各回テーマごとに参考文献を読み、適宜講義形式をとりながらすすめる。理論が基本であるが、現実との対応を考えることを求める。
授業計画	: 第1回 政府の役割としての所得再分配 第2回 社会厚生関数と所得再分配 第3回 社会厚生関数を巡る議論 第4回 政府の失敗と公共選択 第5回 投票モデル・中位投票者定理 第6回 投票のパラドックス 第7回 アローの不可能性定理と多数決 第8回 様々な投票方式 第9回 多数決の評価基準 第10回 有権者の投票モデル 第11回 政党の行動モデル 第12回 日本の政党の行動 第13回 圧力団体とその行動 第14回 官僚の行動モデル 第15回 合理的選択と社会決定
評価方法・基準	: 3、9、15回目に課すレポートによって100%評価する。
教材など	: 適宜指示する。
備考	:

■ EE109

科目名	公共経済学特論演習 I
担当者	飯田 善郎
週時間数	2
単位数	2
配当年次	1年
開講期間	春学期
授業目標	市場の失敗と政府の役割に関する研究動向にふれ、自らの研究課題を見出す一助とすると共に、研究論文のまとめ方についても学ぶ。
授業内容・方法	毎回各テーマに沿った論文や参考書籍を事前に指示し、読んでくることを求める。授業時間では講読し、内容の理解を確認する。
授業計画	第1回 公共経済学の課題 第2回 市場の効率性とその限界 第3回 公共財 第4回 公共財のただ乗り問題 第5回 公共財の自発的供給の可能性 第6回 実験・行動経済学と公共財 第7回 準公共財の問題 第8回 自然独占 第9回 価格規制 第10回 寡占市場 第11回 外部性と資源配分 第12回 コースの定理 第13回 規制と課税・補助金 第14回 排出権取引等 第15回 市場と政府の関係
評価方法・基準	事前学習の理解の確認を毎回の授業で行う。毎回の授業の理解と、最終回に課すレポートと50%ずつで評価する。
教材など	適宜指示する。
備考	受講者の興味や研究テーマが明確な場合はその内容をある程度重点的に扱う。

■ EE110

科目名	公共経済学特論演習Ⅱ
担当者	飯田 善郎
週時間数	2
単位数	2
配当年次	1年
開講期間	秋学期
授業目標	厚生経済学と政府の失敗に関する研究動向にふれ、自らの研究課題を見出す一助とすると共に、研究論文のまとめ方についても学ぶ。
授業内容・方法	毎回各テーマに沿った論文や参考書籍を事前に指示し、読んでくることを求める。授業時間では講読し、内容の理解を確認する。
授業計画	第1回 政府の役割を巡る議論 第2回 功利主義 第3回 ロールズ主義 第4回 社会厚生関数 第5回 所得再分配 第6回 契約論的功利主義 第7回 再分配に対する選好 第8回 公共選択としての多数決 第9回 投票のパラドックス 第10回 アローの不可能性定理を巡る議論 第11回 多数決の評価 第12回 有権者の投票行動 第13回 政党の行動モデル 第14回 官僚の行動モデル 第15回 政府の失敗と市場の失敗
評価方法・基準	事前学習の理解の確認を毎回の授業で行う。毎回の授業の理解と、最終回に課すレポートと50%ずつで評価する。
教材など	適宜指示する。
備考	受講者の興味や研究テーマが明確な場合はその内容をある程度重点的に扱う。

■ EE111

科目名	: 公共経済学特論演習Ⅲ
担当者	: 飯田 善郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 自らの研究テーマを決定し、関連先行研究に習熟し、自らの研究の方向性に沿った知識を身につける。
授業内容・方法	: 論文構成に向けて必要な知識の講義と、関連先行研究の講読、論文構成に関する受講生との議論によって進めてゆく。
授業計画	: 第1回 研究テーマの確認と方向性についての指示 第2回 文献検索指導 関連研究検索 第3回 データ検索指導 第4回 関連研究理論系概要確認 第5回 関連研究実証系概要確認 第6回 研究の位置づけと意義の確認 第7回 先行研究講読1 第8回 先行研究講読2 第9回 先行研究講読3 第10回 研究方法の検討 第11回 理論モデルの検討 第12回 実証方法・実証データの検討 第13回 理論・実証研究補足講義 第14回 サーベイのまとめ指導 第15回 報告・講評
評価方法・基準	: 毎回の授業で指示に従い研究を進めているかを30%、最終回までにできているべきサーベイと研究計画のレポートを70%で評価する。
教材など	: 適宜指示する。
備考	:

■ EE112

科目名	: 公共経済学特論演習Ⅳ
担当者	: 飯田 善郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 自らの研究テーマに沿って研究を進め、論文を完成させる。
授業内容・方法	: 論文構成に向けて必要な知識の講義と、関連先行研究の講読、論文構成に関する受講生との議論によって進めてゆく。
授業計画	: 第1回 研究計画確認・指導 第2回 導入部作成指導 第3回 理論・実証研究構成1 第4回 理論・実証研究構成2 第5回 結果の検証 第6回 中間報告・講評 第7回 先行・関連研究再調査・検証 第8回 理論・実証研究構成3 第9回 理論・実証研究構成4 第10回 結果解釈検討 第11回 議論構成指導 第12回 結論部構成指導 第13回 研究の位置づけ、意義の再検証 第14回 全体構成の指導 第15回 報告・講評
評価方法・基準	: 毎回の指示に従い研究を進めているかを30%、最終回までにできているべき論文を70%で評価する。
教材など	: 適宜指示する。
備考	:

■ EE113

科目名	: 地方財政論特論A
担当者	: 菅原 宏太
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 日本の地方財政制度と地方財政に関する理論的考察についての知識と、地方分権の捉え方を修得する。
授業内容・方法	: 受講生による輪読と質疑応答。予め受講生によって作成されたレジュメを基に、テキストの該当章の内容および関連するトピックスについて議論する。※以下の授業内容は、テキストの各章に基づいている。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 地方財政入門 第3回 地方財政の機能 第4回 地方財政の理論 (1) 第5回 地方財政の理論 (2) 第6回 地方分権の経済的・政治的帰結 (1) 第7回 地方分権の経済的・政治的帰結 (2) 第8回 地方税と地方の財政責任 (1) 第9回 地方税と地方の財政責任 (2) 第10回 政府間財政移転の理論 (1) 第11回 政府間財政移転の理論 (2) 第12回 わが国の政府間関係の実際と課題 (1) 第13回 わが国の政府間関係の実際と課題 (2) 第14回 地方分権改革に向けて 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点(議論での発言等): 30%、レジュメ作成: 30%、期末レポート: 40%
教材など	: テキスト: 佐藤主光 『地方財政論入門』 新世社 2009年 補助教材: 総務省 『地方財政白書』
備考	:

■ EE114

科目名	: 地方財政論特論B
担当者	: 菅原 宏太
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 日本の地方財政制度と地方財政に関する理論的考察についての知識と、地方分権の捉え方を修得する。
授業内容・方法	: 受講生による輪読と質疑応答。予め受講生によって作成されたレジュメを基に、テキストの該当章の内容および関連するトピックスについて議論する。※以下の授業内容は、テキストの各章に基づいている。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 新しい地方財政論 第3回 地方財政の予算と収入 (1) 第4回 地方財政の予算と収入 (2) 第5回 地方財政の経費 第6回 地方財政の健全化 (1) 第7回 地方財政の健全化 (2) 第8回 地方公営企業と第三セクター等 第9回 公共投資と地方財政 第10回 行政改革と地方財政 第11回 政府の役割と地方政府の役割 第12回 地方政府の歳入 第13回 地方財政のすがた 第14回 地域づくりと地方財政 第15回 国のかたち
評価方法・基準	: 平常点(議論での発言等): 30%、レジュメ作成: 30%、期末レポート: 40%
教材など	: テキスト: 中井英雄ほか 『新しい地方財政論』有斐閣 2010年 補助教材: 総務省 『地方財政白書』
備考	:

■ EE115

科目名	地方財政論特論演習 I
担当者	菅原 宏太
週時間数	2
単位数	2
配当年次	1年
開講期間	春学期
授業目標	地方分権の国際的な潮流と、それに関する議論を通じて、日本の地方財政制度に関する知識と、地方分権の捉え方を修得する。
授業内容・方法	受講生による輪読と質疑応答。予め受講生によって作成されたレジюмеを基に、テキストの該当章の内容および関連するトピックスについて議論する。※以下の授業内容は、テキストの各章に基づいている。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 財政システムと地方分権 第3回 地方財政の国際的位置(1) 第4回 地方財政の国際的位置(2) 第5回 税源配分論の展開と日本の地方税(1) 第6回 税源配分論の展開と日本の地方税(2) 第7回 付加価値税配分論と地方消費税(1) 第8回 付加価値税配分論と地方消費税(2) 第9回 地方交付税の制度設計(1) 第10回 地方交付税の制度設計(2) 第11回 地方分権下の財政調整制度(1) 第12回 地方分権下の財政調整制度(2) 第13回 持続可能な地方債制度の将来像(1) 第14回 持続可能な地方債制度の将来像(2) 第15回 欧州地方自治憲章と分権化の戦略
評価方法・基準	平常点(議論での発言等) : 30%、レジюме作成 : 30%、期末レポート : 40%
教材など	テキスト : 持田信樹 『地方分権の財政学』 東京大学出版会 2004年 補助教材 : 総務省 『地方財政白書』
備考	

■ EE116

科目名	: 地方財政論特論演習Ⅱ
担当者	: 菅原 宏太
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 地方分権と財政調整制度についての国際的な潮流に関する知識と捉え方を修得する。
授業内容・方法	: 受講生による輪読と質疑応答。予め受講生によって作成されたレジュメを基に、テキストの該当章の内容および関連するトピックスについて議論する。※以下の授業内容は、テキストの各章に基づいている。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 なぜ財政調整制度の改革なのか 第3回 民主主義体制における財政調整制度 第4回 平準化効果の国際比較 第5回 地方交付税と純財政便益 第6回 水平的財政平衡（オーストラリア） 第7回 代表的課税システム（カナダ） 第8回 強制されたアカウンタビリティ（イギリス） 第9回 財政調整制度の長き不在（アメリカ） 第10回 「分税制」と財政調整（中国） 第11回 州間の水平的調整の問題（ドイツ） 第12回 水平的財政調整の動揺（スウェーデン） 第13回 再分配的福祉機能（北欧諸国） 第14回 分権国家における財政調整（スイス） 第15回 日本の地方交付税
評価方法・基準	: 平常点（議論での発言等）：30%、レジュメ作成：30%、期末レポート：40%
教材など	: テキスト：持田信樹（編）『地方分権と財政調整制度』 東京大学出版会 2007年
備考	:

■ EE117

科目名	: 地方財政論特論演習Ⅲ
担当者	: 菅原 宏太
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文の作成
授業内容・方法	: 文献レビューを中心にして、修士論文のテーマの構築と分析方法を検討する。
授業計画	: 第1回 ガイダンス 研究計画の確認 第2回 地方財政に関する邦文雑誌の論文を収集し、文献をサーベイする。(1) 第3回 地方財政に関する邦文雑誌の論文を収集し、文献をサーベイする。(2) 第4回 地方財政に関する邦文雑誌の論文を収集し、文献をサーベイする。(3) 第5回 地方財政に関する邦文雑誌の論文を収集し、文献をサーベイする。(4) 第6回 地方財政に関する邦文雑誌の論文を収集し、文献をサーベイする。(5) 第7回 修士論文のテーマを固め、その基礎となるような英文・邦文雑誌論文を収集し、文献レビューを作成する。(1) 第8回 英文・邦文雑誌論文を収集し、文献レビューを作成する。(2) 第9回 英文・邦文雑誌論文を収集し、文献レビューを作成する。(3) 第10回 英文・邦文雑誌論文を収集し、文献レビューを作成する。(4) 第11回 英文・邦文雑誌論文を収集し、文献レビューを作成する。(5) 第12回 収集した論文の分析方法を参照しながら、必要な分析方法とデータについて精査する。(1) 第13回 必要な分析方法とデータについて精査する。(2) 第14回 修士論文のシナリオ、参考文献、分析手法と使用データをまとめ、中間報告書を作成する。(1) 第15回 修士論文のシナリオ、参考文献、分析手法と使用データをまとめ、中間報告書を作成する。(2)
評価方法・基準	: 平常点(議論での発言等): 40%、中間報告書: 60%
教材など	: 収集された先行研究論文等
備考	:

■ EE118

科目名	: 地方財政論特論演習Ⅳ
担当者	: 菅原 宏太
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文の完成
授業内容・方法	: 修士論文の基幹となる分析を進め、修士論文を完成する。
授業計画	: 第1回 ガイダンス 研究計画の確認 第2回 修士論文のテーマに沿った理論・実証分析の実施と課題の確認 (1) 第3回 修士論文のテーマに沿った理論・実証分析の実施と課題の確認 (2) 第4回 修士論文のテーマに沿った理論・実証分析の実施と課題の確認 (3) 第5回 修士論文のテーマに沿った理論・実証分析の実施と課題の確認 (4) 第6回 修士論文のテーマに沿った理論・実証分析の実施と課題の確認 (5) 第7回 分析結果の解釈とまとめと関連する先行研究サーベイの追加 (1) 第8回 分析結果の解釈とまとめと関連する先行研究サーベイの追加 (2) 第9回 分析結果の解釈とまとめと関連する先行研究サーベイの追加 (3) 第10回 テーマおよび分析結果に関連する現状・制度的問題点の収集と整理 (1) 第11回 テーマおよび分析結果に関連する現状・制度的問題点の収集と整理 (2) 第12回 テーマおよび分析結果に関連する現状・制度的問題点の収集と整理 (3) 第13回 修士論文の執筆と中間とりまとめ報告 (1) 第14回 修士論文の執筆と中間とりまとめ報告 (2) 第15回 修士論文の執筆と中間とりまとめ報告 (3)
評価方法・基準	: 修士論文: 100%
教材など	: 収集された先行研究論文等、総務省『地方財政白書』
備考	:

■ EE119

科目名	: 日本経済論特論(1) A
担当者	: 岡本 光治
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: ミクロ経済学の基礎理論に習熟し、これをベースにした現実の日本の経済政策について評価すること。
授業内容・方法	: 事例が豊富なすぐれたテキストを精読し、演習問題などを利用して理解の幅を広げる。
授業計画	: 第1回 市場と政府 第2回 供給 第3回 余剰と参入規制 第4回 市場介入 第5回 弾力性・限界収入 第6回 規模の経済:独占 第7回 外部経済と不経済(1) 第8回 外部経済と不経済(2) 第9回 減産補助金と環境権(1) 第10回 情報の非対称性(1) 第11回 情報の非対称性(2) 第12回 公共財 第13回 権利の売買(1) 第14回 権利の売買(2) 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 講義時の発表 30% 発表に関連する質疑 20% テキスト各章末の演習問題を解くことでレポートに替える 50%
教材など	: 八田達夫 著『ミクロ経済学 I』2009年 東洋経済新報社
備考	: より適切なテキストが見つければ、受講生と相談の上、変更することもある。

■ EE120

科目名	: 日本経済論特論 (1) B
担当者	: 岡本 光治
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 春学期に続きミクロ経済学の基礎理論に習熟し、これをベースにした現実の日本の経済政策について評価すること。
授業内容・方法	: 事例が豊富なすぐれたテキストを精読し、演習問題などを利用して理解の幅を広げる。
授業計画	: 第1回 フローとストック 第2回 労働 第3回 生産要素の総量市場と帰属所得(1) 第4回 生産要素の総量市場と帰属所得(2) 第5回 供給者による自家消費 第6回 混雑 第7回 長期と最長期(1) 第8回 長期と最長期(2) 第9回 長期と最長期(3) 第10回 生産と消費の基礎理論(1) 第11回 生産と消費の基礎理論(2) 第12回 厚生経済学の基本定理 第13回 社会的厚生(1) 第14回 社会的厚生(2) 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 講義時の発表 30%、発表に関連する質疑 20%、テキスト各章末の演習問題を解くことでレポートに替える 50%
教材など	: 八田達夫『ミクロ経済学Ⅱ』2009年 東洋経済新報社
備考	: より適切なテキストが見つければ、受講生と相談の上、変更することもある。

■ EE121

科目名	: 日本経済論特論演習（1） I
担当者	: 岡本 光治
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 戦後日本経済史の再検討(成長経済から成熟経済への転換)
授業内容・方法	: 指定したテキストの各章を順次検討し、発表と質疑を繰り返して議論を積み上げていく。
授業計画	: 第1回 日本経済は本質的に「異質」なのか(問題提起) 第2回 戦後史の中の「傾斜生産方式」 第3回 (要点の整理と意見交換) 第4回 ドッジラインと朝鮮戦争 第5回 (要点の整理と意見交換) 第6回 日本の高度成長と成長理論 第7回 (要点の整理と意見交換) 第8回 日本の貯蓄率はなぜ高かったのか? 第9回 (要点の整理と意見交換) 第10回 高度成長と 構造変化 第11回 (要点の整理と意見交換) 第12回 高度成長とその終了 第13回 (要点の整理と意見交換) 第14回 日本の産業政策(展望) 第15回 日本経済の特殊性(展望)
評価方法・基準	: 講義時の発表 30%、発表に関連する質疑 20%、 各章の問題点を掘り下げ、レポートにまとめて提出 50%
教材など	: 大来洋一『戦後日本経済論』東洋経済新報社 2010年
備考	: さらに適切な新しい文献があれば、変更することもある。

■ EE122

科目名	: 日本経済論特論演習（1）Ⅱ
担当者	: 岡本 光治
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 80年代以降の国際環境の変化と日本経済についての検討。発表と質疑によって議論
授業内容・方法	: 指定されたテキストの中から興味ある論文をいくつか選び、議論を積み上げていく。
授業計画	: 第1回 （富浦論文）「輸入競争が日本の国内産業に与えた影響について」 第2回 （要点の整理と意見交換(1)） 第3回 （要点の整理と意見交換(2)） 第4回 （天野論文）「対日直接投資の変化と経済的影響」 第5回 （要点の整理と意見交換(1)） 第6回 （要点の整理と意見交換(2)） 第7回 （伊藤・下井論文）「バブル・デフレ期における日本の通商政策」 第8回 （要点の整理と意見交換(1)） 第9回 （要点の整理と意見交換(2)） 第10回 （本間論文）「バブル・デフレ期の日本の食糧・農業問題」 第11回 （要点の整理と意見交換(1)） 第12回 （要点の整理と意見交換(2)） 第13回 （小川論文）「通商政策(国際金融政策)の変化」 第14回 （要点の整理と意見交換(1)） 第15回 （要点の整理と意見交換(2)）
評価方法・基準	: 講義時の発表 30%、関連する質疑 20%、最も関心の高いテーマを掘り下げ、レポートで提出 50%
教材など	: 伊藤元重(編)『国際環境の変化と日本経済』（企画・監修 内閣府経済社会研究所）慶應義塾大学出版会 2009年
備考	: さらに適切な文献があれば、変更することもある。またひとつの論文に沿って、広く関連する文献を取り上げることもある。

■ EE123

科目名	: 日本経済論特論演習（1）Ⅲ
担当者	: 岡本 光治
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 80年代以降の国際環境の変化と日本経済についての検討。発表と質疑によって議論
授業内容・方法	: 指定されたテキストの中から興味ある論文をいくつか選び、議論を積み上げていく。
授業計画	: 第1回 (徳丸論文)「アジア通貨危機と日本の金融機関行動」 第2回 (要点の整理と意見交換(1)) 第3回 (要点の整理と意見交換(2)) 第4回 (河合・高木論文)「為替レート国際収支—プラザ合意から平成不況のマクロ経済」 第5回 (要点の整理と意見交換(1)) 第6回 (要点の整理と意見交換(2)) 第7回 (チャールズ・ホリカワ論文)「高齢化などの構造要因からみた日本の国際収支問題」 第8回 (要点の整理と意見交換(1)) 第9回 (要点の整理と意見交換(2)) 第10回 (後藤論文)「少子高齢化時代における外国人労働者問題」 第11回 (要点の整理と意見交換(1)) 第12回 (要点の整理と意見交換(2)) 第13回 (神田論文)「経済のグローバル化が90年代の労働市場に与えた影響」 第14回 (要点の整理と意見交換(1)) 第15回 (要点の整理と意見交換(2))
評価方法・基準	: 講義時の発表 30%、関連する質疑 20%、最も関心の深かったテーマについて、問題点を掘り下げ、レポート提出 50%
教材など	: 伊藤元重(編)『国際環境の変化と日本経済』(企画・監修 内閣府経済社会研究所) 慶應義塾大学出版会 2009年
備考	: さらに適切な文献があれば、変更することもある。またひとつの論文に沿って、広く関連する文献を取り上げることもある。

■ EE124

科目名	: 日本経済論特論演習（1）Ⅳ
担当者	: 岡本 光治
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 日本経済の構造問題と規制緩和についての検討（修士論文テーマによっては変更の可能性もある。）
授業内容・方法	: 修士論文作成のテーマに従い、関連するいくつかの論文を取り上げ、発表と質疑により議論を積み上げていく。
授業計画	: 第1回 （古城論文）「国際政治と日本の規制緩和、構造改革—国際政治の変化と外圧」 第2回 （要点の整理と意見交換(1)） 第3回 （要点の整理と意見交換(2)） 第4回 （恒川論文）「規制緩和の政治過程—何が変わったのか」 第5回 （要点の整理と意見交換(1)） 第6回 （要点の整理と意見交換(2)） 第7回 （安井・岡崎論文）「労働市場・雇用システム改革」 第8回 （要点の整理と意見交換(1)） 第9回 （要点の整理と意見交換(2)） 第10回 （秋吉・柳川論文）「コーポレート・ガバナンスに関する法制度改革の進展」 第11回 （要点の整理と意見交換(1)） 第12回 （要点の整理と意見交換(2)） 第13回 （江藤論文）「構造改革における規制改革・民営化」 第14回 （要点の整理と意見交換(1)） 第15回 （要点の整理と意見交換(2)）
評価方法・基準	: 修士論文による評価 100%
教材など	: 現在の計画では、寺西重郎（編）『構造問題と規制緩和』企画監修 内閣府経済社会総合研究所 慶應義塾大学出版会 2010年
備考	: 修士論文作成のテーマによって、文献などは適当に変更することもある。また、1つの論文に沿って関連文献を広く取り上げることもある。

■ EE125

科目名	: 日本経済論特論 (2) A
担当者	: 関田 静香
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: テーマは、人口の変化と日本経済への影響であり、到達目標は、今後の人口の変化を確認し、それが日本の経済に及ぼす影響を学び、対応策を考えることができるようになることである。
授業内容・方法	: 教科書に沿ってパワーポイントで説明していく。
授業計画	: 第1回 第1章 (日本の人口変化) 第2回 第1章 (少子化シフトの動き) 第3回 第2章 (出生率の推移) 第4回 第2章 (近年の出生率についての議論) 第5回 第3章 (所得水準と出生率の関係) 第6回 第3章 (子育ての機会費用) 第7回 第4章 (人口オーナスとは) 第8回 第4章 (人口ボーナスから人口オーナスへ) 第9回 第5章 (少子化・人口減少を問題だとする理由についての議論) 第10回 第5章 (一人当たり所得) 第11回 第6章 (人口オーナスと経済成長) 第12回 第6章 (人口オーナス下の成長戦略) 第13回 第7章 (労働力不足の状況) 第14回 第7章 (労働力不足への対応) 第15回 総括
評価方法・基準	: 期末試験 100%
教材など	: 教科書 『人口負荷社会』 小峰 隆夫[著]、日本経済新聞出版社、2010年
備考	:

■ EE126

科目名	: 日本経済論特論 (2) B
担当者	: 関田 静香
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: テーマは、人口の変化と日本経済への影響であり、到達目標は、今後の人口の変化を確認し、それが日本の経済に及ぼす影響を学び、対応策を考えることができるようになることである。
授業内容・方法	: 教科書に沿ってパワーポイントで説明していく。
授業計画	: 第1回 第8章 (高齢者の就業率向上) 第2回 第8章 (女性の就業率向上) 第3回 第9章 (人口減少と市場規模) 第4回 第9章 (女性の進出と企業) 第5回 第10章 (人口オーナスと社会保障) 第6回 第10章 (改革が先送りされる理由) 第7回 第11章 (人口オーナスと社会的意思決定) 第8回 第11章 (民主主義の失敗を是正するには) 第9回 第12章 (地域別の将来人口の姿) 第10回 第12章 (地域から見た人口オーナス問題) 第11回 第13章 (アジアの人口変化) 第12回 第13章 (アジアの人口オーナス) 第13回 第14章 (適応戦略と対応戦略) 第14回 第14章 (人口オーナスへの対応戦略) 第15回 総括
評価方法・基準	: 期末試験 100%
教材など	: 教科書 『人口負荷社会』小峰 隆夫[著]、日本経済新聞出版社、2010年
備考	:

■ EE127

科目名	: 日本経済論特論演習（2） I
担当者	: 関田 静香
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: テーマは、経済データを用いた実証分析であり、到達目標は、修士論文を執筆する上で最低限必要な実証分析を行えるようになることである。
授業内容・方法	: Time Series Processor (TSP) を用いて実証分析を行う方法を学習する。
授業計画	: 第1回 日本経済論特論演習（2） I～IVについて概要説明 第2回 計量経済学とは 第3回 TSP の基本的な操作方法 第4回 TSP の基本的な操作方法（前回の応用問題） 第5回 記述統計 第6回 記述統計（前回の応用問題） 第7回 単純回帰モデル 第8回 単純回帰モデル（前回の応用問題） 第9回 重回帰モデル 第10回 重回帰モデル（前回の応用問題） 第11回 ダミー変数 第12回 仮説検定（両側検定） 第13回 仮説検定（片側検定） 第14回 仮説検定（前2回の応用問題） 第15回 総括
評価方法・基準	: 期末レポート 100%
教材など	: レジュメを毎回配付する。 参考書：白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの計量経済学 第2版』（株）日本評論社
備考	:

■ EE128

科目名	: 日本経済論特論演習（2）Ⅱ
担当者	: 関田 静香
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: テーマは、日本経済の実証分析であり、到達目標は、日本経済の実証分析に関する修士論文を執筆するための準備作業を終わらせることである。
授業内容・方法	: 先行研究のサーベイをし、修士論文のテーマ・使用するデータを決め、推定モデルを構築し、実証分析を行う。
授業計画	: 第1回 受講生の基礎知識・興味のあるテーマの確認 第2回 先行研究の探し方 第3回 先行研究の探索 第4回 先行研究を読み、理論モデルについて、ディスカッション 第5回 先行研究を読み、推定モデルについて、ディスカッション 第6回 先行研究を読み、分析結果について、ディスカッション 第7回 先行研究を読み、残された課題について、ディスカッション 第8回 先行研究を読み、課題の解決方法について、ディスカッション 第9回 修士論文で検証する仮説を決定 第10回 実証分析で使用するデータの探索 第11回 実証分析で使用するデータの決定 第12回 推定モデルの構築 第13回 推定モデルの見直し 第14回 実証分析の実行 第15回 実証分析の見直し
評価方法・基準	: 期末レポート 100%
教材など	: 各自の研究テーマに関連する先行研究をオンライン・ジャーナルなどから入手する。
備考	:

■ EE129

科目名	: 日本経済論特論演習（2）Ⅲ
担当者	: 関田 静香
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: テーマは、日本経済の実証分析であり、到達目標は、修士論文の中間報告会に向けての準備を終わらせることである。
授業内容・方法	: 修士論文を執筆し、中間報告会での発表の準備を行う。
授業計画	: 第1回 論文の構成の確認、論文の書き方 第2回 第1章「背景」を執筆 第3回 第1章「背景」の見直し 第4回 第2章「先行研究」を執筆 第5回 第2章「先行研究」の見直し 第6回 第3章「データ」を執筆 第7回 第3章「データ」の見直し 第8回 第4章「推定モデル」を執筆 第9回 第4章「推定モデル」の見直し 第10回 第5章「実証分析」を執筆 第11回 第5章「実証分析」の見直し 第12回 第6章「結論」の執筆 第13回 第6章「結論」の見直し 第14回 中間報告会での発表準備 第15回 中間報告会での発表準備の見直し
評価方法・基準	: 期末レポート 100%
教材など	: 各自の研究テーマに関連する先行研究をオンライン・ジャーナルなどから入手する。
備考	:

■ EE130

科目名	: 日本経済論特論演習（2）Ⅳ
担当者	: 関田 静香
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: テーマは、日本経済の実証分析であり、到達目標は、修士論文を完成させることである。
授業内容・方法	: 中間報告会で受けたコメントをもとに改訂作業を行い、修士論文を完成させる。
授業計画	: 第1回 中間報告会で頂いたコメントの確認 第2回 コメントに基づいた改訂作業についてディスカッション□ 第3回 改訂作業（第1章「背景」） 第4回 改訂作業（第2章「先行研究」） 第5回 改訂作業（第2章「先行研究」）の見直し 第6回 改訂作業（第3章「データ」） 第7回 改訂作業（第4章「推定モデル」） 第8回 改訂作業（第4章「推定モデル」）の見直し 第9回 改訂作業（第5章「実証分析」） 第10回 改訂作業（第5章「実証分析」）の見直し 第11回 改訂作業（第6章「結論」） 第12回 改訂作業（第6章「結論」）の見直し 第13回 口述試問の準備（パワーポイントの作成） 第14回 口述試問の準備（リハーサル） 第15回 口述試問の準備（質疑応答の準備）
評価方法・基準	: 期末レポート 100%
教材など	: 各自の研究テーマに関連する先行研究をオンライン・ジャーナルなどから入手する。
備考	:

■ EE131

科目名	: 都市経済論特論A
担当者	: 寺崎 友芳
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 都市経済学の理論を習得する。
授業内容・方法	: 第1回～第12回：下記の教科書を用いて講義を行い、都市経済学の理論についての理解を深める。 第13回～第15回：日本における地域問題の現状について講義を行い、理解を深める。
授業計画	: 第1回 第1章 都市と都市システム 第2回 第2章 生産者行動の理論 第3回 第3章 都市が存在する理由 第4回 第4章 消費者行動の理論 第5回 第5章 都市内土地利用の理論Ⅰ 第6回 第6章 都市内土地利用の理論Ⅱ 第7回 第7章 政策的介入が必要な理由 第8回 第8章 土地市場 第9回 第9章 土地政策 第10回 第10章 住宅市場 第11回 第11章 住宅政策 第12回 第12章 都市交通 第13回 日本における地域間格差の現状と対策 第14回 地域金融 第15回 地域政策
評価方法・基準	: 平常点（授業への参加度、討議等）50%、レポート50%
教材など	: 教科書：高橋孝明『都市経済学』（有斐閣ブックス、2012年）
備考	:

■ EE132

科目名	: 都市経済論特論B
担当者	: 寺崎 友芳
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 都市経済学の論文を読み込めるようにする。
授業内容・方法	: 授業中に指示した論文を輪読し、討議する。受講生は、最終回に都市経済学をテーマにしたミニレポートをプレゼンする。
授業計画	: 第1回 論文輪読 第2回 ディスカッション 第3回 論文輪読 第4回 ディスカッション 第5回 論文輪読 第6回 ディスカッション 第7回 論文輪読 第8回 ディスカッション 第9回 論文輪読 第10回 ディスカッション 第11回 論文輪読 第12回 ディスカッション 第13回 論文輪読 第14回 ディスカッション 第15回 受講生によるプレゼン
評価方法・基準	: 平常点（授業への参加度、討議等）50%、レポート50%
教材など	: 教科書：八田達夫『都心回帰の経済学』（日本経済新聞社、2006年）他、適宜指示する。
備考	:

■ EE133

科目名	: 都市経済論特論演習 I
担当者	: 寺崎 友芳
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 受講生の問題意識に沿った文献を購読・整理・検討することで、修士論文作成のための基礎を身に付ける
授業内容・方法	: 受講生は各回、課題文献につき報告し、テーマにつき討議する。
授業計画	: 第1回 ガイダンス・スケジュール確認 第2回 問題意識の確認 第3回 文献の検討 第4回 文献報告、討議 第5回 文献報告、討議 第6回 文献報告、討議 第7回 文献報告、討議 第8回 文献報告、討議 第9回 文献報告、討議 第10回 文献報告、討議 第11回 文献報告、討議 第12回 文献報告、討議 第13回 文献報告、討議 第14回 文献報告、討議 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 授業での報告 (50%) ・ 討議 (50%)
教材など	: 適宜指定
備考	:

■ EE134

科目名	: 都市経済論特論演習Ⅱ
担当者	: 寺崎 友芳
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文のテーマに沿った先行研究を分析し、修士論文の方向性を固める
授業内容・方法	: 受講生は各回、課題文献につき報告し、テーマにつき討議する。
授業計画	: 第1回 ガイダンス・スケジュール確認 第2回 修士論文の方向性について討議 第3回 文献の検討 第4回 文献報告、討議 第5回 文献報告、討議 第6回 文献報告、討議 第7回 文献報告、討議 第8回 文献報告、討議 第9回 文献報告、討議 第10回 文献報告、討議 第11回 文献報告、討議 第12回 文献報告、討議 第13回 文献報告、討議 第14回 まとめ 第15回 修士論文の方向性について確認
評価方法・基準	: 授業での報告 (50%) ・ 討議 (50%)
教材など	: 適宜指定
備考	:

■ EE135

科目名	: 都市経済論特論演習Ⅲ
担当者	: 寺崎 友芳
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文のテーマにつき分析を進め、中間報告を行う。
授業内容・方法	: 受講生は各回、修士論文の進捗状況につき報告し、討議する。
授業計画	: 第1回 ガイダンス・スケジュール確認 第2回 修士論文の作成計画の検討 第3回 修士論文の作成計画の確認 第4回 問題意識の整理 第5回 先行研究の整理1 第6回 先行研究の整理2 第7回 分析結果の報告、討議1 第8回 分析結果の報告、討議2 第9回 分析結果の報告、討議3 第10回 分析結果の報告、討議4 第11回 分析結果の報告、討議5 第12回 インプリケーションの報告、討議1 第13回 インプリケーションの報告、討議2 第14回 今後の課題の報告、討議 第15回 中間報告
評価方法・基準	: 授業での報告 (50%) ・ 討議 (50%)
教材など	: 適宜指定
備考	:

■ EE136

科目名	: 都市経済論特論演習Ⅳ
担当者	: 寺崎 友芳
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文の執筆を進め、完成させる。
授業内容・方法	: 受講生は各回、修士論文の進捗状況につき報告し、討議する。
授業計画	: 第1回 ガイダンス・スケジュール確認 第2回 修士論文作成計画の再検討 第3回 修士論文作成計画の再確認 第4回 修士論文進捗状況の報告、討議1 第5回 修士論文進捗状況の報告、討議2 第6回 修士論文進捗状況の報告、討議3 第7回 修士論文進捗状況の報告、討議4 第8回 修士論文進捗状況の報告、討議5 第9回 修士論文進捗状況の報告、討議6 第10回 修士論文進捗状況の報告、討議7 第11回 修士論文進捗状況の報告、討議8 第12回 修士論文進捗状況の報告、討議9 第13回 修士論文進捗状況の報告、討議10 第14回 修士論文進捗状況の報告、討議11 第15回 最終発表
評価方法・基準	: 授業での報告 (50%) ・ 討議 (50%)
教材など	: 適宜指定
備考	:

■ EE137

科目名	金融論特論（1）A
担当者	西村 佳子
週時間数	2
単位数	2
配当年次	1年
開講期間	春学期
授業目標	金融や金融システムの理論を現実と比較しながら捉え、伝統的な金融理論のみならず、繰り返される金融危機に対する対応まで幅広く学ぶ。
授業内容・方法	テキストを輪読し、適宜担当者が説明を加える方式で進める。
授業計画	第1回 ガイダンス、イントロダクション 第2回 金融取引と金融システム 第3回 日本の金融システム1 第4回 日本の金融システム2 第5回 資金循環と金融構造 第6回 貨幣と決済 第7回 金融市場と新しい金融取引手法1 第8回 金融市場と新しい金融取引手法2 第9回 貸出市場とメインバンク関係1 第10回 貸出市場とメインバンク関係2 第11回 金融システムの安定性と監督・規制1 第12回 金融システムと中央銀行1 第13回 金融システムと中央銀行2 第14回 アメリカ・カナダの金融システム 第15回 欧州諸国の金融システム
評価方法・基準	報告および授業での質疑応答 50%，レポート 50%により評価を行う。
教材など	酒井・鹿野[2011] 『金融システム』などのテキストと関連する論文を教材とする。
備考	演習内容は、受講生の研究テーマにより変更する。

■ EE138

科目名	: 金融論特論（1）B
担当者	: 西村 佳子
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 証券投資・市場における資金調達に関する基礎理論について学び、市場の仕組みと価格、投資理論の基礎的な考え方を知る。
授業内容・方法	: テキストを輪読し、適宜担当者が説明を加える方式で進める。
授業計画	: 第1回 ガイダンス, インTRODクシヨN 第2回 証券と投資 第3回 評価の基本原理 第4回 企業分析 第5回 債券市場 第6回 債券分析 第7回 株式市場 第8回 株式分析 第9回 投資信託 第10回 ポートフォリオ理論 第11回 行動ファイナンス 第12回 デリバティブ市場 第13回 デリバティブ価格と投資戦略 第14回 グローバル投資と各国の証券市場 第15回 オールタナティブ投資
評価方法・基準	: 報告および授業での質疑応答 50%, レポート 50%により評価を行う。
教材など	: 榊原茂樹他[2013]『入門証券論第3版』, 有斐閣コンパクトなどのテキストと関連する論文を教材とする。
備考	: 演習内容は、受講生の研究テーマにより変更する。

■ EE139

科目名	金融論特論演習（1）I
担当者	西村 佳子
週時間数	2
単位数	2
配当年次	1年
開講期間	春学期
授業目標	証券市場のマーケット・マイクロストラクチャーについて、基礎となる理論モデルを学ぶ。
授業内容・方法	テキストを講読し、可能なトピックスについては日本市場のデータを用いて実証分析を行い、分析手法を身につけるとともに、市場の仕組みについての理解を深める。
授業計画	第1回 市場の仕組みと価格形成 1 第2回 市場の仕組みと価格形成 2 第3回 市場の仕組みと価格形成 3 第4回 市場の仕組みと価格形成 4 第5回 在庫モデル 1 第6回 在庫モデル 2 第7回 在庫モデル 3 第8回 在庫モデル 4 第9回 情報ベースモデル 1 第10回 情報ベースモデル 2 第11回 情報ベースモデル 3 第12回 情報トレーダーモデル 1 第13回 情報トレーダーモデル 2 第14回 情報トレーダーモデル 3 第15回 情報トレーダーモデル 4
評価方法・基準	特論演習 I 終了時に提出してもらう簡単なレポート 50%と質疑応答 50%により評価を行う。
教材など	L.Harris[2002] TRADING AND EXCHANGES : Market Microstructure for Practitioners Oxford Univ Press, Roy E. Bailey[2005] The Economics of Financial Markets, Cambridge Univ Pr などのテキストと関連する論文を教材とする。
備考	演習内容は、受講生の研究テーマにより変更する。

■ EE140

科目名	: 金融論特論演習（1）Ⅱ
担当者	: 西村 佳子
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 証券市場のマーケット・マイクロストラクチャーについて、基礎となる理論モデルを学ぶ。
授業内容・方法	: テキストを講読し、可能なトピックスについては日本市場のデータを用いて実証分析を行い、分析手法を身につけるとともに、市場の仕組みについての理解を深める。
授業計画	: 第1回 戦略的トレーダーモデル 1 第2回 戦略的トレーダーモデル 2 第3回 戦略的トレーダーモデル 3 第4回 戦略的トレーダーモデル 4 第5回 情報と価格 1 第6回 情報と価格 2 第7回 情報と価格 3 第8回 情報と価格 4 第9回 市場の安定性 1 第10回 市場の安定性 2 第11回 市場の流動性 1 第12回 市場の流動性 2 第13回 市場の流動性 3 第14回 市場の流動性 4 第15回 流動性に関する論文の輪読
評価方法・基準	: 特論演習Ⅱ終了時に提出してもらった簡単なレポート 50%と質疑応答 50%により評価を行う。
教材など	: L.Harris[2002] TRADING AND EXCHANGES : Market Microstructure for Practitioners Oxford Univ Press, Roy E. Bailey[2005] The Economics of Financial Markets, Cambridge Univ Pr などのテキストと関連する論文を教材とする。
備考	: 演習内容は、受講生の研究テーマにより変更する。

■ EE141

科目名	: 金融論特論演習（1）Ⅲ
担当者	: 西村 佳子
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 証券市場についてテーマを定めて理論モデルの理解、データの収集、実証分析を行う。
授業内容・方法	: 受講生が主体的にテーマを定め、テーマに関連した論文の輪読と実証分析を行う。
授業計画	: 第1回 論文輪読1 第2回 論文輪読2 第3回 論文輪読3 第4回 論文輪読4 第5回 データ収集やモデルの検討1 第6回 データ収集やモデルの検討2 第7回 データ収集やモデルの検討3 第8回 データ収集やモデルの検討4 第9回 実証分析1 第10回 実証分析2 第11回 実証分析3 第12回 実証分析4 第13回 モデルの再検討や論文輪読1 第14回 モデルの再検討や論文輪読2 第15回 モデルの再検討や論文輪読3
評価方法・基準	: 特論演習Ⅲ終了時に提出してもらう簡単なレポート50%と質疑応答50%により評価を行う。
教材など	: 研究テーマに沿った論文やテキストを教材とする。
備考	: 演習内容は、受講生の研究テーマにより決定する。

■ EE142

科目名	金融論特論演習（1）IV
担当者	西村 佳子
週時間数	2
単位数	2
配当年次	2年
開講期間	秋学期
授業目標	証券市場についてテーマを定めて理論モデルの構築、実証分析を行い修士論文をまとめる。
授業内容・方法	受講生が主体的にテーマを定め、テーマに関連した論文の輪読と実証分析を行う。
授業計画	第1回 実証分析1 第2回 実証分析2 第3回 実証分析3 第4回 実証分析4 第5回 理論モデルの再検討1 第6回 理論モデルの再検討2 第7回 理論モデルの再検討3 第8回 関連論文の再検討1 第9回 関連論文の再検討2 第10回 関連論文の再検討3 第11回 関連論文の再検討4 第12回 実証分析5 第13回 実証分析6 第14回 実証分析7 第15回 実証分析8
評価方法・基準	提出された修士論文の報告 50%、質疑応答 50%により評価を行う。
教材など	研究テーマに沿った論文やテキストを教材とする。
備考	演習内容は、受講生の研究テーマにより決定する。

■ EE143

科目名	: 金融論特論（2）A
担当者	: 坂井 功治
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 金融システムの機能と役割について、理論と実態の両面からの理解を深める。
授業内容・方法	: 教科書の輪読
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 金融市場とはなにか 第3回 金融市場とはなにか 第4回 金融市場の不安定性 第5回 金融市場の不安定性 第6回 アメリカの金融システムと日本の金融システム 第7回 アメリカの金融システムと日本の金融システム 第8回 経済理論の進展と金融システム 第9回 経済理論の進展と金融システム 第10回 情報の非対称性と契約の不完備性 第11回 情報の非対称性と契約の不完備性 第12回 規制と制度の経済学 第13回 規制と制度の経済学 第14回 金融システムの制度設計 第15回 金融システムの制度設計
評価方法・基準	: 授業時の報告（50%）、期末レポート（50%）
教材など	: 酒井良清『金融システムの経済学』東洋経済新報社、2004年。
備考	: 受講生の研究テーマや興味範囲に応じて、内容は適宜変更する。

■ EE144

科目名	: 金融論特論（2）B
担当者	: 坂井 功治
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 金融システムに関する近年の理論研究と実証研究を概観し、その理解を深める。
授業内容・方法	: 教科書の輪読
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 金融機関の機能 第3回 金融機関の機能 第4回 銀行のリスク管理と自己資本比率規制 第5回 銀行のリスク管理と自己資本比率規制 第6回 銀行業の産業組織 第7回 銀行業の産業組織 第8回 資産運用産業の行動倫理と効率 第9回 資産運用産業の行動倫理と効率 第10回 コーポレート・ガバナンス 第11回 コーポレート・ガバナンス 第12回 日本の企業金融 第13回 日本の企業金融 第14回 金融発展と経済成長 第15回 金融発展と経済成長
評価方法・基準	: 授業時の報告（50%）、期末レポート（50%）
教材など	: 筒井義郎『金融分析の最先端』東洋経済新報社、2000年。
備考	: 受講生の研究テーマや興味範囲に応じて、内容は適宜変更する。

■ EE145

科目名	金融論特論演習（2）I
担当者	坂井 功治
週時間数	2
単位数	2
配当年次	1年
開講期間	春学期
授業目標	金融論に関する受講生の研究テーマや興味範囲に応じて、周辺の理論研究や実証研究の論点およびその議論について幅広くサーベイしていく。これにより、修士論文の研究テーマを絞り込んでいくとともに、研究における問い・仮説・分析方法などについて具体的なイメージを膨らませていく。
授業内容・方法	書籍や論文の報告およびディスカッションを行う。
授業計画	第1回 金融システムにおける銀行の役割 第2回 銀行統合の加速 第3回 銀行のリスク管理 第4回 銀行の流動性供給 第5回 銀行の多様化 第6回 中央銀行 第7回 金融政策における銀行の役割 第8回 中央銀行の最後の貸し手機能 第9回 銀行規制と監督 第10回 銀行のシステミックリスク 第11回 銀行危機 第12回 銀行破綻と伝染 第13回 金融と経済発展 第14回 銀行と実体経済活動 第15回 総括
評価方法・基準	授業時の報告（50%）、期末レポート（50%）
教材など	<ul style="list-style-type: none"> ・George M. Constantinides, M. Harris, Rene M. Stulz (2003) Handbook of the Economics of Finance, Volume 1A: Corporate Finance, North Holland. ・Anjan V. Thakor, Arnoud Boot (2008) Handbook of Financial Intermediation and Banking, Elsevier Science. ・Xavier Freixas, Jean C. Rochet (2008) Microeconomics of Banking, The MIT Press. ・Hans Degryse, Moshe Kim, Steven Ongena (2009) Microeconometrics of Banking. Methods, Applications, and Results, Oxford University Press. ・Allen N. Berger, Phillip Molyneux, John Wilson (2010) The Oxford Handbook of Banking, Oxford University Press. など
備考	受講生の研究テーマや興味範囲に応じて、内容は適宜変更する。

■ EE146

科目名	: 金融論特論演習（2）Ⅱ
担当者	: 坂井 功治
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 演習Ⅰに引き続き、各自の研究テーマや興味範囲に応じて、理論研究や実証研究を幅広くサーベイしていくとともに、修士論文の研究テーマ・問い・仮説・分析方法などについて具体的に固めていく。授業の最後に修士論文の研究計画書を作成する。
授業内容・方法	: 書籍や論文の報告およびディスカッション、研究計画書の報告およびディスカッションを行う。
授業計画	: 第1回 銀行の効率性 第2回 技術進歩と金融革新 第3回 銀行のグローバル化 第4回 中小企業向け貸出 第5回 消費者向け貸出 第6回 住宅向け貸出 第7回 証券化 第8回 米国の銀行 第9回 欧州の銀行 第10回 日本の銀行 第11回 その他の国の銀行 第12回 研究計画書（1）：研究目的 第13回 研究計画書（2）：先行研究 第14回 研究計画書（3）：研究方法 第15回 総括
評価方法・基準	: 授業時の報告（50%）、研究計画書（50%）
教材など	: <ul style="list-style-type: none"> ・George M. Constantinides, M. Harris, Rene M. Stulz (2003) Handbook of the Economics of Finance, Volume 1A: Corporate Finance, North Holland. ・Anjan V. Thakor, Arnoud Boot (2008) Handbook of Financial Intermediation and Banking, Elsevier Science. ・Xavier Freixas, Jean C. Rochet (2008) Microeconomics of Banking, The MIT Press. ・Hans Degryse, Moshe Kim, Steven Ongena (2009) Microeconometrics of Banking. Methods, Applications, and Results, Oxford University Press. ・Allen N. Berger, Phillip Molyneux, John Wilson (2010) The Oxford Handbook of Banking, Oxford University Press. など
備考	: 受講生の研究テーマや興味範囲に応じて、内容は適宜変更する。

■ EE147

科目名	: 金融論特論演習（2）Ⅲ
担当者	: 坂井 功治
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 研究計画書にもとづき、修士論文を執筆していく。
授業内容・方法	: 修士論文の経過報告およびディスカッションを行う。
授業計画	: 第1回 テーマと問題意識（1） 第2回 テーマと問題意識（2） 第3回 テーマと問題意識（3） 第4回 サーベイ（1） 第5回 サーベイ（2） 第6回 サーベイ（3） 第7回 理論モデルと仮説（1） 第8回 理論モデルと仮説（2） 第9回 理論モデルと仮説（3） 第10回 統計手法と計量手法（1） 第11回 統計手法と計量手法（2） 第12回 統計手法と計量手法（3） 第13回 データの収集と構築（1） 第14回 データの収集と構築（2） 第15回 データの収集と構築（3）
評価方法・基準	: 授業時の報告（50%）、修士論文の進捗状況（50%）
教材など	: <ul style="list-style-type: none"> • George M. Constantinides, M. Harris, Rene M. Stulz (2003) Handbook of the Economics of Finance, Volume 1A: Corporate Finance, North Holland. • Anjan V. Thakor, Arnoud Boot (2008) Handbook of Financial Intermediation and Banking, Elsevier Science. • Xavier Freixas, Jean C. Rochet (2008) Microeconomics of Banking, The MIT Press. • Hans Degryse, Moshe Kim, Steven Ongena (2009) Microeconometrics of Banking. Methods, Applications, and Results, Oxford University Press. • Allen N. Berger, Phillip Molyneux, John Wilson (2010) The Oxford Handbook of Banking, Oxford University Press. など
備考	: 受講生の研究テーマや興味範囲に応じて、内容は適宜変更する。

■ EE148

科目名	: 金融論特論演習 (2) IV
担当者	: 坂井 功治
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 引き続き、修士論文の執筆を行い、修士論文を完成させる。
授業内容・方法	: 修士論文の経過報告およびディスカッションを行う。
授業計画	: 第1回 記述統計 (1) 第2回 記述統計 (2) 第3回 推定式の定式化 (1) 第4回 推定式の定式化 (2) 第5回 推定 (1) 第6回 推定 (2) 第7回 検定 (1) 第8回 検定 (2) 第9回 頑健性チェック (1) 第10回 頑健性チェック (2) 第11回 論文執筆 (1) 第12回 論文執筆 (2) 第13回 論文執筆 (3) 第14回 論文執筆 (4) 第15回 論文執筆 (5)
評価方法・基準	: 授業時の報告 (50%)、修士論文 (50%)
教材など	: <ul style="list-style-type: none"> • George M. Constantinides, M. Harris, Rene M. Stulz (2003) Handbook of the Economics of Finance, Volume 1A: Corporate Finance, North Holland. • Anjan V. Thakor, Arnoud Boot (2008) Handbook of Financial Intermediation and Banking, Elsevier Science. • Xavier Freixas, Jean C. Rochet (2008) Microeconomics of Banking, The MIT Press. • Hans Degryse, Moshe Kim, Steven Ongena (2009) Microeconometrics of Banking. Methods, Applications, and Results, Oxford University Press. • Allen N. Berger, Phillip Molyneux, John Wilson (2010) The Oxford Handbook of Banking, Oxford University Press. など
備考	: 受講生の研究テーマや興味範囲に応じて、内容は適宜変更する。

■ EE149

科目名	: 国際金融論特論A
担当者	: 葉原 壽人
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 幅広い国際金融の世界の基礎概念を習得する。
授業内容・方法	: 基本書を読み、レポートの問題点をまとめる。
授業計画	: 第1回 国際金融の基本概念 第2回 外国為替市場 第3回 為替市場と為替相場 第4回 国際収支と国際資産負債残高表 第5回 経常収支の理論 第6回 為替相場決定論Ⅰ：古典派的世界 第7回 為替相場決定論Ⅱ：ケインズ的世界 第8回 為替相場決定論Ⅲ：資産接近 第9回 通貨代替の理論 第10回 変動相場制下の円 第11回 経常収支と資本輸出 第12回 国際通貨制度の理論・歴史Ⅰ 第13回 国際通貨制度の理論・歴史Ⅱ 第14回 国際通貨制度の選択 第15回 通貨競争の理論
評価方法・基準	: 発表 40%、レポートの内容 60%
教材など 備 考	: 岩波書店 『国際金融』 浜田宏一、有斐閣 『国際金融論1』 藤田誠一・小川栄治

■ EE150

科目名	: 国際金融論特論B
担当者	: 葉原 壽人
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 国際金融論特論Aに続いて、幅広い国際金融の世界の基礎概念を習得する。
授業内容・方法	: 基本書を読み、問題点をレポートにまとめる。
授業計画	: 第1回 国際通貨制度の設計 第2回 為替相場決定理論・再論 第3回 経常収支変動の静学モデル 第4回 経常収支変動の動学モデル 第5回 経常収支と異時点間の資源配分 第6回 米国の債務問題 第7回 経常収支赤字の持続可能性 第8回 国際金融市場 第9回 国際金融システムの安定性 第10回 国際資本移動 第11回 資本自由化問題 第12回 通貨危機の諸理論 第13回 為替相場制度の選択 第14回 通貨統合の理論 第15回 国際政策協調と通貨制度改革案
評価方法・基準	: 発表 40%、レポートの内容 60%
教材など	: 岩波書店 『国際金融』 浜田宏一、有斐閣 『国際金融論1』 藤田誠一・小川栄治
備考	:

■ EE151

科目名	: 国際金融論特論演習 I
担当者	: 葉原 壽人
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 国際金融論特論で学んだ基礎概念をより詳しく学ぶ。
授業内容・方法	: 基本書を読んで、問題点をレポートにまとめる。
授業計画	: 第1回 国際収支表と為替相場 第2回 購買力平価理論 第3回 バラッサ・サムエルソン定理 第4回 金利平価理論 第5回 予想形成の理論 第6回 リスク・プレミアム 第7回 伸縮価格マネタリー・アプローチ 第8回 硬直価格マネタリー・アプローチ 第9回 ポートフォリオ・アプローチ 第10回 効率的市場仮説 第11回 マンデル・フレミング・モデル 第12回 為替介入の理論 第13回 通貨危機：第一世代モデル 第14回 通貨危機：第二世代モデル 第15回 通貨危機の伝染の諸理論
評価方法・基準	: 発表 40%、レポートの内容 60%
教材など	: 有斐閣 『MBAのための国際金融』 小川栄治・川崎健太郎
備考	:

■ EE152

科目名	: 国際金融論特論演習Ⅱ
担当者	: 葉原 壽人
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 国際金融論特論で学んだ基礎概念をより深く学ぶ。
授業内容・方法	: 基本書を読んで、問題点をレポートにまとめる。
授業計画	: 第1回 グローバリゼーションと国際金融 第2回 最適通貨圏の理論とユーロ 第3回 変動相場制下のドルと米国 第4回 サブプライム問題と国際金融 第5回 開発途上国と国際金融 第6回 ユーロをめぐる諸問題 第7回 グローバリゼーションと金融技術革新 第8回 日本経済と国際金融 第9回 東アジア金融危機の教訓 第10回 ロシア・中南米金融危機の教訓 第11回 人民元を巡る国際通貨問題 第12回 国際金融の多極化と安定化 第13回 グローバル・インバランスの考え方 第14回 グローバル・インバランスの帰結 第15回 国際金融・通貨体制の将来像
評価方法・基準	: 発表 40%、レポートの内容 60%
教材など	: 有斐閣 『現代国際金融 3』 田中素香・岩田建治
備考	:

■ EE153

科目名	: 国際金融論特論演習Ⅲ
担当者	: 葉原 壽人
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 国際金融論特論で学んだ基礎概念を歴史的視点から学ぶ。
授業内容・方法	: 基本書を読んで、問題点をレポートにまとめる。
授業計画	: 第1回 国際金本位制 (対称性) 第2回 再建金本位制 第3回 1930年代 第4回 覇権国の移行 第5回 ブレトンウッズ体制 (非対称性) 第6回 対称性と非対称性 第7回 変動相場制 第8回 プラザ合意移行の変動相場制 第9回 欧州通貨統合史 第10回 円の国際金融史 第11回 国際銀行史 第12回 国際金融機関史 第13回 非対称性とサブプライム危機 第14回 非対称性の帰結 第15回 国際通貨・金融体制の将来
評価方法・基準	: 発表 40%、レポートの内容 60%
教材など	: 有斐閣 『国際金融史』 上川孝夫・矢後和彦、配付プリント
備考	:

■ EE154

科目名	: 国際金融論特論演習Ⅳ
担当者	: 葉原 壽人
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 国際金融論特論で学んだ基礎概念からより高度な理論を学ぶ。
授業内容・方法	: 重要論文集 (Handbook of International Economics III: North - Holland)) を読んで、問題点をレポートにまとめる。
授業計画	: 第1回 論文集: Chapter 32 (PPP) 第2回 論文集: Chapter 33 (NominalRate) 第3回 論文集: Chapter 34 (Intertemporal) 第4回 論文集: Chapter 35 (Trade) 第5回 論文集: Chapter 36 (FixedRate) 第6回 論文集: Chapter 37-1 (Puzzle-1) 第7回 論文集: Chapter 37-2 (Puzzle-2) 第8回 論文集: Chapter 37-3 (Puzzle-3) 第9回 論文集: Chapter 37-4 (Puzzle-4) 第10回 論文集: Chapter 37-5 (Puzzle-5) 第11回 論文集: Chapter 37-6 (Puzzle-6) 第12回 論文集: Chapter 38 (Policy) 第13回 論文集: Chapter 39-1 (Debt-1) 第14回 論文集: Chapter 39-2 (Debt-2) 第15回 論文集: Chapter 39-3 (Debt-3)
評価方法・基準	: 発表 40%、レポートの内容 60%
教材など	: North-Holland “ Handbook of International Economics, Volume 3” Gene M. Grossman, Kenneth Rogoff

■ EE155

科目名	: ファイナンス論特論A
担当者	: 福田 充男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: コーポレートファイナンスに関する理論を学びながら、それを応用して現実の資本市場や企業財務の問題について考察する。
授業内容・方法	: 教科書の内容に関する発表・質疑応答
授業計画	: 第1回 証券の価値 (1) 第2回 証券の価値 (2) 第3回 証券の価値 (3) 第4回 リスクとリターン (1) 第5回 リスクとリターン (2) 第6回 リスクとリターン (3) 第7回 資本支出 (1) 第8回 資本支出 (2) 第9回 資本市場の効率性 (1) 第10回 資本市場の効率性 (2) 第11回 資本市場の効率性 (3) 第12回 配当政策 (1) 第13回 配当政策 (2) 第14回 配当政策 (3) 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 発表 (70%)、レポートの内容 (30%)
教材など	: Brealey, Myers, and Allen, Principles of Corporate Finance, McGraw-Hill
備考	:

■ EE156

科目名	: ファイナンス論特論B
担当者	: 福田 充男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: コーポレートファイナンスに関する理論を学びながら、それを応用して現実の資本市場や企業財務の問題について考察する。
授業内容・方法	: 教科書の内容に関する発表・質疑応答
授業計画	: 第1回 資本構成 (1) 第2回 資本構成 (2) 第3回 資本構成 (3) 第4回 オプション (1) 第5回 オプション (2) 第6回 オプション (3) 第7回 負債による資金調達 (1) 第8回 負債による資金調達 (2) 第9回 リスクマネジメント (1) 第10回 リスクマネジメント (2) 第11回 リスクマネジメント (3) 第12回 コーポレートガバナンス (1) 第13回 コーポレートガバナンス (2) 第14回 コーポレートガバナンス (3) 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 発表 (70%)、レポートの内容 (30%)
教材など	: Brealey, Myers, and Allen, Principles of Corporate Finance, McGraw-Hill
備考	:

■ EE157

科目名	: ファイナンス論特論演習 I
担当者	: 福田 充男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: ファイナンスに関する基礎的知識を習得して研究テーマを決める際の指針とする。
授業内容・方法	: 基礎的文献を精読して発表する。
授業計画	: 第1回 ガイダンス 第2回 ファイナンスの基礎 (1) 第3回 ファイナンスの基礎 (2) 第4回 ファイナンスの基礎 (3) 第5回 証券のプライシング (1) 第6回 証券のプライシング (2) 第7回 証券のプライシング (3) 第8回 これまでのまとめ 第9回 資金調達政策 (1) 第10回 資金調達政策 (2) 第11回 資金調達政策 (3) 第12回 配当政策 (1) 第13回 配当政策 (2) 第14回 配当政策 (3) 第15回 これまでのまとめ
評価方法・基準	: 発表 (60%)、レポートの内容 (40%)
教材など	: ファイナンスの教科書
備考	:

■ EE158

科目名	: ファイナンス論特論演習Ⅱ
担当者	: 福田 充男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: ファイナンスの論文を講読・発表して研究テーマの決定につなげる。
授業内容・方法	: 研究テーマに関する文献を精読しつつ実証分析方法方法を習得する。
授業計画	: 第1回 授業内容の打合せ 第2回 修士論文テーマ相談 (1) 第3回 修士論文テーマ相談 (2) 第4回 関連文献の精読と発表 (1) 第5回 関連文献の精読と発表 (2) 第6回 関連文献の精読と発表 (3) 第7回 関連文献の精読と発表 (4) 第8回 実証分析方法の習得 (1) 第9回 実証分析方法の習得 (2) 第10回 実証分析方法の習得 (3) 第11回 実証分析方法の習得 (4) 第12回 データ調査 (1) 第13回 データ調査 (2) 第14回 研究テーマのレポート提出・発表 (1) 第15回 研究テーマのレポート提出・発表 (2)
評価方法・基準	: 発表 (60%)、レポートの内容 (40%)
教材など	: 研究テーマに関する論文・資料
備考	:

■ EE159

科目名	: ファイナンス論特論演習Ⅲ
担当者	: 福田 充男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文のテーマを確定し、分析方法や論文構成について考察する。
授業内容・方法	: 修理論文作成計画に基づき、文献精読、データ収集、実証分析を行う。
授業計画	: 第1回 最新論文の精読・発表 (1) 第2回 最新論文の精読・発表 (2) 第3回 最新論文の精読・発表 (3) 第4回 最新論文の精読・発表 (4) 第5回 仮説の設定と検討 (1) 第6回 仮説の設定と検討 (2) 第7回 仮説の設定と検討 (3) 第8回 仮説と実証方法の検討 (1) 第9回 仮説と実証方法の検討 (2) 第10回 仮説と実証方法の検討 (3) 第11回 予備的実証分析 (1) 第12回 予備的実証分析 (2) 第13回 予備的実証分析 (3) 第14回 修士論文構成を提出・発表 (1) 第15回 修士論文構成を提出・発表 (2)
評価方法・基準	: 発表 (60%)、レポートの内容 (40%)
教材など	: 研究テーマに関する論文・資料
備考	:

■ EE160

科目名	: ファイナンス論特論演習IV
担当者	: 福田 充男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文作成計画に沿って論文を完成させる。
授業内容・方法	: 論文草稿を元に論文構成の確認や修正を行う。
授業計画	: 第1回 先行研究のサーベイと位置付け (1) 第2回 先行研究のサーベイと位置付け (2) 第3回 先行研究のサーベイと位置付け (3) 第4回 実証分析方法の検討 (1) 第5回 実証分析方法の検討 (2) 第6回 実証分析方法の検討 (3) 第7回 データと実証結果の検討 (1) 第8回 データと実証結果の検討 (2) 第9回 データと実証結果の検討 (3) 第10回 修士論文構成の再検討 第11回 修士論文草稿提出・発表 (1) 第12回 修士論文草稿提出・発表 (2) 第13回 修士論文の最終原稿提出・発表 (1) 第14回 修士論文の最終原稿提出・発表 (2) 第15回 口頭試問に備えたりハーサル
評価方法・基準	: 発表 (40%)、論文の内容 (60%)
教材など	: 研究テーマに関する論文・資料
備考	:

■ EE161

科目名	: 社会保障論特論A
担当者	: 福井 唯嗣
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 社会保障制度に関して、経済学的観点から分析するための能力を習得すること。
授業内容・方法	: テキストおよび学術論文の講読により、公的年金および医療保険制度に関する経済学的分析手法について紹介する。
授業計画	: 第1回 ガイダンス・イントロダクション 第2回 社会保障全般（1） 第3回 社会保障全般（2） 第4回 社会保障全般（3） 第5回 社会保障全般（4） 第6回 公的年金（1） 第7回 公的年金（2） 第8回 公的年金（3） 第9回 公的年金（4） 第10回 公的年金（5） 第11回 医療保険（1） 第12回 医療保険（2） 第13回 医療保険（3） 第14回 医療保険（4） 第15回 医療保険（5）
評価方法・基準	: 授業時の報告(60%)、期末レポート(40%)
教材など	: 教科書： 小塩隆士『社会保障の経済学 第4版』（日本評論社、2013年） 参考書： 宮島 洋・西村周三・京極高宣 編『社会保障と経済（全3巻）』（東京大学出版会、2009年～2010年） 橋本 英樹・泉田信行 編『医療経済学講義』（東京大学出版会、2011年）
備考	:

■ EE162

科目名	: 社会保障論特論B
担当者	: 福井 唯嗣
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 社会保障制度に関して、経済学的観点から分析するための能力を習得すること。
授業内容・方法	: テキストおよび学術論文の講読により、介護保険およびその他の社会保障に関するさまざまなトピックにおいて使用される経済学的分析手法について紹介する。
授業計画	: 第1回 ガイダンス・イントロダクション 第2回 介護保険（1） 第3回 介護保険（2） 第4回 介護保険（3） 第5回 介護保険（4） 第6回 雇用保険（1） 第7回 雇用保険（2） 第8回 生活保護（1） 第9回 生活保護（2） 第10回 社会福祉（1） 第11回 社会福祉（2） 第12回 所得分配（1） 第13回 所得分配（2） 第14回 少子化対策（1） 第15回 少子化対策（2）
評価方法・基準	: 授業時の報告(60%)、期末レポート(40%)
教材など	: 教科書： 小塩隆士『社会保障の経済学 第4版』（日本評論社、2013年） 参考書： 宮島 洋・西村周三・京極高宣 編『社会保障と経済（全3巻）』（東京大学出版会、2009年～2010年） 阿部彩・国枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』（東京大学出版会、2008年）
備考	:

■ EE163

科目名	: 社会保障論特論演習 I
担当者	: 福井 唯嗣
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 制度統計からの客観的な現状把握および先行研究のサーベイにより、修士論文における研究テーマとアプローチの方法を具体的に絞り込む。
授業内容・方法	: 修士論文で取り扱う制度に関する基礎的理解を各種資料の講読により進める。また、制度統計を活用して、制度の現状を理解把握させることで、修士論文における問題意識を醸成する。同時に、内外の先行研究を講読し、修士論文の方向性を具体的に定めさせる。
授業計画	: 第1回 社会保障制度に関する経済学的研究の紹介 (1) 第2回 社会保障制度に関する経済学的研究の紹介 (2) 第3回 社会保障制度に関する経済学的研究の紹介 (3) 第4回 論文テーマの検討 (1) 第5回 論文テーマの検討 (2) 第6回 論文テーマに関する基礎知識の確認 (1) 第7回 論文テーマに関する基礎知識の確認 (2) 第8回 制度統計に基づく現状分析・先行研究の講読 (1) 第9回 制度統計に基づく現状分析・先行研究の講読 (2) 第10回 制度統計に基づく現状分析・先行研究の講読 (3) 第11回 現状分析についてのドキュメント化支援 (1) 第12回 現状分析についてのドキュメント化支援 (2) 第13回 先行研究についてのドキュメント化支援 (1) 第14回 先行研究についてのドキュメント化支援 (2) 第15回 ドキュメント報告
評価方法・基準	: 報告(60%)、ドキュメント(40%)
教材など	: 授業時に指示
備考	:

■ EE164

科目名	: 社会保障論特論演習Ⅱ
担当者	: 福井 唯嗣
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 先行研究の講読により、修士論文で使用する分析手法を自ら活用できるようにする。
授業内容・方法	: 関連する内外の先行研究を講読した上で、実証分析による場合は、データの収集整理をサポートするとともに予備的分析により分析手法を習得させる。理論分析による場合は、分析結果のアウトプットのための数値計算手法について習得させる。
授業計画	: 第1回 先行研究の講読による分析手法の理解（1） 第2回 先行研究の講読による分析手法の理解（2） 第3回 先行研究の講読による分析手法の理解（3） 第4回 先行研究の講読による分析手法の理解（4） 第5回 先行研究の講読による分析手法の理解（5） 第6回 データの収集整理または数値計算手法の紹介（1） 第7回 データの収集整理または数値計算手法の紹介（2） 第8回 データの収集整理または数値計算手法の紹介（3） 第9回 データの収集整理または数値計算手法の紹介（4） 第10回 データの収集整理または数値計算手法の紹介（5） 第11回 予備的分析による実習または数値計算手法の実習（1） 第12回 予備的分析による実習または数値計算手法の実習（2） 第13回 予備的分析による実習または数値計算手法の実習（3） 第14回 予備的分析による実習または数値計算手法の実習（4） 第15回 予備的分析による実習または数値計算手法の実習（5）
評価方法・基準	: 報告(50%)、実習(50%)
教材など	: 授業時に指示
備考	:

■ EE165

科目名	: 社会保障論特論演習Ⅲ
担当者	: 福井 唯嗣
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 中間報告を目途に、修士論文の主たる部分について完成させる。
授業内容・方法	: 毎回の進捗状況確認とその都度のアドバイスにより、修士論文の執筆をサポートする。中間報告までに修士論文の主たる部分については完成するよう、スケジュール管理を徹底させる。
授業計画	: 第1回 分析部分ドキュメント完成に向けた指導 (1) 第2回 分析部分ドキュメント完成に向けた指導 (2) 第3回 分析部分ドキュメント完成に向けた指導 (3) 第4回 分析部分ドキュメント完成に向けた指導 (4) 第5回 分析部分ドキュメント完成に向けた指導 (5) 第6回 サーベイ部分ドキュメント完成に向けた指導 (1) 第7回 サーベイ部分ドキュメント完成に向けた指導 (2) 第8回 サーベイ部分ドキュメント完成に向けた指導 (3) 第9回 現状理解部分ドキュメント完成に向けた指導 (1) 第10回 現状理解部分ドキュメント完成に向けた指導 (2) 第11回 現状理解部分ドキュメント完成に向けた指導 (3) 第12回 中間報告用ドキュメント全体の確認 (1) 第13回 中間報告用ドキュメント全体の確認 (2) 第14回 中間報告に向けた指導 (1) 第15回 中間報告に向けた指導 (2)
評価方法・基準	: 報告 (60%)、中間報告用ドキュメント (40%)
教材など	: 授業時に指示
備考	:

■ EE166

科目名	: 社会保障論特論演習Ⅳ
担当者	: 福井 唯嗣
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 中間報告で受けたコメントを踏まえ論文を改訂するとともに、論文の全体的構成や細かい箇所について綿密に再検討させることで修士論文を完成させる。口述試問に向けた報告準備をサポートする。
授業内容・方法	: 毎回の進捗状況確認とその都度のアドバイスにより、修士論文の完成をサポートする。中間報告で受けたコメントに対する対応、論文の全体的構成や論文に盛り込む内容の取舍選択など、論文としての体裁を整えるための指導を行う。修士論文完成後は口頭試問における報告・質疑応答に関する指導を行う。
授業計画	: 第1回 論文改訂事項についての検討(1) 第2回 論文改訂事項についての検討(2) 第3回 進捗状況報告(1) 第4回 進捗状況報告(2) 第5回 進捗状況報告(3) 第6回 全体構成についての検討 第7回 進捗状況報告(1) 第8回 進捗状況報告(2) 第9回 進捗状況報告(3) 第10回 論文全体の最終チェック(1) 第11回 論文全体の最終チェック(2) 第12回 論文全体の最終チェック(3) 第13回 口述試問に向けた指導(1) 第14回 口述試問に向けた指導(2) 第15回 口述試問に向けた指導(3)
評価方法・基準	: 報告(20%)、修士論文(80%)
教材など	: 授業時に指示
備考	:

■ EE167

科目名	: 医療経済学特論A
担当者	: 花岡 智恵
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 医療経済学の基礎を習得する
授業内容・方法	: 受講生による教科書の輪読
授業計画	: 第1回 Introduction
	: 第2回 Microeconomic Tools for Health Economics
	: 第3回 Statistical Tools for Health Economics
	: 第4回 Economic Efficiency and Cost-Benefit Analysis
	: 第5回 Production of Health (1)
	: 第6回 Production of Health (2)
	: 第7回 The Production, Cost, and Technology of Health Care
	: 第8回 Demand for Health Capital (1)
	: 第9回 Demand for Health Capital (2)
	: 第10回 Demand and Supply of Health Insurance
	: 第11回 Consumer Choice and Demand (1)
	: 第12回 Consumer Choice and Demand (2)
	: 第13回 Asymmetric Information and Agency
	: 第14回 The Organization of Health Insurance Markets
	: 第15回 Nonprofit Firms
評価方法・基準	: 授業での報告 : 50%、レポート : 50%。
教材など	: Folland, Sherman, Allen Goodman, and Miron Stano. 2012. Economics of Health and Health Care (7 th edition). Prentice Hall.
備考	:

■ EE168

科目名	: 医療経済学特論B
担当者	: 花岡 智恵
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 医療経済学の基礎を習得する
授業内容・方法	: 受講生による教科書の輪読
授業計画	: 第1回 Hospitals and Long-Term Care (1) 第2回 Hospitals and Long-Term Care (2) 第3回 The Physician's Practice 第4回 Health Care Labor Markets and Professional Training 第5回 The Pharmaceutical Industry 第6回 Equity, Efficiency, and Need 第7回 Government Intervention in Health Care Markets (1) 第8回 Government Intervention in Health Care Markets (2) 第9回 Government Regulation: Principal Regulatory Mechanisms (1) 第10回 Government Regulation: Principal Regulatory Mechanisms (2) 第11回 Social Insurance (1) 第12回 Social Insurance (2) 第13回 Comparative Health Care Systems 第14回 Health System Reform 第15回 The Health Economics of Bads
評価方法・基準	: 授業での報告 : 50%、レポート : 50%。
教材など	: Folland, Sherman, Allen Goodman, and Miron Stano. 2012. Economics of Health and Health Care (7 th edition). Prentice Hall.
備考	:

■ EE169

科目名	: 医療経済学特論演習 I
担当者	: 花岡 智恵
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文作成に必要な医療経済の分析手法を習得する。
授業内容・方法	: 受講生が担当する章のレジюмеおよび do file (Stata) を準備し、報告を行う。
授業計画	: 第1回 ガイダンス 第2回 Stata の基本操作 第3回 Stata の基本操作 第4回 Carrying out an Empirical Project 第5回 The Nature of Econometrics and Economic Data 第6回 The Simple Regression Model 第7回 The Simple Regression Model 第8回 The Simple Regression Model 第9回 Multiple Regression Analysis: Estimation 第10回 Multiple Regression Analysis: Estimation 第11回 Multiple Regression Analysis: Estimation 第12回 Multiple Regression Analysis: Inference 第13回 Multiple Regression Analysis: Inference 第14回 Multiple Regression Analysis: OLS Asymptotic 第15回 Multiple Regression Analysis: OLS Asymptotic
評価方法・基準	: 授業での報告 : 100%
教材など	: Wooldridge, Jeffrey M. (2012). Introductory Econometrics: A Modern Approach. South-Western College Publishers, Fifth Edition.
備考	: Stata (バージョン 13 以上) がインストールされているノートパソコンを持参すること。受講生の修士論文のテーマに応じて、内容は適宜変更する。

■ EE170

科目名	: 医療経済学特論演習Ⅱ
担当者	: 花岡 智恵
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文作成に必要な医療経済の分析手法を習得する。
授業内容・方法	: 受講生が分担する章のレジюмеおよび do file (Stata) を準備し、報告を行う。
授業計画	: 第1回 ガイダンス 第2回 Multiple Regression Analysis: Further Issues 第3回 Multiple Regression Analysis: Further Issues 第4回 Multiple Regression Analysis with Qualitative Information: Binary (or Dummy) Variables 第5回 Multiple Regression Analysis with Qualitative Information: Binary (or Dummy) Variables 第6回 Heteroskedasticity 第7回 Heteroskedasticity 第8回 More on Specification and Data Problems 第9回 More on Specification and Data Problems 第10回 Pooling Cross Sections across Time: Simple Panel Data Methods 第11回 Pooling Cross Sections across Time: Simple Panel Data Methods 第12回 Advanced Panel Data Methods 第13回 Advanced Panel Data Methods 第14回 Instrumental Variables Estimation and Two Stage Least Squares 第15回 Instrumental Variables Estimation and Two Stage Least Squares
評価方法・基準	: 授業での報告 : 100%
教材など	: Wooldridge, Jeffrey M. (2012). Introductory Econometrics: A Modern Approach. South-Western College Publishers, Fifth Edition.
備考	: Stata (バージョン 13 以上) がインストールされているノートパソコンを持参すること。受講生の修士論文のテーマに応じて、内容は適宜変更する。

■ EE171

科目名	: 医療経済学特論演習Ⅲ
担当者	: 花岡 智恵
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文のアウトラインを完成させることを目標とする
授業内容・方法	: 受講生による修士論文の報告
授業計画	: 第1回 検証仮説および先行研究の報告
	: 第2回 検証仮説および先行研究の報告
	: 第3回 検証仮説および先行研究の報告
	: 第4回 検証仮説および先行研究の報告
	: 第5回 検証仮説および先行研究の報告
	: 第6回 検証仮説および先行研究の報告
	: 第7回 データと分析手法の検討
	: 第8回 データと分析手法の検討
	: 第9回 データと分析手法の検討
	: 第10回 データと分析手法の検討
	: 第11回 分析結果の報告
	: 第12回 分析結果の報告
	: 第13回 分析結果の報告
	: 第14回 分析結果の報告
	: 第15回 分析結果の報告
評価方法・基準	: 修士論文の報告 : 100%
教材など	: 適宜指示する
備考	:

■ EE172

科目名	: 医療経済学特論演習Ⅳ
担当者	: 花岡 智恵
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文の完成
授業内容・方法	: 受講生の報告およびディスカッション
授業計画	: 第1回 論文執筆指導 第2回 論文執筆指導 第3回 論文執筆指導 第4回 論文執筆指導 第5回 論文執筆指導 第6回 論文執筆指導 第7回 論文執筆指導 第8回 論文執筆指導 第9回 論文執筆指導 第10回 論文執筆指導 第11回 論文執筆指導 第12回 論文執筆指導 第13回 最終報告 第14回 最終報告 第15回 最終報告
評価方法・基準	: 修士論文: 100%
教材など	: 適宜指示する
備考	:

■ EE173

科目名	: 労働経済学特論A
担当者	: 田中 寧
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 労働に関する様々なトピックス（ミクロ中心）を理論的に分析していく。
授業内容・方法	: 毎回、受講生が事前に与えられた教材についてレジメを作成し発表する。
授業計画	: 第1回 講義内容の紹介と発表分担の決定 第2回 労働経済学の分析枠組 第3回 労働供給の決定：労働力参加 第4回 労働供給の決定：女子労働 第5回 労働供給の決定：非正規労働 第6回 労働供給の決定：所得レジャー選択モデルⅠ 第7回 労働供給の決定：所得レジャー選択モデルⅡ 第8回 労働需要の決定：派生需要としての労働需要 第9回 労働需要の決定：労働の限界生産性 第10回 労働需要の決定：短期の労働需要 第11回 労働需要の決定：長期の労働需要 第12回 労働市場のメカニズム：完全競争 第13回 労働市場のメカニズム：不完全競争 第14回 マクロ労働経済学：総需要総供給と雇用 第15回 マクロ労働経済学：失業と物価
評価方法・基準	: 授業での発表70%、レポート30%
教材など	: Borjas “Labor Economics” など
備考	:

■ EE174

科目名	: 労働経済学特論B
担当者	: 田中 寧
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 労働に関する様々なトピックス（ミクロ中心）を理論的に分析していく。
授業内容・方法	: 毎回、受講生が事前に与えられた教材についてレジメを作成し発表する。
授業計画	: 第1回 講義内容の紹介と発表分担の決定 第2回 人的資本論 I 第3回 人的資本論 II 第4回 シグナリング理論 I 第5回 シグナリング理論 II 第6回 OJTモデル I 第7回 OJTモデル II 第8回 効率賃金仮説 I 第9回 効率賃金仮説 II 第10回 暗黙の雇用契約 I 第11回 暗黙の雇用契約 II 第12回 エージェンシーモデル I 第13回 エージェンシーモデル II 第14回 差別の理論 I 第15回 差別の理論 II
評価方法・基準	: 授業での発表70%、レポート30%
教材など	: Borjas “Labor Economics” など
備考	:

■ EE175

科目名	: 労働経済学特論演習 I
担当者	: 田中 寧
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 実証分析のツールとしての初歩的な統計学と計量経済学の知識の習得
授業内容・方法	: 毎回、受講生が事前に与えられた教材についてレジメを作成し発表する。
授業計画	: 第1回 授業内容の紹介と打合せ 第2回 統計の基礎知識 第3回 様々な分布 I 第4回 様々な分布 II 第5回 点推定の概念 第6回 検定と区間推定 第7回 重回帰分析 I 第8回 重回帰分析 II 第9回 重回帰分析 III 第10回 時系列分析 I 第11回 時系列分析 II 第12回 クロスセクション分析 I 第13回 クロスセクション分析 II 第14回 ロジットモデル I 第15回 ロジットモデル II
評価方法・基準	: 授業での発表70%、レポート30%
教材など	: レベルに合わせて、「統計学入門」あるいは「人文・社会科学の統計学」 (東京大学教養学部統計学教室編集)
備考	:

■ EE176

科目名	: 労働経済学特論演習Ⅱ
担当者	: 田中 寧
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文テーマの決定
授業内容・方法	: 毎回、受講生が興味のある論文をまとめ発表し、これに基づき修士論文の方向性指導を行う。
授業計画	: 第1回 授業内容の紹介と打合せ 第2回 修士論文テーマの紹介と相談Ⅰ 第3回 修士論文テーマの紹介と相談Ⅱ 第4回 関連文献のまとめと発表Ⅰ 第5回 関連文献のまとめと発表Ⅱ 第6回 関連文献のまとめと発表Ⅲ 第7回 関連文献のまとめと発表Ⅳ 第8回 データ収集Ⅰ 第9回 データ収集Ⅱ 第10回 データ収集Ⅲ 第11回 データ収集Ⅳ 第12回 修士論文のテーマ決定 第13回 修士論文の構成決定 第14回 データの分析Ⅰ 第15回 データの分析Ⅱ
評価方法・基準	: 授業での発表70%、レポート30%
教材など	: 受講生の選ぶテーマに沿って指示
備考	:

■ EE177

科目名	: 労働経済学特論演習Ⅲ
担当者	: 田中 寧
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文の作成
授業内容・方法	: 受講生が修士論文の各章を作成し、または、データ分析し、これについてアドバイスを 行う。
授業計画	: 第1回 修士論文構成の最終調整Ⅰ 第2回 修士論文構成の最終調整Ⅱ 第3回 論文作成：問題意識Ⅰ 第4回 論文作成：問題意識Ⅱ 第5回 データ分析 第6回 データ分析 第7回 データ分析 第8回 データ分析 第9回 データ分析 第10回 データ分析 第11回 データ分析 第12回 データ分析 第13回 論文作成：先行研究Ⅰ 第14回 論文作英：先行研究Ⅱ 第15回 論文作成：先行研究Ⅲ
評価方法・基準	: 授業での発表70%、レポート30%
教材など	: 受講生のテーマをもとに、授業中に指示
備考	: 原則として修士論文は以下の章で構成される：問題意識、先行研究、分析とその結果、 まとめ

■ EE178

科目名	: 労働経済学特論演習Ⅳ
担当者	: 田中 寧
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文の完成
授業内容・方法	: 受講生が修士論文の各章を作成し、これについてアドバイスをを行うことで、論文の精度を上げていく。
授業計画	: 第1回 論文作成：分析とその結果Ⅰ 第2回 論文作成：分析とその結果Ⅱ 第3回 論文作成：分析とその結果Ⅲ 第4回 論文作成：分析とその結果Ⅳ 第5回 論文作成：分析とその結果Ⅴ 第6回 論文作成：分析とその結果Ⅵ 第7回 論文作成：まとめⅠ 第8回 論文作成：まとめⅡ 第9回 論文作成：まとめⅢ 第10回 論文の完成Ⅰ 第11回 論文の完成Ⅱ 第12回 模擬発表Ⅰ 第13回 中間調整 第14回 模擬発表Ⅱ 第15回 最終調整
評価方法・基準	: 授業での発表70%、レポート30%
教材など	: 受講生のテーマをもとに、授業中に指示
備考	: 原則として修士論文は以下の章で構成される：問題意識、先行研究、分析とその結果、まとめ

■ EE179

科目名	: 国際経済論特論A
担当者	: 大川 良文
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 国際貿易論について、基礎的な学修をする。
授業内容・方法	: 国際貿易論のテキストについて、毎回受講生のレジュメ報告によって授業を進める。
授業計画	: 第1回 国際貿易理論の概要 第2回 第1章 比較優位の基礎 第3回 第1章 比較優位の基礎 第4回 第2章 比較優位と貿易利益 第5回 第2章 比較優位と貿易利益 第6回 第3章 比較優位と自由貿易均衡 第7回 第3章 比較優位と自由貿易均衡 第8回 第4章 貿易自由化と所得分配 第9回 第4章 貿易自由化と所得分配 第10回 第5章 貿易政策分析の基礎 第11回 第5章 貿易政策分析の基礎 第12回 第6章 貿易政策分析の展開 第13回 第6章 貿易政策分析の展開 第14回 講義内容の復習(1) 第15回 講義内容の復習(2)
評価方法・基準	: 受講生のレジュメ発表(30%)、テキストの練習問題に対する理解度(70%)
教材など	: 教科書: 中西訓嗣『国際経済学～国際貿易編』ミネルヴァ書房 2013
備考	: 簡単な微分と指数計算ができるようにしておいてください。

■ EE180

科目名	: 国際経済論特論B
担当者	: 大川 良文
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 国際貿易論について、応用的な学修をする。
授業内容・方法	: 国際貿易論のテキストについて、毎回受講生のレジュメ報告によって授業を進める。
授業計画	: 第1回 第7章 独占・寡占市場と貿易 第2回 第7章 独占・寡占市場と貿易 第3回 第8章 規模の経済性と製品差別化の役割 第4回 第8章 規模の経済性と製品差別化の役割 第5回 第9章 生産活動の国際展開と規制 第6回 第9章 生産活動の国際展開と規制 第7回 第10章 自由貿易と保護貿易 第8回 第10章 自由貿易と保護貿易 第9回 第11章 貿易交渉とルール 第10回 第11章 貿易交渉とルール 第11回 第12章 経済成長と貿易 第12回 第12章 経済成長と貿易 第13回 第13章 地域貿易協定・経済統合 第14回 第13章 地域貿易協定・経済統合 第15回 講義内容の復習
評価方法・基準	: 受講生のレジュメ発表(30%)、テキストの練習問題に対する理解度(70%)
教材など	: 教科書：中西訓嗣『国際経済学～国際貿易編』ミネルヴァ書房 2013
備考	: 簡単な微分と指数計算ができるようにしておいてください。

■ EE181

科目名	: 国際経済論特論演習 I
担当者	: 大川 良文
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 国際貿易に関する数理モデルを用いた分析能力を身に着ける。
授業内容・方法	: 受講生によるレジュメ報告によって行う。
授業計画	: 第1回 ガイダンス
	第2回 第1章 分析の基礎
	第3回 第1章 分析の基礎
	第4回 第2章 リカードモデル
	第5回 第2章 リカードモデル
	第6回 第3章 特殊の要素モデル
	第7回 第3章 特殊の要素モデル
	第8回 第4章 ヘクシャー・オリーン・サムエルソンモデル
	第9回 第4章 ヘクシャー・オリーン・サムエルソンモデル
	第10回 第5章 貿易均衡
	第11回 第5章 貿易均衡
	第12回 第6章 貿易政策論の基礎
	第13回 第6章 貿易政策論の基礎
	第14回 第7章 海外直接投資
	第15回 第7章 海外直接投資
評価方法・基準	: 受講生のレジュメ発表(30%)、テキストの練習問題に対する理解度(70%)
教材など	: 教科書: 中西訓嗣・広瀬憲三・井川一宏『国際経済学理論』有斐閣 2003
備考	:

■ EE182

科目名	: 国際経済論特論演習Ⅱ
担当者	: 大川 良文
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 国際貿易に関する数理モデルを用いた分析能力を身に着ける。
授業内容・方法	: 受講生によるレジュメ報告によって行う。
授業計画	: 第1回 第8章 不完全競争の貿易理論 1-寡占モデル 第2回 第8章 不完全競争の貿易理論 1-寡占モデル 第3回 第9章 不完全競争の貿易理論 2-独占的競争モデル 第4回 第9章 不完全競争の貿易理論 2-独占的競争モデル 第5回 第13章 経済発展と国際経済 第6回 第13章 経済発展と国際経済 第7回 第13章 経済発展と国際経済 第8回 第14章 経済統合 第9回 第14章 経済統合 第10回 第15章 管理貿易 第11回 第15章 管理貿易 第12回 第15章 管理貿易 第13回 第16章 国際政治経済学 第14回 第16章 国際政治経済学 第15回 第16章 国際政治経済学
評価方法・基準	: 受講生のレジュメ発表(30%)、テキストの練習問題に対する理解度(70%)
教材など	: 教科書: 中西訓嗣・広瀬憲三・井川一宏『国際経済学理論』有斐閣 2003
備考	: 第5回以降の内容は受講生の学問的関心に合わせて変更する可能性があります。

■ EE183

科目名	: 国際経済論特論演習Ⅲ
担当者	: 大川 良文
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文作成に向けた研究活動に対する支援
授業内容・方法	: 修士論文のテーマ設定・先行研究の収集やその理解についてゼミ生と意見交換していく
授業計画	: 第1回 テーマ設定に関する報告① 第2回 テーマ設定に関する報告② 第3回 テーマ設定に関する報告③ 第4回 テーマ設定に関する報告④ 第5回 先行研究に関する報告① 第6回 先行研究に関する報告② 第7回 先行研究に関する報告③ 第8回 先行研究に関する報告④ 第9回 先行研究に関する報告⑤ 第10回 先行研究に関する報告⑥ 第11回 先行研究のまとめと修士論文のテーマの決定① 第12回 先行研究のまとめと修士論文のテーマの決定② 第13回 中間報告に向けた指導① 第14回 中間報告に向けた指導② 第15回 中間報告に向けた最終報告
評価方法・基準	: 授業における発表(50%)、修士論文の研究計画に関するレポート(50%)
教材など	: その都度提供する。
備考	:

■ EE184

科目名	: 国際経済論特論演習Ⅳ
担当者	: 大川 良文
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文の完成
授業内容・方法	: 受講生による報告
授業計画	: 第1回 修士論文に関する研究報告① 第2回 修士論文に関する研究報告② 第3回 修士論文に関する研究報告③ 第4回 修士論文に関する研究報告④ 第5回 修士論文に関する研究報告⑤ 第6回 修士論文に関する研究報告⑥ 第7回 修士論文に関する研究報告⑦ 第8回 修士論文に関する研究報告⑧ 第9回 修士論文に関する研究報告⑨ 第10回 修士論文に関する研究報告⑩ 第11回 修士論文の最終稿に関する意見交換① 第12回 修士論文の最終稿に関する意見交換② 第13回 修士論文の最終稿に関する意見交換③ 第14回 修士論文に関するプレゼン演習① 第15回 修士論文に関するプレゼン演習②
評価方法・基準	: 修士論文によって評価する(100%)。
教材など	: その都度提供する。
備考	:

■ EE185

科目名	: 国際貿易論特論A
担当者	: 川越 吉孝
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 国際貿易論に関する論文を読む基礎力をつける。
授業内容・方法	: 受講生の数によるが、基本的に輪読形式をとる予定である。
授業計画	: 第1回 ガイダンス 第2回 貿易政策のないクールノー競争モデル 第3回 貿易政策のないベルトラン競争モデル 第4回 Brander and Spencer (1985) JIE ① 第5回 Brander and Spencer (1985) JIE ② 第6回 Brander and Spencer (1985) JIE ③ 第7回 Eaton and Grossman (1986) QJE ① 第8回 Eaton and Grossman (1986) QJE ② 第9回 Eaton and Grossman (1986) QJE ③ 第10回 Brander and krugman (1983) JIE ① 第11回 Brander and krugman (1983) JIE ② 第12回 Brander and krugman (1983) JIE ③ 第13回 Krugman (1979) JIE ① 第14回 Krugman (1979) JIE ② 第15回 Krugman (1979) JIE ③
評価方法・基準	: 講義中の発言と報告(50%)、レポート(50%)
教材など	: オンラインより各自ダウンロードすること。詳しくは初回に説明する。
備考	: 受講前に、微分と積分が問題なくできるようにしておくこと。

■ EE186

科目名	: 国際貿易論特論B
担当者	: 川越 吉孝
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 国際貿易理論の先端研究の傾向を知ることによって論文作成の方向性を学習する。
授業内容・方法	: 受講生による報告
授業計画	: 第1回 ガイダンス 第2回 Manasse and Turrini (2001)を読む① 第3回 Manasse and Turrini (2001)を読む② 第4回 Manasse and Turrini (2001)を読む③ 第5回 Melitz (2003)を読む① 第6回 Melitz (2003)を読む② 第7回 Melitz (2003)を読む③ 第8回 国際貿易と国際輸送インフラに関する論文を読む① 第9回 国際貿易と国際輸送インフラに関する論文を読む② 第10回 国際貿易と国際輸送インフラに関する論文を読む③ 第11回 各自の興味のある論文を読む① 第12回 各自の興味のある論文を読む② 第13回 各自の興味のある論文を読む③ 第14回 これまで読んだ論文のモデルの問題点を指摘し拡張する。 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 報告 50% レポート 50%
教材など	: オンラインジャーナルよりダウンロードする。
備考	: 数多くの論文を読むことが論文作成には必要なので、国際貿易論特論演習も合わせて受講することを勧める。内容は受講生の興味によって柔軟に変更するので、受講前に一度連絡してください。

■ EE187

科目名	: 国際貿易論特論演習 I
担当者	: 川越 吉孝
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 国際貿易理論で修士論文を作成するための基本的な手法として数学の学習をする。
授業内容・方法	: 受講生による報告。ただし、手書きでいいので必ず毎回レジュメを作成すること。
授業計画	: 第1回 chapter 1 第2回 chapter 2 第3回 chapter 3 第4回 chapter 4 第5回 chapter 5 第6回 chapter 6 第7回 chapter 7 第8回 chapter 8 第9回 chapter 9 第10回 chapter 10 第11回 chapter 11 第12回 chapter 12 第13回 chapter 13 第14回 chapter 14 第15回 chapter 15
評価方法・基準	: 宿題 100%
教材など	: A. Chaing and K. Wainwright, <i>Fundamental Methods of Mathematical Economics</i> , McGraw-Hill; 4th Revised, 2005.
備考	:

■ EE188

科目名	: 国際貿易論特論演習Ⅱ
担当者	: 川越 吉孝
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文に向けた問題意識を持つことを目標とする。そのために国際的に標準的なテキストを読み、幅広い国際貿易論のテーマに触れる。
授業内容・方法	: 受講生による報告。ただし、手書きでいいので必ず毎回レジюмеを作成すること。
授業計画	: 第1回 ガイダンス 第2回 Two-sector models 第3回 the Heckscher-Ohlin model 第4回 Many goods and factors 第5回 Trade in intermediate inputs and wages 第6回 Increasing returns and the gravity equation 第7回 Import tariffs 第8回 Import quotas 第9回 Export subsidies 第10回 Political economy of trade policy 第11回 Dumping 第12回 trade and endogenous growth 第13回 Multinationals and organization of the firm 第14回 Gains from trade and regional agreements 第15回 まとめと今後の学習について
評価方法・基準	: 授業時の報告 50% レポート 50%
教材など	: Feenstra, <i>Advanced International Trade: Theory and Evidence</i> , 2003, Princeton university press.
備考	:

■ EE189

科目名	: 国際貿易論特論演習Ⅲ
担当者	: 川越 吉孝
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文作成に向けた研究活動を行う。
授業内容・方法	: 受講生による報告。ただし、手書きでいいので必ず毎回レジュメを作成すること。
授業計画	: 第1回 先行研究の報告① 第2回 先行研究のモデルの問題点の指摘① 第3回 モデルの拡張① 第4回 先行研究の報告② 第5回 先行研究のモデルの問題点の指摘② 第6回 モデルの拡張② 第7回 先行研究の報告③ 第8回 先行研究のモデルの問題点の指摘③ 第9回 モデルの拡張③ 第10回 先行研究の報告④ 第11回 先行研究のモデルの問題点の指摘④ 第12回 モデルの拡張④ 第13回 先行研究の報告⑤ 第14回 先行研究のモデルの問題点の指摘⑤ 第15回 モデルの拡張⑤
評価方法・基準	: 修士論文の原案に関するレポート 100%
教材など	: 受講生の作成する修士論文のアイデア
備考	:

■ EE190

科目名	: 国際貿易論特論演習Ⅳ
担当者	: 川越 吉孝
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文を完成させる。
授業内容・方法	: 受講生による報告。ただし、手書きでいいので必ず毎回レジュメを作成すること。
授業計画	: 第1回 先行研究の報告① 第2回 先行研究のモデルの問題点の指摘① 第3回 モデルの拡張① 第4回 先行研究の報告② 第5回 先行研究のモデルの問題点の指摘② 第6回 モデルの拡張② 第7回 先行研究の報告③ 第8回 先行研究のモデルの問題点の指摘③ 第9回 モデルの拡張③ 第10回 修士論文の基本モデルの章を仕上げる 第11回 モデルの応用の章を仕上げる 第12回 まとめの章を仕上げる 第13回 導入の章を仕上げる 第14回 全体を見直す 第15回 報告の練習
評価方法・基準	: 修士論文 100%
教材など	: 受講生の作成する修士論文
備考	:

■ EE191

科目名	: 開発経済学特論A
担当者	: 大坂 仁
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 開発経済学の概要や理論について参考書にもとづき学習していく。また、東アジアの経済発展の現状や今後の展望についても議論していく。
授業内容・方法	: 講義形式または演習形式にて授業を行う。講義内容、または受講生によって準備された参考書の該当箇所の要約、ならびに関連する事項について議論していく。
授業計画	: 第1回 ガイダンス 第2回 経済発展の理論的枠組 第3回 東アジアおよび途上国経済の実態と展望 第4回 人口問題 第5回 農業開発 第6回 産業構造変化と工業化（1）：経済発展と構造変化 第7回 産業構造変化と工業化（2）：工業化政策 第8回 経済成長論（1）：新古典派経済成長モデル 第9回 経済成長論（2）：内生的成長モデル 第10回 貧困と所得分配の問題（1）：貧困問題 第11回 貧困と所得分配の問題（2）：経済成長と所得分配 第12回 貿易の諸問題 第13回 途上国のマクロ経済政策（1）：マクロ経済の安定化政策 第14回 途上国のマクロ経済政策（2）：開発のための金融・財政政策 第15回 環境問題
評価方法・基準	: 評価は総合的に判断する：平常点(授業での議論など)50%、定期試験またはレポート 50%
教材など	: 参考書等： 速水佑次郎『新版開発経済学』（創文社、2000年）。 Hayami, Yujiro and Yoshihisa Godo (2005), <i>Development Economics (3rd ed.)</i> , Oxford: Oxford University Press.
備考	:

■ EE192

科目名	: 開発経済学特論B
担当者	: 大坂 仁
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 途上国の経済・社会データを分析していく上で必要な計量分析手法の基本的知識について、参考書にもとづき学習していく。
授業内容・方法	: 講義形式または演習形式にて授業を行う。講義内容、または受講生によって準備された参考書の該当箇所の要約、ならびに関連する事項について議論していく。
授業計画	: 第1回 ガイダンス 第2回 途上国データに関する基本的知識 (1) : 途上国の統計データの状況 第3回 途上国データに関する基本的知識 (2) : 途上国のデータ分析について 第4回 データ分析の基礎 (1) : モデル設定の方法 第5回 データ分析の基礎 (2) : 分析モデルの仮定 第6回 回帰分析の基本的知識 (1) : 回帰分析の基礎 第7回 回帰分析の基本的知識 (2) : 最小2乗法 第8回 クロスセクション分析の基本的知識 (1) : 単回帰分析 第9回 クロスセクション分析の基本的知識 (2) : 重回帰分析 第10回 クロスセクション分析の基本的知識 (3) : 不均一分散 第11回 クロスセクション分析の基本的知識 (4) : その他の問題 第12回 時系列分析の基本的知識 (1) : 時系列分析の基礎 第13回 時系列分析の基本的知識 (2) : 自己相関 第14回 時系列分析の基本的知識 (3) : その他の問題 第15回 まとめと復習
評価方法・基準	: 評価は総合的に判断する: 平常点(授業での議論など)50%、定期試験またはレポート 50%
教材など	: 参考書等: Mukherjee, Chandan, Howard White and Marc Wuyts (1998), <i>Econometrics and Data Analysis for Developing Countries</i> , London: Routledge (または最新版). Wooldridge, Jeffrey M. (2013), <i>Introductory Econometrics (5th ed.)</i> , Mason, OH: South-Western Cengage Learning.
備考	:

■ EE193

科目名	: 開発経済学特論演習 I
担当者	: 大坂 仁
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 経済成長論の概要や理論について参考書にもとづいて学習していく。随時、関連する論文をレビューし知識を深めていく。
授業内容・方法	: 演習形式にて授業を行う。受講生によって準備された参考書の該当箇所または関連する論文の要約について議論していく。
授業計画	: 第1回 ガイダンス 第2回 経済成長論の概要 第3回 経済成長論 (1) : 基本的な構造 第4回 経済成長論 (2) : 生産関数 第5回 経済成長論 (3) : ソロー - スワン・モデル 第6回 内生的成長論 (1) : 新古典派理論の問題点 第7回 内生的成長論 (2) : 内生的成長モデルの概要 第8回 技術進歩 (1) : 基本的な考え方 第9回 技術進歩 (2) : 技術進歩に関するモデル 第10回 技術の拡散 第11回 成長会計 第12回 地域データによる実証分析 (1) : 収束の概念 第13回 地域データによる実証分析 (2) : 日本における収束 第14回 クロスカントリー実証分析 (1) : 成長率に関する実証分析 第15回 クロスカントリー実証分析 (2) : 頑健性について
評価方法・基準	: 評価は総合的に判断する: 平常点(授業での議論など)50%、定期試験またはレポート 50%
教材など	: 参考書等: Barro, Robert J., and Xavier Sala-i-Martin (2004), <i>Economic Growth (2nd ed.)</i> , Cambridge, Mass.: The MIT Press.
備考	:

■ EE194

科目名	: 開発経済学特論演習Ⅱ
担当者	: 大坂 仁
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 開発経済学ではさまざまなデータを用いて実証分析が行われている。この特論演習Ⅱでは、データ分析をしていく上で必要な計量分析手法について、参考書にもとづいて学習していく。
授業内容・方法	: 演習形式にて授業を行う。受講生によって準備された参考書の該当箇所または関連する論文の要約について議論していく。
授業計画	: 第1回 ガイダンス 第2回 線形回帰分析 (1) : 線形回帰分析の基本的知識 第3回 線形回帰分析 (2) : 線形回帰モデルの推定 第4回 回帰モデルの解釈と比較 (1) : 線形回帰モデルの解釈 第5回 回帰モデルの解釈と比較 (2) : 線形回帰モデルの比較 第6回 内生性、操作変数とGMM (1) : 内生性と操作変数 第7回 内生性、操作変数とGMM (2) : GMMについて 第8回 最尤法 (1) : 最尤法の基本的知識 第9回 最尤法 (2) : 最尤法の事例 第10回 制限従属変数モデル (1) : 切断された回帰モデル 第11回 制限従属変数モデル (2) : トービットモデル 第12回 時系列分析 (1) : 時系列分析の基本的知識 第13回 時系列分析 (2) : 時系列分析の事例 第14回 パネルデータ分析 (1) : パネルデータ分析の基本的知識 第15回 パネルデータ分析 (2) : パネルデータ分析の事例
評価方法・基準	: 評価は総合的に判断する: 平常点(授業での議論など)50%、定期試験またはレポート50%
教材など	: 参考書等: Verbeek, Marno (2012), <i>A Guide to Modern Econometrics (4th ed.)</i> , Chichester: John Wiley and Sons.
備考	:

■ EE195

科目名	: 開発経済学特論演習Ⅲ
担当者	: 大坂 仁
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文の作成
授業内容・方法	: 先行研究の収集やレビューを行い、修士論文（修論）のテーマおよび章立てを検討する。 なお、必要なデータ収集や分析手法の検討を行う。
授業計画	: <ul style="list-style-type: none"> 第1回 ガイダンス 第2回 先行研究の収集（1）：途上国の経済発展について 第3回 先行研究の収集（2）：教育の経済効果について 第4回 先行研究の収集（3）：貧困問題について 第5回 先行研究レビュー（1）：経済発展における教育の経済効果の理論分析 第6回 先行研究レビュー（2）：経済発展における教育の経済効果の実証分析 第7回 先行研究レビュー（3）：経済発展と貧困問題に関する理論分析 第8回 先行研究レビュー（4）：経済発展と貧困問題に関する実証分析 第9回 先行研究レビュー（5）：教育と貧困問題に関する実証分析 第10回 修論章立ての検討（1）：研究動機、経済学的直観、先行研究レビューから章立てを検討 第11回 修論章立ての検討（2）：予想される帰結から設定した章立ての見直し 第12回 データ収集および分析手法の検討（1）：教育に関するデータの収集 第13回 データ収集および分析手法の検討（2）：貧困または所得格差に関するデータの収集 第14回 データ収集および分析手法の検討（3）：収集データ、および分析手法の検討 第15回 分析手法の決定
評価方法・基準	: 評価は総合的に判断する：平常点(授業での議論など)40%、レポート(先行研究レビューのまとめ、およびデータ収集)60%
教材など	: 先行研究など
備考	:

■ EE196

科目名	: 開発経済学特論演習Ⅳ
担当者	: 大坂 仁
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文の完成
授業内容・方法	: 修士論文の分析・作成を行い、修士論文を完成させる。
授業計画	: 第1回 ガイダンス
	: 第2回 修士論文の理論分析 (1) : 経済発展における教育の経済効果に関する理論分析
	: 第3回 修士論文の理論分析 (2) : 経済発展と貧困問題に関する理論分析
	: 第4回 修士論文の理論分析 (3) : 理論分析の見直しと修正
	: 第5回 修士論文の実証分析 (1) : 経済発展における教育の経済効果に関する実証分析
	: 第6回 修士論文の実証分析 (2) : 経済発展と貧困問題に関する実証分析
	: 第7回 修士論文の実証分析 (3) : 教育の経済効果と貧困問題に関する実証分析
	: 第8回 修士論文の実証分析 (4) : 実証分析の見直しと修正
	: 第9回 修士論文の作成 (1) : 研究動機、経済学的直観について執筆 (イントロダクションの作成)
	: 第10回 修士論文の作成 (2) : 理論分析の執筆と作成
	: 第11回 修士論文の作成 (3) : 実証分析の執筆と作成
	: 第12回 修士論文の作成 (4) : 帰結の執筆と作成
	: 第13回 修士論文の修正 (1) : 修士論文前半部分の見直しと修正
	: 第14回 修士論文の修正 (2) : 修士論文後半部分の見直しと修正
	: 第15回 修士論文の完成
評価方法・基準	: 修士論文 100%
教材など	: 先行研究など
備考	:

■ EE197

科目名	: 中国経済論特論A
担当者	: 岑 智偉
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 以下の著名な計量経済学者 Prof. Chow の教科書を用いて、理論と実証の両面で改革前後の中国経済を理解すること。
授業内容・方法	: 講義形式で行う。毎週宿題を与える。
授業計画	: 第1回 Economic Lessons from History (Chap.1) 第2回 Experiments with Planning and Economic Disruptions(Chap.2) 第3回 Economic Reform up to the Mid-1990s (Chap.3) 第4回 Further Reform: Problems and Prospects (Chap. 4) 第5回 Economic Growth -A (Chap.5) 第6回 Economic Growth -B (Chap.5) 第7回 Economic Fluctuations -A (Chap.6) 第8回 Economic Fluctuations -B (Chap.6) 第9回 Macroeconomic Policies-A(Chap.7) 第10回 Macroeconomic Policies-B(Chap.7) 第11回 The Effects of Political Movements on the Macroeconomy -A(Chap.8) 第12回 The Effects of Political Movements on the Macroeconomy -B(Chap.8) 第13回 Consumption-A(Chap.9) 第14回 Consumption-B(Chap.9) 第15回 Summary
評価方法・基準	: 宿題 60%、期末レポート 40%
教材など	: Gregory C. Chow(2002), <i>China's Economic Transformation</i> (Second Edition), Blackwell.
備考	:

■ EE198

科目名	: 中国経済論特論B
担当者	: 岑 智偉
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 以下の教科書を用いて、理論と実証の両面で最近の中国経済を理解すること。
授業内容・方法	: 講義形式で行う。毎週宿題を与える。
授業計画	: 第1回 Higher Education in China: A Growth Paradox?(Chap. 1)
	第2回 Taxation and Economic Growth in China(Chap. 2)
	第3回 How Size Matters to Future Chinese Growth: Some Trade Theoretic Considerations(Chap. 3)
	第4回 Production Innovation, Capital Accumulation, and Endogenous Growth (Chap. 4)
	第5回 Regional Attributes, Public Inputs and Tax Competition for FDI in China (Chap. 5)
	第6回 An Econometric Estimation of Locational Choices of Foreign Direct Investment: The Case of Hong Kong and U.S. Firms in China (Chap. 6)
	第7回 Revealed Comparative Advantages and Intra-regional Trade of the World's Three Major Regions(Chap. 7)
	第8回 Trade, Financial Linkages and Contagion of Currency Crises (Chap. 8)
	第9回 Exchange Rate Dynamics: Where is the Saddle Path?(Chap. 9)
	第10回 How Well Has the Currency Board Performed? Evidence from Hong Kong(Chap. 10)
	第11回 A Modified Harris-Todaro Model of Rural-Urban Migration for China (Chap. 11)
	第12回 The 'Bank Effect' on Chinese Stock Pricing(Chap. 12)
	第13回 China's Food Economy and Its Implications for the Rest of the World(Chap. 13)
	第14回 Summary(1)
	第15回 Summary(2)
評価方法・基準	: 宿題 60%、期末レポート 40%
教材など	: Yum K. Kwan and Eden S. H. Yu (2005), <i>Critical Issues In China's Growth and Development</i> , Ashgate Publishing Limited.
備考	:

■ EE199

科目名	: 中国経済論特論演習 I
担当者	: 岑 智偉
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 演習 I では、最小限必要な計量経済学の知識について学習し、EViews による計量経済分析の練習を行う。
授業内容・方法	: 講義形式で行う。授業内容をより確実に理解して頂くため、毎回、宿題を与える。学生は宿題を完成し次回の授業時間でその結果を報告する。
授業計画	: 第 1 回 EViews 入門 第 2 回 回帰分析の基礎 第 3 回 重回帰分析 第 4 回 系列相関、多重共線性 第 5 回 同時方程式モデル (1) 第 6 回 同時方程式モデル (2) 第 7 回 ARIMA モデルによる時系列データ分析 (1) 第 8 回 ARIMA モデルによる時系列データ分析 (2) 第 9 回 単位根と共和分の検定 (1) 第 10 回 単位根と共和分の検定 (2) 第 11 回 操作変数法 (1) 第 12 回 操作変数法 (2) 第 13 回 パネルデータ分析 (1) 第 14 回 パネルデータ分析 (2) 第 15 回 総復習
評価方法・基準	: 毎回の宿題(50%)と期末レポート試験(50%)
教材など	: (1) 縄田和満『EViews による計量経済分析入門』(朝倉書店、2009) 3,300 円 (2) 山本拓『計量経済学』(新世社、1995 年) 3,465 円 (3) 田中真佐男『E-Views による計量経済分析』 (http://www.fides.dti.ne.jp/q-gmz/page014.html)
備考	:

■ EE200

科目名	: 中国経済論特論演習Ⅱ
担当者	: 岑 智偉
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 演習Ⅱでは、最小限必要な経済学の知識について学習する。
授業内容・方法	: 講義形式で行う。授業内容をより確実に理解して頂くため、毎回、宿題を与える。学生は宿題を完成し次回の授業時間でその結果を報告する。
授業計画	: 第1回 Introduction (the Importance of growth, etc.)
	: 第2回 Growth Models with Exogenous Saving Rates (1) (the Solow-Swan model)
	: 第3回 Growth Models with Exogenous Saving Rates (2) (the Ramsey model)
	: 第4回 Growth Models with Exogenous Saving Rates (3) (convergence and the dispersion of per capita income)
	: 第5回 Summary
	: 第6回 Models of Endogenous Growth (1) (the AK model and a one-sector model with physical and human capital)
	: 第7回 Models of Endogenous Growth (2) (two-sector models of endogenous growth with special attention to the role of human capital)
	: 第8回 Models of Endogenous Growth (3) (technological change: models with an expanding variety of products)
	: 第9回 Models of Endogenous Growth (4) (technological change: Schumpeterian models of quality ladders)
	: 第10回 Models of Endogenous Growth (5) (the diffusion of technology)
	: 第11回 Models of Endogenous Growth (6) (labor supply and population)
	: 第12回 Summary
	: 第13回 Growth Accounting
	: 第14回 Empirical Analysis of Regional Data Sets (1)
	: 第15回 Empirical Analysis of Regional Data Sets (2)
評価方法・基準	: 毎回の宿題(50%)と期末レポート試験(50%)
教材など	: Barro, Robert J., and Xavier Sala-i-Martin (2004), <i>Economic Growth</i> (Second Edition), The MIT Press
備考	:

■ EE201

科目名	: 中国経済論特論演習Ⅲ
担当者	: 岑 智偉
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 演習Ⅲでは、以下の教科書を用いて中国経済について学習する。
授業内容・方法	: 輪読形式で行う。毎回、学生に担当の部分を発表して頂き、それらについてコメントと解説を行う。
授業計画	: 第1回 Introduction 第2回 The Geographical Setting 第3回 The Chinese Economy Before 1949 第4回 The Socialist Era, 1949-1978: Big Push Industrialization and Policy Instability 第5回 Market Transition: Strategy and Process (1) 第6回 Market Transition: Strategy and Process (2) 第7回 The Urban-Rural Divide (1) 第8回 The Urban-Rural Divide (2) 第9回 Growth and Structural Change 第10回 Population Growth and the One-Child Family 第11回 Labor and Human Capital (1) 第12回 Labor and Human Capital (2) 第13回 Living Standards: Incomes, Inequality, and Poverty (1) 第14回 Living Standards: Incomes, Inequality, and Poverty (2) 第15回 Summary
評価方法・基準	: 担当部分の発表(50%)と期末レポート試験(50%)
教材など	: Barry Naughton (2007), <i>The Chinese Economy: Transitions and Growth</i> , The MIT Press
備考	: 修士論文を提出する場合: 以上の内容の代わりに、社会で公表できる中国経済関係の修士論文を完成することを目的とする。演習Ⅲでは、70%~80%完成度の修士論文を完成させ、中間報告を行う。

■ EE202

科目名	: 中国経済論特論演習IV
担当者	: 岑 智偉
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 演習IVでは、以下の教科書を用いて中国経済について学習する。
授業内容・方法	: 輪読形式で行う。毎回、学生に担当の部分を発表して頂き、それらについてコメントと解説を行う。
授業計画	: 第1回 Rural Organization 第2回 Agriculture: Output, Inputs, and Technology 第3回 Rural Industrialization: Township and Village Enterprises (1) 第4回 Rural Industrialization: Township and Village Enterprises (2) 第5回 Industry: Ownership and Governance (1) 第6回 Industry: Ownership and Governance (2) 第7回 Structural Change: Industry, Energy, and Infrastructure (1) 第8回 Structural Change: Industry, Energy, and Infrastructure (2) 第9回 Technology Policy and the Knowledge-based Economy 第10回 International Trade 第11回 Foreign Investment 第12回 Macroeconomic Trends and Cycles 第13回 Financial System 第14回 Environmental Quality and the Sustainability of Growth 第15回 Summary
評価方法・基準	: 担当部分の発表(50%)と期末レポート試験(50%)
教材など	: Barry Naughton (2007), <i>The Chinese Economy: Transitions and Growth</i> , The MIT Press.
備考	: 修士論文を提出する場合: 以上の内容の代わりに、社会で公表できる中国経済関係の修士論文を完成することを目的とする、演習IVでは、(最終提出) 修士論文を完成させ、学内外の研究会でその修士論文の報告を行う。

■ EE209

科目名	: 環境経済学特論A
担当者	: 武田 史郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 現在、私達は地球温暖化、廃棄物問題、公害、自然破壊、生態系破壊等の多様な環境問題に直面しており、世界レベルから地方自治体レベルに渡り、環境問題への対処が重要な政策課題の一つとなっています。この講義では、環境問題の基礎知識とともに、環境問題を経済学の視点から捉えるための手法について学びます。
授業内容・方法	: 受講生によるテキスト、資料の輪読。輪読ではあらかじめ決められた担当者がレジュメを用いて発表を行う。場合によっては、教員による講義形式も採用する。
授業計画	: 第1回 講義内容ガイダンス、及び「環境経済学」についての説明 第2回 経済発展と環境問題 第3回 ごみ問題と循環型社会 第4回 地球温暖化問題 第5回 需要と供給、余剰概念 第6回 外部性と市場の失敗 第7回 削減費用 第8回 直接規制と市場メカニズム 第9回 環境税と補助金 第10回 直接交渉による解決 第11回 排出量取引 第12回 政策手段の選択 第13回 廃棄物政策 第14回 京都議定書と地球温暖化対策 第15回 温暖化政策の現状と今後の課題
評価方法・基準	: 講義における発言、発表 60%、レポート 40%
教材など	: 教科書：栗山浩一・馬奈木俊介、『環境経済学をつかむ』、有斐閣 参考書等：講義中に適宜指定する。
備考	:

■ EE210

科目名	: 環境経済学特論B
担当者	: 武田 史郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 現在、私達は地球温暖化、廃棄物問題、公害、自然破壊、生態系破壊等の多様な環境問題に直面しており、世界レベルから地方自治体レベルに渡り、環境問題への対処が重要な政策課題の一つとなっています。この講義では、環境問題の基礎知識とともに、環境問題を経済学の視点から捉えるための手法について学びます。
授業内容・方法	: 受講生によるテキスト、資料の輪読。輪読ではあらかじめ決められた担当者がレジュメを用いて発表を行う。場合によっては、教員による講義形式も採用する。
授業計画	: 第1回 講義内容ガイダンス、及び「環境経済学」についての説明 第2回 経済学における基礎概念 第3回 環境の価値 第4回 環境評価手法 第5回 費用便益分析 第6回 企業の環境対策 第7回 企業に求められる社会的責任 第8回 企業と環境リスク 第9回 国際貿易と環境 第10回 環境規制と技術進歩 第11回 持続可能な発展 第12回 生物多様性 第13回 地球温暖化とエネルギー 第14回 日本の温暖化対策 第15回 世界の温暖化対策
評価方法・基準	: 講義における発言、発表 60%、レポート 40%
教材など	: 教科書：栗山浩一・馬奈木俊介、『環境経済学をつかむ』、有斐閣 参考書等：講義中に適宜指定する。
備考	:

■ EE211

科目名	: 環境経済学特論演習 I
担当者	: 武田 史郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 環境問題の知識を習得するとともに、経済学の観点から環境問題を分析するアプローチについて理解・習得する。
授業内容・方法	: 受講生によるテキスト、資料の輪読。輪読ではあらかじめ決められた担当者がレジюмеを用いて発表を行う。場合によっては、教員による講義形式も採用する。
授業計画	: 第1回 講義内容ガイダンス、及び「環境経済学」についての説明 第2回 環境問題と政策による解決 第3回 社会選択：どれほどの環境保護をおこなうべきか？ 第4回 効率性と市場 第5回 市場の失敗：公共財と外部性 第6回 ピグー税 第7回 汚染規制 第8回 排出税 第9回 排出許可証取引 第10回 リスクと不確実性 第11回 国際間および地域間の競争 第12回 環境規制の経済効果 第13回 環境に対する需要 第14回 環境評価手法（ヘドニック分析、トラベルコスト法） 第15回 環境評価手法（CVM）
評価方法・基準	: 講義における発言、発表 60%、レポート 40%
教材など	: 教科書：C・D・コルスタッド、『環境経済学入門』、有斐閣、2001年、細江守紀・藤田敏之監訳 参考書等：講義中に適宜指定する。
備考	:

■ EE212

科目名	: 環境経済学特論演習Ⅱ
担当者	: 武田 史郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 環境問題を分析するための様々な実証分析の手法を理解、習得する。
授業内容・方法	: 教員による講義形式と受講生による発表を組み合わせで行う。
授業計画	: 第1回 講義内容ガイダンス 第2回 産業連関表 第3回 産業連関分析 第4回 産業連関分析による温暖化対策の分析 第5回 消費者余剰・生産者余剰 第6回 余剰分析 第7回 余剰分析による高速料金割引きの分析 第8回 一般均衡モデル 第9回 一般均衡モデルの構造 第10回 一般均衡分析 第11回 一般均衡分析による温暖化対策の分析 第12回 計量分析 第13回 計量分析による自動車排ガス規制の分析 第14回 アンケート調査 第15回 アンケート調査による省エネ行動の分析
評価方法・基準	: 講義における発言、発表 60%、レポート 40%
教材など	: 教科書：なし 参考書等： 有村俊秀・岩田和之、『環境規制の政策評価：環境経済学の定量的アプローチ』、上智大学出版、2011年 藤川清史、『産業連関分析入門-Excel と VBA でらくらく IO 分析』、日本評論社、2005年 有村俊秀・武田史郎、『排出量取引と省エネルギーの経済分析』、日本評論社、近刊
備考	:

■ EE213

科目名	: 環境経済学特論演習Ⅲ
担当者	: 武田 史郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文作成のための準備を行う。先行研究の調査、テーマの設定。
授業内容・方法	: 受講生による発表の形式をとる。
授業計画	: 第1回 講義のガイダンス 第2回 修士論文テーマの検討 第3回 先行研究の調査・発表（1） 第4回 先行研究の調査・発表（2） 第5回 先行研究の調査・発表（3） 第6回 先行研究の調査・発表（4） 第7回 先行研究の調査・発表（5） 第8回 修士論文テーマの決定 第9回 修士論文分析手法の検討（1） 第10回 修士論文分析手法の検討（2） 第11回 受講生による研究報告（1） 第12回 受講生による研究報告（2） 第13回 受講生による研究報告（3） 第14回 受講生による研究報告（4） 第15回 受講生による研究報告（5）
評価方法・基準	: 講義における発言、発表 60%、レポート 40%
教材など	: 教科書：なし 参考書等：講義中に適宜指定する。
備考	:

■ EE214

科目名	: 環境経済学特論演習Ⅳ
担当者	: 武田 史郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文作成を行う。
授業内容・方法	: 受講生に修士論文作成の途中経過の発表をしてもらい、修士論文を完成させていきます。
授業計画	: 第1回 修士論文進捗状況の確認 第2回 修士論文のための分析の報告（1） 第3回 修士論文のための分析の報告（2） 第4回 修士論文のための分析の報告（3） 第5回 修士論文のための分析の報告（4） 第6回 修士論文のための分析の報告（5） 第7回 修士論文の内容の中間報告 第8回 修士論文の途中経過の報告（1） 第9回 修士論文の途中経過の報告（2） 第10回 修士論文の途中経過の報告（3） 第11回 修士論文の途中経過の報告（4） 第12回 修士論文の途中経過の報告（5） 第13回 修士論文全体の報告 第14回 口頭試問に向けての準備 第15回 修士論文完成に向けての修正
評価方法・基準	: 修士論文 100%。
教材など	: 教科書：なし 参考書等：講義中に適宜指定する。
備考	:

■ EE215

科目名	: エネルギー資源論特論A
担当者	: 藤井 秀昭
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 本講義では、21世紀の人類にとって重要な問題の一つである経済成長、エネルギー安全保障、環境保全の三つの相互依存関係から生じる「トリレンマ問題」を取り扱う。トリレンマ問題を同時に解決するには低炭素社会への移行が必要であるが、そのために求められる各種経済的手法について研究する。
授業内容・方法	: 教科書（後掲の「教材など」のうちいずれかを選択）にもとづき講義を進める。
授業計画	: 第1回 エネルギー資源論とは何か 第2回 経済成長、エネルギー安全保障、環境保全のトリレンマ問題 第3回 経済成長、エネルギー安全保障、環境保全のトリレンマ問題 第4回 市場の失敗（1） 第5回 市場の失敗（2） 第6回 CAC型、分権的、経済的インセンティブ依拠型政策（1） 第7回 CAC型、分権的、経済的インセンティブ依拠型政策（2） 第8回 税（エネルギー税、炭素税、環境税）（1） 第9回 税（エネルギー税、炭素税、環境税）（2） 第10回 排出権取引（1） 第11回 排出権取引（2） 第12回 国境を越えた汚染問題（地球温暖化、酸性堆積物、オゾン層破壊等）（1） 第13回 国境を越えた汚染問題（地球温暖化、酸性堆積物、オゾン層破壊等）（2） 第14回 持続可能な発展とは何か 第15回 総復習
評価方法・基準	: 授業時の発表60%、レポート40%
教材など	: ① 藤井秀昭『入門・エネルギーの経済学』日本評論社、2014年。 ② 藤井秀昭『東アジアのエネルギーセキュリティ戦略 持続可能な発展に向けて』NTT出版、2005年。 ③ N. ハンレー/J. ショグレン/B. ホワイト、政策科学研究所環境経済学研究会訳『環境経済学』勁草書房、2005年。 ④ Nick Hanley and Edward B. Barbier, <i>Pricing Nature, Cost-Benefit Analysis and Environmental Policy</i> , Edward Elgar, 2009.
備考	:

■ EE216

科目名	: エネルギー資源論特論B
担当者	: 藤井 秀昭
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 本講義では、21世紀の人類にとって重要な問題の一つである経済成長、エネルギー安全保障、環境保全の三つの相互依存関係から生じる「トリレンマ問題」を取り扱う。トリレンマ問題を同時に解決するには低炭素社会への移行が必要であるが、そのために求められる各種経済的手法について研究する。
授業内容・方法	: 教科書（後掲の「教材など」のうちいずれかを選択）にもとづき講義を進める。
授業計画	: 第1回 エネルギー資源論（総論） 第2回 自然資源開発の経済分析（1） 第3回 自然資源開発の経済分析（2） 第4回 自然資源の形態と分類 第5回 再生不可能な自然資源の経済分析（1） 第6回 再生不可能な自然資源の経済分析（2） 第7回 再生可能な自然資源の経済分析（1） 第8回 再生可能な自然資源の経済分析（2） 第9回 森林開発の経済分析（1） 第10回 森林開発の経済分析（2） 第11回 非市場価値評価の理論（1） 第12回 非市場価値評価の理論（2） 第13回 費用便益による環境評価（1） 第14回 費用便益による環境評価（2） 第15回 持続可能な発展の経済分析
評価方法・基準	: 授業時の発表 60%、レポート 40%
教材など	: ① 藤井秀昭『入門・エネルギーの経済学』日本評論社、2014年。 ② 藤井秀昭『東アジアのエネルギーセキュリティ戦略 持続可能な発展に向けて』NTT出版、2005年。 ③ N. ハンレー/J. ショグレン/B. ホワイト、政策科学研究所環境経済学研究会訳『環境経済学』勁草書房、2005年。 ④ Nick Hanley and Edward B. Barbier, <i>Pricing Nature, Cost-Benefit Analysis and Environmental Policy</i> , Edward Elgar, 2009.
備考	:

■ EE217

科目名	: エネルギー資源論特論演習 I
担当者	: 藤井 秀昭
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: エネルギー・環境経済学の基礎理論に関する文献調査を行うことができるようになること。
授業内容・方法	: エネルギー・環境経済問題を研究するために必要な基礎理論の学習を行う。
授業計画	: 第1回 基礎理論文献の収集・選定及び方法論の検討 第2回 基礎理論文献の収集・選定及び方法論の検討 第3回 基礎理論文献の輪読 第4回 基礎理論文献の輪読 第5回 基礎理論文献の輪読 第6回 基礎理論文献の輪読 第7回 基礎理論文献の輪読 第8回 基礎理論文献の輪読 第9回 基礎理論文献の輪読 第10回 基礎理論文献の輪読 第11回 基礎理論文献の輪読 第12回 基礎理論文献の輪読 第13回 基礎理論文献の輪読 第14回 基礎理論文献の再吟味及び議論 第15回 基礎理論文献の再吟味及び議論
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート・報告 50%
教材など	: ① 藤井秀昭『入門・エネルギーの経済学』日本評論社、2014年。 ② 藤井秀昭『東アジアのエネルギーセキュリティ戦略 持続可能な発展に向けて』NTT出版、2005年。 ③ N. ハンレー/J. ショグレン/B. ホワイト、政策科学研究所環境経済学研究会訳『環境経済学』勁草書房、2005年。 ④ Nick Hanley and Edward B. Barbier, <i>Pricing Nature, Cost-Benefit Analysis and Environmental Policy</i> , Edward Elgar, 2009. ⑤ バリー・C. フィールド、秋田次郎・猪瀬秀博・藤井秀昭訳『環境経済学入門』日本評論社、2002年。
備考	: 学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、経済数学及び計量経済学を理解していることが望ましい。

■ EE218

科目名	: エネルギー資源論特論演習Ⅱ
担当者	: 藤井 秀昭
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: エネルギー・環境経済学の基礎理論に関する文献調査を行い、サーベイ論文の作成の準備ができること。
授業内容・方法	: エネルギー・環境経済学の基礎理論を調べ、サーベイ論文の作成方法を基礎から学習する。
授業計画	: 第1回 サーベイ論文の作成方法の基礎指導 第2回 サーベイ論文の作成方法の基礎指導 第3回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の試行的作成 第4回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の試行的作成 第5回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の試行的作成 第6回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の試行的作成 第7回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の試行的作成 第8回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の試行的作成 第9回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の試行的作成 第10回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の試行的作成 第11回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の試行的作成 第12回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の試行的作成 第13回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の試行的作成 第14回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の試行的作成 第15回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の試行的作成
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート・報告 50%
教材など	: ① 藤井秀昭『入門・エネルギーの経済学』日本評論社、2014年。 ② 藤井秀昭『東アジアのエネルギーセキュリティ戦略 持続可能な発展に向けて』NTT出版、2005年。 ③ N. ハンレー/J. ショグレン/B. ホワイト、政策科学研究所環境経済学研究会訳『環境経済学』勁草書房、2005年。 ④ Nick Hanley and Edward B. Barbier, <i>Pricing Nature, Cost-Benefit Analysis and Environmental Policy</i> , Edward Elgar, 2009. ⑤ バリー・C. フィールド、秋田次郎・猪瀬秀博・藤井秀昭訳『環境経済学入門』日本評論社、2002年。
備考	: 学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、経済数学及び計量経済学を理解していることが望ましい。

■ EE219

科目名	: エネルギー資源論特論演習Ⅲ
担当者	: 藤井 秀昭
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: エネルギー・環境経済学の基礎理論に関する文献調査を行い、サーベイ論文の作成ができること。
授業内容・方法	: エネルギー・環境経済学の基礎理論文献の輪読を行い、サーベイ論文の作成を指導する。
授業計画	: 第1回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の作成 第2回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の作成 第3回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の作成 第4回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の作成 第5回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の作成 第6回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の作成 第7回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の作成 第8回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の作成 第9回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の作成 第10回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の作成 第11回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の作成 第12回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の作成 第13回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の作成 第14回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の作成 第15回 基礎理論文献の輪読とサーベイ論文の作成
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート・報告 50%
教材など	: ① 藤井秀昭『入門・エネルギーの経済学』日本評論社、2014年。 ② 藤井秀昭『東アジアのエネルギーセキュリティ戦略 持続可能な発展に向けて』NTT出版、2005年。 ③ N. ハンレー/J. ショグレン/B. ホワイト、政策科学研究所環境経済学研究会訳『環境経済学』勁草書房、2005年。 ④ Nick Hanley and Edward B. Barbier, <i>Pricing Nature, Cost-Benefit Analysis and Environmental Policy</i> , Edward Elgar, 2009. ⑤ バリー・C. フィールド、秋田次郎・猪瀬秀博・藤井秀昭訳『環境経済学入門』日本評論社、2002年。
備考	: 学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、経済数学及び計量経済学を理解していることが望ましい。

■ EE220

科目名	: エネルギー資源論特論演習Ⅳ
担当者	: 藤井 秀昭
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: エネルギー・環境経済学の基礎理論に関する文献調査を行い、サーベイ論文作成及び独自に分析を行うことができ、修士論文を書き上げることができること。
授業内容・方法	: エネルギー・環境経済学における基礎理論の文献調査をもとにサーベイ論文を作成し、独自の分析を加えて、修士論文を完成する。
授業計画	: 第1回 サーベイ論文の仕上げ 第2回 サーベイ論文の仕上げ 第3回 サーベイ論文の仕上げ 第4回 サーベイ論文の仕上げ 第5回 サーベイ論文の仕上げ 第6回 サーベイ論文をもとに独自の分析検討 第7回 サーベイ論文をもとに独自の分析検討 第8回 サーベイ論文をもとに独自の分析検討 第9回 サーベイ論文をもとに独自の分析検討 第10回 サーベイ論文をもとに独自の分析検討 第11回 修士論文の作成及び仕上げ 第12回 修士論文の作成及び仕上げ 第13回 修士論文の作成及び仕上げ 第14回 修士論文の作成及び仕上げ 第15回 修士論文の作成及び仕上げ
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート・報告 50%
教材など	: ① 藤井秀昭『入門・エネルギーの経済学』日本評論社、2014年。 ② 藤井秀昭『東アジアのエネルギーセキュリティ戦略 持続可能な発展に向けて』NTT出版、2005年。 ③ N. ハンレー/J. ショグレン/B. ホワイト、政策科学研究所環境経済学研究会訳『環境経済学』勁草書房、2005年。 ④ Nick Hanley and Edward B. Barbier, <i>Pricing Nature, Cost-Benefit Analysis and Environmental Policy</i> , Edward Elgar, 2009. ⑤ バリー・C. フィールド、秋田次郎・猪瀬秀博・藤井秀昭訳『環境経済学入門』日本評論社、2002年。
備考	: 学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、経済数学及び計量経済学を理解していることが望ましい。

■ EE221

科目名	: 統計学特論A
担当者	: 片岡 佑作
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 統計学の基本的理解
授業内容・方法	: 記述統計から推測までを扱う。テキストに基づく講義であり、受講生に報告を求める場合もある。
授業計画	: 学部と同一の教科書を用いるが講義水準はかなり高い。内容は以下のようである。 第1回 分布の位置を表す代表値 第2回 散らばりを表す代表値 第3回 正規化 第4回 時系列データ 第5回 相関と関連 第6回 相関係数 第7回 関連係数 第8回 確率の計算 第9回 確率変数と期待値 第10回 離散変数 第11回 連続変数 第12回 積率 第13回 ランダムサンプリング 第14回 標本統計量の分布、期待値、分散 第15回 中心極限定理
評価方法・基準	: 講義時の報告内容 (50%)、レポートの完成度 (50%)
教材など	: 教科書: 木下宗七『入門統計学 新版』有斐閣、2009年
備考	: 95% 以上の出席率が必要

■ EE222

科目名	: 統計学特論B
担当者	: 片岡 佑作
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 統計学のより進んだ理解
授業内容・方法	: 推測の部分を扱う。テキストを中心とする講義であり、場合によっては受講生に報告をもとめる。
授業計画	: 講義の展開順序は以下のようである。 第1回 母数とは何か 第2回 推定値の性質 第3回 点推定 第4回 母平均の区間推定 第5回 母比率の区間推定 第6回 検定の設計 第7回 検定における誤り 第8回 正規検定 第9回 t分布にもとづく検定 第10回 比率の検定 第11回 ラスパイレス指数 第12回 パーシェ指数 第13回 回帰の基本的考え方 第14回 単純な回帰 第15回 重回帰
評価方法・基準	: 講義時の報告 (50%)、レポートの完成度 (50%)
教材など	: 教科書: 木下宗七『入門統計学 新版』有斐閣、2009年
備考	: 出席率は 95% 以上が必要

■ EE223

科目名	: 統計学特論演習 I
担当者	: 片岡 佑作
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 統計学、労働法の両面にわたる理解
授業内容・方法	: 統計学と労働法の双方にわたる講義であり、場合により参加者の報告を求める。
授業計画	: 演習のテーマは統計学の労働問題への適用である。 はじめに統計の教科書を読む。 続いて労働法の教科書を読む。 第1回 記述統計の考え方 第2回 データの整理 第3回 代表値、分布の位置、散らばりの程度 第4回 相関と関連 第5回 確率の計算 第6回 関連する分布 第7回 正規分布 第8回 労働契約の意義と特色 第9回 個別的労働関係法の構造・範囲・効力 第10回 就業規則の作成・変更に関する使用者の義務 第11回 就業規則の効力 第12回 労働関係の成立・展開に関する法規整 第13回 非典型的労働関係 第14回 賃金・労働時間・休暇 第15回 労働関係の終了に関する法規整
評価方法・基準	: 参加者の報告の完成度 (50%)、レポート (50%)
教材など	: 教科書: 菅野和夫『労働法 第7版』弘文堂、2005年 木下宗七『入門統計学 新版』有斐閣、2009年
備考	: 出席率は95%以上が必要

■ EE224

科目名	: 統計学特論演習Ⅱ
担当者	: 片岡 佑作
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 統計学と労働法の両分野にわたる進んだ理解
授業内容・方法	: 上記2分野にわたる講義であり、場合により参加者の報告を求める。
授業計画	: 統計の教科書を読む。 続いて労働法の教科書を読む。 第1回 推定とは何か 第2回 推定値の性質 第3回 点推定と区間推定 第4回 仮説検定とは何か 第5回 正規検定 第6回 t検定 第7回 適合度の検定 第8回 労働組合とは何か 第9回 団体交渉 第10回 労働協約の法的取り扱い 第11回 労働協約の成立要件 第12回 労働協約の効力 第13回 労働協約の一般的拘束力 第14回 労働関係紛争の解決手続き 第15回 労働審判、民事通常訴訟
評価方法・基準	: 参加者の報告内容 (50%)、レポート (50%)
教材など	: 教科書: 菅野和夫『労働法 第7版』弘文堂、2005年 木下宗七『入門統計学 新版』有斐閣、2009年
備考	: 出席率は95%以上が必要

■ EE227

科目名	: 経済統計論特論
担当者	: 武田 史郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 経済分析で利用されることが多い統計についての知識を得るとともに、統計を扱う際のノウハウを学ぶ。
授業内容・方法	: 教員による講義、及び受講生による発表の形式で行う。
授業計画	: 第1回 講義内容ガイダンス 第2回 変化率、寄与度 第3回 物価指数 第4回 物価に関する統計 第5回 季節調整 第6回 国民所得統計・作成方法 第7回 国民所得統計・GDP 第8回 国民所得統計・その他 第9回 産業連関表 第10回 マネーストック統計 第11回 金融に関する統計 第12回 家計に関する統計 第13回 労働に関する統計 第14回 国際間の取引に関する統計 第15回 その他の統計
評価方法・基準	: 講義における発言、発表 50%、レポート 50%
教材など	: 教科書：なし 参考書：講義中に適宜指定します。
備考	:

■ EE228

科目名	: 情報経済論特論A
担当者	: 上田 昌史
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: ネットワーク性のある産業の分析方法を理解し、簡単な例を自分で分析出来るようになる技術を身につける。
授業内容・方法	: 指定教科書の輪読、受講生からの報告等。
授業計画	: 第1回 概要説明 第2回 産業組織論とネットワーク・エコノミクス 第3回 コンテストビリティ理論と規制緩和 第4回 コンテストビリティ理論と経済政策 第5回 ボトルネック独占の経済理論 第6回 アクセス・チャージの経済理論 第7回 ネットワーク外部性の経済理論 第8回 ネットワーク外部性と経済政策 第9回 料金体系の経済理論 第10回 ユニバーサル・サービスの経済理論 第11回 インセンティブ規制の経済理論 第12回 日本のテレコム改革 第13回 I T時代のテレコム改革 第14回 複雑系とネットワーク・エコノミクス 第15回 総括
評価方法・基準	: 授業中の報告や授業へのその他貢献を総合的に判断し、平常点のみ(100%)で評価する。
教材など	: 教科書: 依田高典『ネットワーク・エコノミクス』日本評論社
備考	: 学部講義「情報経済学」の履修程度の知識を前提とする。

■ EE229

科目名	: 情報経済論特論B
担当者	: 上田 昌史
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 情報通信産業の最新分析方法を理解し、自分で分析出来るようになる技術を身につける。
授業内容・方法	: 指定教科書の輪読、受講生からの報告等。
授業計画	: 第1回 概要説明 第2回 ブロードバンド時代の競争政策 第3回 日本のブロードバンドの現状 第4回 ネットワーク・エコノミクスの理論と政策 第5回 離散選択分析モデル 第6回 固定系ブロードバンドの分析 第7回 I P電話の分析 第8回 携帯電話の分析 第9回 システム・マイグレーションの分析 第10回 サービス融合の分析 第11回 デジタル・デバイドの分析 第12回 受講生の分析報告1 第13回 受講生の分析報告2 第14回 受講生の分析報告3 第15回 総括
評価方法・基準	: 授業中の報告や授業へのその他貢献を総合的に判断し、平常点のみ(100%)で評価する。
教材など	: 教科書: 依田高典『ブロードバンド・エコノミクス』日本経済新聞出版社
備考	: 大学院講義「情報経済論特論A」の履修程度の知識を前提とする。

■ EE230

科目名	: 計量経済学特論 A
担当者	: 野田 顕彦
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 大学院レベルの計量経済学の理論を修得するためには、線形代数を用いた計量経済学の基礎理論の理解が必要不可欠となる。本講義における具体的な到達目標は、線形代数を通じて計量経済学の基礎理論を理解できるようになることである。
授業内容・方法	: 教科書の輪読
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 線形代数の復習 1 第3回 線形代数の復習 2 第4回 古典的回帰モデル 1 第5回 古典的回帰モデル 2 第6回 多変量回帰モデル 1 第7回 多変量回帰モデル 2 第8回 古典的多変量回帰モデル 1 第9回 古典的多変量回帰モデル 2 第10回 モデルの特定化と多重共線性 1 第11回 モデルの特定化と多重共線性 2 第12回 一般化古典的回帰モデル 1 第13回 一般化古典的回帰モデル 2 第14回 一般化古典的回帰モデル 3 第15回 まとめと復習
評価方法・基準	: 講義中の報告 (60%) と期末レポート (40%)
教材など	: 浅野哲・中村二郎 (2009) 『計量経済学 第2版』有斐閣。
備考	: 学部レベルの線形代数に関する基礎知識が必要である。

■ EE231

科目名	: 計量経済学特論B
担当者	: 野田 顕彦
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 計量経済学特論Aで習得した大学院レベルの計量経済学の基礎理論を踏まえ、より高度な計量経済学の理論について学ぶ。本講義における具体的な到達目標は、一般化モーメント法、離散選択モデル、パネルデータ分析など、より高度な計量経済学の理論を理解できるようになることである。
授業内容・方法	: 教科書の輪読
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 前期の復習 第3回 操作変数法 1 第4回 操作変数法 2 第5回 一般化モーメント法 第6回 最尤法 第7回 質的従属変数 1 第8回 質的従属変数 2 第9回 切断された従属変数 1 第10回 切断された従属変数 2 第11回 パネルデータ分析 1 第12回 パネルデータ分析 2 第13回 特定化の検定 1 第14回 特定化の検定 2 第15回 まとめと復習
評価方法・基準	: 講義中の報告 (60%) と期末レポート (40%)
教材など	: 浅野哲・中村二郎 (2009) 『計量経済学 第2版』有斐閣。
備考	: <ul style="list-style-type: none">• 学部レベルの線形代数に関する基礎知識が必要である。• 計量経済学特論Aを既に履修していることが望ましい。

■ EE236

科目名	: 数理経済学特殊研究
担当者	: 加茂 知幸
週時間数	: ※
単位数	: ※
配当年次	: ※
開講期間	: ※
授業目標	: 一般均衡理論・ゲーム理論・数理経済学に関するオリジナルな研究成果に基づいた論文を作成することを目標とする。
授業内容・方法	: 受講生は、自身が選定したテーマに関連する基本文献および最新の研究論文の内容について発表することが求められる。それに基づいて研究課題のアイデアの詳細について討論し、研究の方向性を定める。その後、研究の進捗状況について報告してもらい、適宜アドバイスを与える。完成された研究成果は学会で報告し、学術雑誌に投稿することが求められる。
授業計画	: 第1回 基本文献および最新論文に関する研究 第2回 基本文献および最新論文に関する研究 第3回 基本文献および最新論文に関する研究 第4回 基本文献および最新論文に関する研究 第5回 基本文献および最新論文に関する研究 第6回 研究課題の選定 第7回 基本文献および最新論文に関する研究 第8回 研究指導 第9回 基本文献および最新論文に関する研究 第10回 研究指導 第11回 研究指導 第12回 研究の進展状況の報告 第13回 研究指導 第14回 研究の進展状況の報告 第15回 研究成果の中間報告 第16回 研究の進展状況の報告 第17回 研究指導 第18回 研究の進展状況の報告 第19回 研究指導 第20回 研究の進展状況の報告 第21回 研究指導 第22回 研究の進展状況の報告 第23回 研究指導 第24回 研究の進展状況の報告 第25回 研究指導 第26回 研究成果のまとめ 第27回 研究成果のまとめ 第28回 研究成果のまとめ 第29回 研究成果発表 第30回 研究成果発表
評価方法・基準	: 論文 (50%) および報告時の口頭試問 (50%) による。
教材など	: 受講者の研究テーマに応じて適宜指示する。
備考	:

■ EE237

科目名	: マクロ経済学特殊研究 (1)
担当者	: 山田 勝裕
週時間数	: ※
単位数	: ※
配当年次	: ※
開講期間	: ※
授業目標	: 経済動学のシミュレーション手法を学び、各自のテーマに関するユニークなシミュレーションを作成する。具体的内容は各人の前期課程で研究したのもでもよいし、新たに選択してもかまわない。
授業内容・方法	: 個別指導：数学解説、プログラム解説、文献講読、データ収集指導
授業計画	: 第1回 CAI マクロ経済学 第2回 CAI ミクロ経済学 第3回 乱数作成による出題問題の数値変更 第4回 結果表の作成 第5回 FNX ファイル作成法と相関分析 第6回 TNX ファイル作成法と回帰分析 第7回 ファイル修正方法 第8回 統計量の計算法の説明 第9回 TNX ファイルからのデータの読み込み 第10回 有意差検定の方法と結果表示 第11回 CAI 正規分布 第12回 正規分布による確率計算 第13回 CAI 線形計画法 第14回 線形計画問題の計算 第15回 輸送問題の計算 第16回 ゲーム理論の説明 第17回 混合戦略解の計算方法 第18回 期間と瞬間の金利計算 第19回 預金金利の計算 第20回 割引率の計算 第21回 割賦方式の計算 第22回 減価償却の計算 第23回 人口ピラミッド作成法 第24回 人口分析の計算法 第25回 自己相関とコレログラム 第26回 スペクトル分析 第27回 ニュートンの補間公式 第28回 階乗関数変換 第29回 弧弾力性分析 第30回 万年カレンダー作成法と単位変換
評価方法・基準	: 授業時の発表 20%、発表 30%、レポート 50% 作成したシミュレーション設計図ないしプログラムを評価対象にします。
教材など	: 担当者作成ソフト YSCP (ソースプログラム)
備考	: 最低限エクセルのマクロが使えることが条件になります。

■ EE238

科目名	: マクロ経済学特殊研究 (2)
担当者	: 寺井 晃
週時間数	: ※
単位数	: ※
配当年次	: ※
開講期間	: ※
授業目標	: マクロ経済学に関する研究を行い、論文の作成を目標とする。論文は、学会にて報告ができ、査読付き雑誌に掲載される事を目指す。これらを通じ、マクロ経済学に関する深い知識や分析能力などが身につくことを目標とする。
授業内容・方法	: 既存研究のサーベイや最新論文の吟味、受講生の執筆論文について、受講生の報告・発表という形式で授業を行う。受講生と担当教員間でのディスカッションにより、授業は進む。
授業計画	: 第1回 イン트로ダクション 第2回 受講生の興味・関心に従い、研究対象を選択 (1) 第3回 論文執筆の手法の検討 (1) 第4回 既存研究のサーベイ (1) 第5回 データ・モデルの吟味 (1) 第6回 分析結果を論文としてまとめる (1) 第7回 学会報告・査読付き雑誌への投稿の検討 (1) 第8回 受講生の興味・関心に従い、研究対象を選択 (2) 第9回 論文執筆の手法の検討 (2) 第10回 既存研究のサーベイ (2) 第11回 データ・モデルの吟味 (2) 第12回 分析結果を論文としてまとめる (2) 第13回 学会報告・査読付き雑誌への投稿の検討 (2) 第14回 受講生の興味・関心に従い、研究対象を選択 (3) 第15回 論文執筆の手法の検討 (3) 第16回 既存研究のサーベイ (3) 第17回 データ・モデルの吟味 (3) 第18回 分析結果を論文としてまとめる (3) 第19回 学会報告・査読付き雑誌への投稿の検討 (3) 第20回 受講生の興味・関心に従い、研究対象を選択 (4) 第21回 論文執筆の手法の検討 (4) 第22回 既存研究のサーベイ (4) 第23回 データ・モデルの吟味 (4) 第24回 分析結果を論文としてまとめる (4) 第25回 学会報告・査読付き雑誌への投稿の検討 (4) 第26回 ここまで執筆した論文のまとめ (1) 第27回 ここまで執筆した論文のまとめ (2) 第28回 ここまで執筆した論文のまとめ (3) 第29回 ここまで執筆した論文のまとめ (4) 第30回 全体のまとめ
評価方法・基準	: 論文の内容(50%)、授業での報告内容(50%)
教材など	: 受講生と相談のうえで決める。雑誌に掲載されている様々な論文が教材となる。
備考	:

■ EE239

科目名	: ミクロ経済学特殊研究 (1)
担当者	: 荒山 裕行
週時間数	: ※
単位数	: ※
配当年次	: ※
開講期間	: ※
授業目標	: 経済理論の応用について学ぶ
授業内容・方法	: ミクロ経済学および価格理論の応用として、「マクロ経済学のミクロ経済学的基礎付け」の考え方に対する理解を促す。講義では、基礎的な経済理論と主要経済指標を突き合わせることで経済モデルの果たすべき役割と機能について、わかりやすく解説する。
授業計画	: 第1回 From Marshall to Becker: the Generalization of Economic Theory (I) 第2回 From Marshall to Becker: the Generalization of Economic Theory (II) 第3回 Theory of Demand & Theory of Supply (I) 第4回 Theory of Demand & Theory of Supply (II) 第5回 Neoclassical Theory of Time Allocation 第6回 Revised Approach to Commodity Choices 第7回 Goods & Service Market and Market of Factors of Production (I) 第8回 Goods & Service Market and Market of Factors of Production (II) 第9回 Partial Equilibrium vs. General Equilibrium 第10回 Net-continuous Production Function: Inactive Factors for Production 第11回 Inner, Outer and Theoretical Cobb-Douglas Production Plane 第12回 Neoclassical Slice vs. General Equilibrium Slice (I) 第13回 Neoclassical Slice vs. General Equilibrium Slice (II) 第14回 Economic Growth: Barro's Interpretation of Solow Model 第15回 Economic Growth: Long-Run Economic Growth (I) 第16回 Economic Growth: Long-Run Economic Growth (II) 第17回 Major Economic Indicators and National-Income Accounting (I) 第18回 Major Economic Indicators and National-Income Accounting (II) 第19回 How Should We Treat Household Production in General Equilibrium?: (I) 第20回 How Should We Treat Household Production in General Equilibrium?: (II) 第21回 Markets in Macroeconomics: Household Budget Constraints (I) 第22回 Markets in Macroeconomics: Household Budget Constraints (II) 第23回 Markets in Macroeconomics: Household Budget Constraints (III) 第24回 Markets in Macroeconomics: Consumption, Saving and Investment 第25回 Economic Fluctuations: Business Cycle Model 第26回 Money and Prices: The Demand for Money 第27回 Money and Prices: Inflation, Money Growth and Interest Rates 第28回 Microeconomic Foundation of Macroeconomics (I) 第29回 Microeconomic Foundation of Macroeconomics (II) 第30回 General Theory of Market Equilibrium: What Is Achieved by Now?
評価方法・基準	: 練習問題(30%)および期末レポート(70%)により評価する。
教材など	: 講義において指示する。
備考	: 講義は、履修生の希望により、英語、日本語、または英語/日本語で行う。

■ EE240

科目名	: ミクロ経済学特殊研究 (2)
担当者	: 小田 秀典
週時間数	: ※
単位数	: ※
配当年次	: ※
開講期間	: ※
授業目標	: 実験経済学・実験哲学研究
授業内容・方法	: 各人の研究課題に応じて、実験の設計と分析および参考文献の講読を行う。
授業計画	: 受講者の実験経済学・実験哲学研究知識の知識と経験に応じて授業を組立てる。基礎的な知識と経験が不十分なときには、共同研究などへの参加を通じて十分な能力をつけることを目指す。 以下の毎回の予定は、特に研究課題の決まっていない院生に対するもので、受講者に研究計画のあるときにはそれに応じて変更する。
	第1回 Constrained Optimisation 演習問題
	第2回 Constrained Optimisation 演習問題
	第3回 Constrained Optimisation 演習問題
	第4回 Dynamical System 演習問題
	第5回 Dynamical System 演習問題
	第6回 Dynamical System 演習問題
	第7回 Simple Decision Model 演習問題
	第8回 Simple Decision Processes 演習問題
	第9回 Markov Decision Processes 演習問題
	第10回 Static Games 演習問題
	第11回 Finite Dynamic Games 演習問題
	第12回 Games with Continuous Strategy Sets 演習問題
	第13回 Infinite Dynamic Games 演習問題
	第14回 Population Games 演習問題
	第15回 Replicator Dynamics 演習問題
	第16回 Continuous Distributions 演習問題
	第17回 Stochastic Orders 演習問題
	第18回 Order Statistics 演習問題
	第19回 Affiliated Random Variables 演習問題
	第20回 Linear Algebra 演習問題
	第21回 Games of Incomplete Information 演習問題
	第22回 Private Value Auctions 演習問題
	第23回 Revenue Equivalence Principle 演習問題
	第24回 Qualifications and Extensions 演習問題
	第25回 Mechanism Design 演習問題
	第26回 Auctions with Independent Values 演習問題
	第27回 Linkage Principle 演習問題
	第28回 Asymmetries 演習問題
	第29回 Efficiency 演習問題
	第30回 Bidding Rings 演習問題
評価方法・基準	: 授業時の発表 50%、レポート 50%
教材など	: 特に教科書や参考書を指定しない。研究の進展に応じて専門雑誌論文を読む。
備考	:

■ EE242

科目名	: 経済史特殊研究
担当者	: 玉木 俊明
週時間数	: ※
単位数	: ※
配当年次	: ※
開講期間	: ※
授業目標	: ※
授業内容・方法	: 経博士論文感性を目指し、口頭発表とレポートの作成を中心に指導をおこなう。何度も発表も繰り返し、レポートを提出し、より質の高い博士論文の作成を目指す。
授業計画	: <ul style="list-style-type: none"> 第1回 博士論文の課題の検討 第2回 博士論文の課題の検討 第3回 博士論文の概要の決定 第4回 博士論文の第1章のテーマに関する発表・質疑応答 第5回 博士論文の第1章に関するコメント 第6回 博士論文の第2章のテーマに関する発表・質疑応答 第7回 博士論文の第2章に関するコメント 第8回 博士論文の第3章に関する発表・質疑応答 第9回 博士論文の第3章に関するコメント 第10回 博士論文の第4章のテーマに関する発表・質疑応答 第11回 博士論文の第4章に関するコメント 第12回 博士論文の第5章に関する発表・質疑応答 第13回 博士論文の結論部分に関する発表・質疑応答 第14回 博士論文の結論部分に関するコメント 第15回 博士論文全体の骨格案の提出 第16回 博士論文全体の酷寒案に関するコメント 1 第17回 博士論文全体の骨格案に関するコメント 2 第18回 コメントに基づいた博士論文修正案の発表 1 第19回 コメントに基づいた博士論文修正案の発表 2 第20回 修正された博士論文第1章のテーマの発表・質疑応答 第21回 修正された博士論文第2章のテーマの発表・質疑応答 第22回 修正された博士論文第3章のテーマの発表・質疑応答 第23回 修正された博士論文第4章のテーマの発表・質疑応答 第24回 修正された博士論文第5章のテーマの発表・質疑応答 第25回 修正された博士論文の結論部分のテーマの質疑応答・発表 第26回 博士論文全体の内容についてのディスカッション 1 第27回 博士論文全体の内容についてのディスカッション 2 第28回 博士論文概要の発表・質疑応答 第29回 博士論文全体に関するコメント 1 第30回 博士論文全体に関するコメント 2
評価方法・基準	: 博士論文 (90%)、平常点 (10%)
教材など	: 研究テーマに関連する文献をコピーする。
備考	:

■ EE243

科目名	: 西洋経済史特殊研究
担当者	: 齊藤 健太郎
週時間数	: ※
単位数	: ※
配当年次	: ※
開講期間	: ※
授業目標	: 近世から 20 世紀初頭までの欧米における技術の発達と技術・技能の伝播について考察・理解を深めることを目標とする。
授業内容・方法	: セミナー形式で、受講者の報告を中心に、議論と解説を行う。
授業計画	: 第 1 回 授業の目標・方針についてのガイダンス。テキストの提示・計画の確認。 第 2 回 近年の西洋経済史における技術・技能移転論についての研究の展開(1)。 第 3 回 近年の西洋経済史における技術・技能移転論についての研究の展開(2)。 第 4 回 近年の西洋経済史における技術・技能移転論についての研究の展開(3)。 第 5 回 近年の西洋経済史における技術・技能移転論についての研究の展開(4)。 第 6 回 18 世紀までの西洋の技術伝播についての研究論文の輪読(1)。 第 7 回 18 世紀までの西洋の技術伝播についての研究論文の輪読(2)。 第 8 回 18 世紀までの西洋の技術伝播についての研究論文の輪読(3)。 第 9 回 19 世紀における西洋の技術伝播についての研究論文の輪読(1)。 第 10 回 19 世紀における西洋の技術伝播についての研究論文の輪読(2)。 第 11 回 19 世紀における西洋の技術伝播についての研究論文の輪読(3)。 第 12 回 20 世紀における西洋の技術伝播についての研究論文の輪読(1)。 第 13 回 20 世紀における西洋の技術伝播についての研究論文の輪読(2)。 第 14 回 20 世紀における西洋の技術伝播についての研究論文の輪読(3)。 第 15 回 研究動向のまとめと問題点の指摘および議論 第 16 回 19 世紀における人的資本と産業化についての研究論文の輪読(1)。 第 17 回 19 世紀における人的資本と産業化についての研究論文の輪読(2)。 第 18 回 19 世紀における人的資本と産業化についての研究論文の輪読(3)。 第 19 回 20 世紀における人的資本と産業化についての研究論文の輪読(1)。 第 20 回 20 世紀における人的資本と産業化についての研究論文の輪読(2)。 第 21 回 20 世紀における人的資本と産業化についての研究論文の輪読(3)。 第 22 回 19～20 世紀初頭のイギリス機械産業における技術の発達と技能形成(1)。 第 23 回 19～20 世紀初頭のイギリス機械産業における技術の発達と技能形成(2)。 第 24 回 19～20 世紀初頭のイギリス機械産業における技術の発達と技能形成(3)。 第 25 回 19～20 世紀初頭のイギリス機械産業における技術の発達と技能形成(4)。 第 26 回 資料の所在と収集について 第 27 回 参加者による事例研究報告(1)。 第 28 回 参加者による事例研究報告(2)。 第 29 回 参加者による事例研究報告(2)。 第 30 回 全体のまとめ
評価方法・基準	: 平常の授業への参加 40%、レポート 60%で評価する。
教材など	: 教材は授業の開始時に詳細な文献目録を配付する。
備考	: 特になし

■ EE244

科目名	: 日本経史特殊研究
担当者	: 山内 太
週時間数	: ※
単位数	: ※
配当年次	: ※
開講期間	: ※
授業目標	: 受験生の研究テーマを深める
授業内容・方法	: 受講生の研テーマに関する専門書論文を読解、討議するとともに、受講生の研究内容の検討を行う。
授業計画	: 第1回 授業の目標・方針についてのガイダンス 第2回 修士論文等の内容報告・検討 第3回 研究テーマに関する基本的文献の読解・討議 第4回 研究テーマに関する基本的文献の読解・討議 第5回 研究テーマに関する基本的文献の読解・討議 第6回 研究テーマに関する基本的文献の読解・討議 第7回 研究テーマに関する基本的文献の読解・討議 第8回 研究テーマに関する基本的文献の読解・討議 第9回 研究テーマに関する基本的文献の読解・討議 第10回 研究テーマに関する基本的文献の読解・討議 第11回 研究テーマに関する基本的文献の読解・討議 第12回 研究テーマに関する基本的文献の読解・討議 第13回 研究テーマに関する基本的文献の読解・討議 第14回 研究テーマに関する資料の検討 第15回 研究テーマに関する資料の検討 第16回 研究テーマに関する資料の検討 第17回 研究内容の報告・検討 第18回 研究内容の報告・検討 第19回 研究内容の報告・検討 第20回 研究内容の報告・検討 第21回 研究内容の報告・検討 第22回 研究内容の報告・検討 第23回 研究内容の報告・検討 第24回 研究内容の報告・検討 第25回 研究内容の報告・検討 第26回 研究内容の報告・検討 第27回 研究内容の報告・検討 第28回 研究内容の報告・検討 第29回 研究内容の報告・検討 第30回 テーマに関する総括レポート作成と討議
評価方法・基準	: レポート70%、平常点30%
教材など	: 受講生と相談のうえ決定する。
備考	:

■ EE247

科目名	: 農業政策特殊研究
担当者	: 並松 信久
週時間数	: ※
単位数	: ※
配当年次	: ※
開講期間	: ※
授業目標	: 農業政策は地域性ないし歴史性をもっている。この特徴のゆえに、農業政策は地域的な限界や歴史的な限界をもつことが多い。授業では、できるだけこの限界を認識して、農業政策に関する専門的な知識を身に付け、自立して研究に従事できる研究者あるいは研究に関連する専門職となることを目標にする。 受講生は単に幅広い知識を身に付けるのではなく、農業政策に関する専門的な議論や発表あるいは専門論文の作成ができるようになることをめざす。
授業内容・方法	: 博士論文の作成計画に基づいて、発表および質疑応答を繰り返し、博士論文の全体構想をまとめる。そのうえで完成度の高い博士論文をめざして、発表と質疑応答を繰り返して、博士論文の追加・削除・訂正を行なっていく。
授業計画	: 第1回 博士論文の課題の検討。 第2回 博士論文の課題の選定。 第3回 先行研究（邦文資料）の整理。 第4回 先行研究（邦文資料）の検討。 第5回 先行研究（邦文資料）の検討と残されている課題の抽出。 第6回 先行研究（欧文資料）の整理。 第7回 先行研究（欧文資料）の検討。 第8回 先行研究（欧文資料）の検討と残されている課題の抽出。 第9回 これまでの研究結果の発表と博士論文の課題の確定。 第10回 課題に応じたデータ類の収集。 第11回 課題に応じたデータ類の整理。 第12回 課題とデータ類の整合性の確認。 第13回 分析手法に関する資料（邦文）の収集。 第14回 分析手法に関する資料（邦文）の整理。 第15回 分析手法に関する資料（欧文）の収集。 第16回 分析手法に関する資料（欧文）の整理。 第17回 課題に応じたデータ類の検討 第18回 課題に応じたデータ類の分析。 第19回 データ類の分析結果の発表と検討。 第20回 課題に応じて、実態調査の検討。 第21回 実態調査の対象となる地域の選定。 第22回 実態調査の方法の検討。 第23回 実態調査結果の分析。 第24回 地域資料の活用の検討。 第25回 実態調査結果と地域資料の総合的な分析。 第26回 博士論文（第1章）に関する発表と質疑応答。 第27回 博士論文（第2章）に関する発表と質疑応答。 第28回 博士論文（第3章）に関する発表と質疑応答。 第29回 博士論文（第4章）に関する発表と質疑応答。 第30回 博士論文の概要の作成。
評価方法・基準	: 博士論文（90%）、ないし博士論文に至るまでの学会（研究会）発表やレポート（10%）で評価する。
教材など	: 研究テーマに関する資料や文献。
備考	:

■ EE248

科目名	： 経済体制論特殊研究
担当者	： 後藤 富士男
週時間数	： ※
単位数	： ※
配当年次	： ※
開講期間	： ※
授業目標	： 博士論文作成のために必要な文献、データ、資料等を渉猟しつつ、おおまかな研究テーマとアウトラインの決定を目指す。
授業内容・方法	： 講読文献とそれについての報告日程を決定したのち、関連文献・資料・データ等の渉猟方法について指導する。
授業計画	： 第1回 受講生と相談の上で、まずは関心のある研究テーマに関する先行研究と参考文献を調査してもらい、その調査結果の報告を求める。 第2回 先行研究の調査結果についての報告とコメント。 第3回 先行研究の調査結果についての報告とコメント。 第4回 先行研究の調査結果についての報告とコメント。 第5回 先行研究の調査結果についての報告とコメント。 第6回 先行研究の中で中心的な論文、著書をいっしょに講読しながら、その内容に関する報告を求め、コメントする。 第7回 先行研究の中で中心的な論文、著書をいっしょに講読しながら、その内容に関する報告を求め、コメントする。 第8回 先行研究の中で中心的な論文、著書をいっしょに講読しながら、その内容に関する報告を求め、コメントする。 第9回 先行研究の中で中心的な論文、著書をいっしょに講読しながら、その内容に関する報告を求め、コメントする。 第10回 先行研究の中で中心的な論文、著書をいっしょに講読しながら、その内容に関する報告を求め、コメントする。 第11回 先行研究の中で中心的な論文、著書をいっしょに講読しながら、その内容に関する報告を求め、コメントする。 第12回 先行研究の中で中心的な論文、著書をいっしょに講読しながら、その内容に関する報告を求め、コメントする。 第13回 先行研究の中で中心的な論文、著書をいっしょに講読しながら、その内容に関する報告を求め、コメントする。 第14回 先行研究の中で中心的な論文、著書をいっしょに講読しながら、その内容に関する報告を求め、コメントする。 第15回 先行研究の講読と報告、それに対するコメントをしながら、独自研究の余地を探るとともに、その研究に必要な理論と計量の手法を指導する。また、必要なデータの渉猟、加工も進めてもらう。 第16回 先行研究の講読と報告、それに対するコメントをしながら、独自研究の余地を探るとともに、その研究に必要な理論と計量の手法を指導する。また、必要なデータの渉猟、加工も進めてもらう。 第17回 先行研究の講読と報告、それに対するコメントをしながら、独自研究の余地を探るとともに、その研究に必要な理論と計量の手法を指導する。また、必要なデータの渉猟、加工も進めてもらう。 第18回 先行研究の講読と報告、それに対するコメントをしながら、独自研究の余地を探るとともに、その研究に必要な理論と計量の手法を指導する。また、必要なデータの渉猟、加工も進めてもらう。 第19回 先行研究の講読と報告、それに対するコメントをしながら、独自研究の余地を探るとともに、その研究に必要な理論と計量の手法を指導する。また、必要なデータの渉猟、加工も進めてもらう。 第20回 先行研究の講読と報告、それに対するコメントをしながら、独自研究

	の余地を探るとともに、その研究に必要な理論と計量の手法を指導する。また、必要なデータの渉猟、加工も進めてもらう。
第 21 回	先行研究の講読と報告、それに対するコメントをしながら、独自研究の余地を探るとともに、その研究に必要な理論と計量の手法を指導する。また、必要なデータの渉猟、加工も進めてもらう。
第 22 回	先行研究の講読と報告、それに対するコメントをしながら、独自研究の余地を探るとともに、その研究に必要な理論と計量の手法を指導する。また、必要なデータの渉猟、加工も進めてもらう。
第 23 回	先行研究の講読と報告、それに対するコメントをしながら、独自研究の余地を探るとともに、その研究に必要な理論と計量の手法を指導する。また、必要なデータの渉猟、加工も進めてもらう。
第 24 回	先行研究の講読と報告、それに対するコメントをしながら、独自研究の余地を探るとともに、その研究に必要な理論と計量の手法を指導する。また、必要なデータの渉猟、加工も進めてもらう。
第 25 回	先行研究の講読と報告、それに対するコメントをしながら、独自研究の余地を探るとともに、その研究に必要な理論と計量の手法を指導する。また、必要なデータの渉猟、加工も進めてもらう。
第 26 回	先行研究の講読と報告、それに対するコメントをしながら、独自研究の余地を探るとともに、その研究に必要な理論と計量の手法を指導する。また、必要なデータの渉猟、加工も進めてもらう。同時に独自研究のおおまかなテーマを絞り込み、アウトラインの作成に着手する。
第 27 回	先行研究の講読と報告、それに対するコメントをしながら、独自研究の余地を探るとともに、その研究に必要な理論と計量の手法を指導する。また、必要なデータの渉猟、加工も進めてもらう。同時に独自研究のおおまかなテーマを絞り込み、アウトラインの作成に着手する。
第 28 回	先行研究の講読と報告、それに対するコメントをしながら、独自研究の余地を探るとともに、その研究に必要な理論と計量の手法を指導する。また、必要なデータの渉猟、加工も進めてもらう。同時に独自研究のおおまかなテーマを絞り込み、アウトラインの作成に着手する。
第 29 回	先行研究の講読と報告、それに対するコメントをしながら、独自研究の余地を探るとともに、その研究に必要な理論と計量の手法を指導する。また、必要なデータの渉猟、加工も進めてもらう。同時に独自研究のおおまかなテーマを絞り込み、アウトラインの作成に着手する。
第 30 回	先行研究の講読と報告、それに対するコメントをしながら、独自研究の余地を探るとともに、その研究に必要な理論と計量の手法を指導する。また、必要なデータの渉猟、加工も進めてもらう。同時に独自研究のおおまかなテーマを絞り込み、アウトラインの作成に着手する。
評価方法・基準	： 授業中の研究経過報告と質疑応答（50％）、研究テーマ・アウトライン案（50％）を総合して評価する。
教材など	： 研究テーマに関連する文献、資料、データ。
備考	：

■ EE250

科目名	: 公共経済学特殊研究
担当者	: 飯田 善郎
週時間数	: ※
単位数	: ※
配当年次	: ※
開講期間	: ※
授業目標	: 専門家としての知識と技量を証明するだけの内容を持つ論文を完成させる。論文の核となる部分を学会誌投稿できる水準のものを旨す。
授業内容・方法	: 受講者は自らの研究テーマにそって論文の執筆をすすめ、都度指導を受ける。特論演習などで学ぶ先行研究の理論と実証を正しく踏まえているか、論文の意義・目的、研究・分析手法、結果解釈等で正しく論文を構成しているか確認しながら論文を完成させる。
授業計画	: 第1回 研究テーマの確認と方向性についての指示 第2回 先行研究の確認、サーベイの方向性について確認と指導 第3回 データ検索等指導 第4回 関連研究理論系概要確認・検討 第5回 関連研究実証系概要確認・検討 第6回 研究の位置づけ、意義の確認 第7回 先行研究講読1 第8回 先行研究講読2 第9回 先行研究講読3 第10回 先行研究の手法を踏まえての当該研究方針の検討 第11回 理論モデルの検討 第12回 実証方法・実証データの検討 第13回 理論・実証研究補足講義 第14回 サーベイ・導入部構成指導 第15回 中間報告・講評 第16回 研究計画確認・指導 第17回 理論・実証研究構成1 第18回 理論・実証研究構成2 第19回 理論・実証研究構成3 第20回 結果の検証、再検討指導 第21回 中間報告・講評 第22回 先行・関連研究再調査・検証 第23回 理論・実証研究構成4 第24回 理論・実証研究構成5 第25回 結果解釈検討 第26回 議論構成指導 第27回 結論部構成指導 第28回 研究の位置づけ、意義の再検討、序文等再構成指導 第29回 全体構成の指導 第30回 報告・講評
評価方法・基準	: 各段階での目標を定め、課題とする。提出された課題の完成度をもって100%判断する。
教材など	:
備考	:

■ EE251

科目名	: 地方財政論特殊研究
担当者	: 菅原 宏太
週時間数	: ※
単位数	: ※
配当年次	: ※
開講期間	: ※
授業目標	: 地方財政に関する制度と理論・実証分析手法についての知識を修得する。
授業内容・方法	: 受講生による輪読と質疑応答。予め受講生によって作成されたレジュメを基に、テキストの該当章の内容および関連するトピックスについて議論する。※以下の授業内容は、テキストの各章に基づいている。
授業計画	: 第1回 ガイダンス 第2回 政府の役割と地方政府の役割 (経済分析 第1章) 第3回 わが国の政府組織と地方財政 (1) (経済分析 第2章) 第4回 わが国の政府組織と地方財政 (2) (経済分析 第2章) 第5回 地方財政構造と時系列分析 (経済分析 第3章) 第6回 配分機能と地方政府 (経済分析 第4章) 第7回 所得分配機能と地方政府 (経済分析 第5章) 第8回 機能配分論の実証研究 (経済分析 第6章) 第9回 地方税概説 (経済分析 第7章) 第10回 地方分権と税源配分 (経済分析 第8章) 第11回 租税輸出論 (1) (経済分析 第9章) 第12回 租税競争論 (1) (経済分析 第10章) 第13回 固定資産税と経済効果 (経済分析 第11章) 第14回 補助金概説 (経済分析 第12章) 第15回 一般補助金論 (経済分析 第13章) 第16回 不完全情報と補助金政策 (経済分析 第14章) 第17回 財政錯覚論概説 (経済分析 第15章) 第18回 地方税制度と財政錯覚 (経済分析 第16章) 第19回 補助金と財政錯覚 (経済分析 第17章) 第20回 地方分権の伝統的理論 (経済理論 序章・第1章) 第21回 地方分権制度と地域資源配分 (経済理論 第2章) 第22回 地方分権と所得再分配 (経済理論 第3章) 第23回 課税の限界費用 (経済理論 第4章) 第24回 租税輸出論 (2) (経済理論 第5章) 第25回 租税競争論 (2) (経済理論 第6章) 第26回 重複課税と垂直的外部性 (経済理論 第7章) 第27回 一般補助金と純財政便益 (経済理論 第8章) 第28回 非対称情報と補助金政策 (経済理論 第9章) 第29回 ソフトな予算制約の理論と補助金制度 (経済理論 第10章) 第30回 アカウンタビリティと地方財政 (経済理論 第11章)
評価方法・基準	: 平常点 (議論での発言等) : 30%、レジュメ作成 : 30%、期末レポート : 40%
教材など	: 堀場勇夫『地方分権の経済分析』東洋経済新報社 1999年 堀場勇夫『地方分権の経済理論』東洋経済新報社 2008年
備考	:

■ EE254

科目名	: 開発経済学特殊研究
担当者	: 大坂 仁
週時間数	: ※
単位数	: ※
配当年次	: ※
開講期間	: ※
授業目標	: 開発経済学に関する理論や知識を深めるとともに、高い考察力や分析力を身につけること。なお、この特殊研究では、開発経済学における最近のサーベイ論文に焦点をあてて、参考書にもとづいて授業を進めていく。
授業内容・方法	: 演習形式にて授業を行う。受講生によって準備された参考書の該当箇所または関連する論文の要約について議論していく。
授業計画	: 第1回 ガイダンス 第2回 途上国の産業政策 第3回 途上国の貿易と経済発展 (1) 第4回 途上国の貿易と経済発展 (2) 第5回 途上国の海外直接投資 第6回 金融のグローバル化 (1) 第7回 金融のグローバル化 (2) 第8回 金融グローバル化とマクロ経済政策 第9回 グローバル化と金融政策 (1) : 資本フローと経済成長 第10回 グローバル化と金融政策 (2) : 資本規制 第11回 国際労働移動の概要 (1) 第12回 国際労働移動の概要 (2) 第13回 途上国の移民政策 (1) 第14回 途上国の移民政策 (2) 第15回 まとめと復習 (1) : 第14回までの復習 第16回 所有権と経済発展の概要 第17回 資源分配と所有権の問題 第18回 良いガバナンスの意義と理論的枠組み 第19回 良いガバナンスの事例 (1) 第20回 良いガバナンスの事例 (2) 第21回 人口問題と開発 第22回 保健衛生と開発 (1) 第23回 保健衛生と開発 (2) 第24回 開発における教育問題の概要 第25回 教育と開発の理論的枠組みとモデル (1) 第26回 教育と開発の理論的枠組みとモデル (2) 第27回 開発における環境問題の概要 第28回 気候変動と開発 (1) 第29回 気候変動と開発 (2) 第30回 まとめと復習 (2) : 第16回から第29回までの復習
評価方法・基準	: 評価は総合的に判断する: 平常点(授業での議論など)50%、レポート50%。
教材など	: 参考書等: Rodrik, Dani, and Mark R. Rosenzweig (eds.) (2010), <i>Handbook of Development Economics Vol. 5.</i> , Amsterdam: North-Holland. *なお、受講生の希望により、授業計画ならびに参考書を見直すことがあるので注意すること。
備考	:

■ EE255

科目名	: 中国経済論特殊研究
担当者	: 岑 智偉
週時間数	: ※
単位数	: ※
配当年次	: ※
開講期間	: ※
授業目標	: 中国経済分野において、社会に評価されるオリジナルの論文を作成し、関連の学会誌や経済専門誌にレフェリー付きの投稿論文として、多く掲載されることを目標とする。
授業内容・方法	: 学位論文完成を前提に、毎年最低1本の投稿論文の完成、学会報告、投稿を目指す。そのため、毎年において、当該論文の先行研究指導や論文指導などを行いながら、夏休みまでに当該論文の第1稿を完成させる。そして、12月までに学会や研究会でその論文の報告を行って頂き、翌年の3月までにその論文の完成度を高め、投稿を行う。
授業計画	: <ul style="list-style-type: none"> ・1年次では、研究計画に従い、自らの研究課題と方法をより明確にし、必要な研究の基礎を身に付けさせる。 ・毎週輪読と研究進行状況報告を行い、討論などを通して、研究論文をまとめていく。 ・毎年開催される関連の学会にて口頭発表させ、投稿論文として掲載させる。
評価方法・基準	: 論文及び口頭試問により評価する。
教材など	: <ul style="list-style-type: none"> ・Barro, Robert J., and Xavier Sala-i-Martin (2004), <i>Economic Growth</i> (Second Edition), The MIT Press ・Barry Naughton (2007), <i>The Chinese Economy: Transitions and Growth</i>, The MIT Press.
備考	:

■ EE260

科目名	金融論特殊研究
担当者	西村 佳子
週時間数	※
単位数	※
配当年次	※
開講期間	※
授業目標	受講生の取り組む研究テーマに関連する既存研究を読み、同様の分析を異なる期間や異なるデータで行いモデルの妥当性について検討を行う。さらに、受験生の取り組むテーマについて新たな貢献のための道筋をつける。
授業内容・方法	受講生の研究テーマに合わせて、既存研究を発展させた成果をまとめることを目指す。研究成果はいくつかの段階に分けてまとめ、研究会での報告、学会での報告などを通じて練り上げる。
授業計画	<p>第1回 今後の研究テーマについての報告</p> <p>第2回 既存研究に関する報告 1</p> <p>第3回 既存研究に関する報告 2</p> <p>第4回 既存研究に関する報告 3</p> <p>第5回 既存研究に関する報告 4</p> <p>第6回 既存研究に関する報告 5</p> <p>第7回 既存研究に関するモデル・分析方法の検討 1</p> <p>第8回 既存研究に関するモデル・分析方法の検討 2</p> <p>第9回 既存研究に関するモデル・分析方法の検討 3</p> <p>第10回 既存研究に関する実証分析の検討 1</p> <p>第11回 既存研究に関する実証分析の検討 2</p> <p>第12回 既存研究に関する実証分析の検討 3</p> <p>第13回 既存研究に関する実証分析の追試 1</p> <p>第14回 既存研究に関する実証分析の追試 2</p> <p>第15回 春学期のまとめと今後の研究の展開について</p> <p>第16回 研究に関する報告 1</p> <p>第17回 研究に関する報告 2</p> <p>第18回 研究に関する報告 3</p> <p>第19回 研究に関する報告 4</p> <p>第20回 研究に関する報告 5</p> <p>第21回 研究に関する報告 6</p> <p>第22回 研究に関する報告 7</p> <p>第23回 研究会での報告</p> <p>第24回 研究の問題点についての検討 1</p> <p>第25回 研究の問題点についての検討 2</p> <p>第26回 研究の問題点についての検討 3</p> <p>第27回 研究に関する報告 8</p> <p>第28回 研究に関する報告 9</p> <p>第29回 研究に関する報告 10</p> <p>第30回 提出論分に関する報告</p>
評価方法・基準	提出された最終論文と質疑応答 70%、授業時の報告 30%
教材など	特にテキストなどは定めず、受講生の研究テーマによって相談の上決定
備考	

■ EE261

科目名	: ファイナンス論特殊研究
担当者	: 福田 充男
週時間数	: ※
単位数	: ※
配当年次	: ※
開講期間	: ※
授業目標	: 博士論文の作成に必要な高度専門的知識を身につけると同時に研究能力を高める。その上で、博士論文のテーマを明確にした後、論文作成の準備を行い、論文を完成させる。
授業内容・方法	: 先行文献・実証分析に関する進捗状況のプレゼン・質疑応答
授業計画	: 第1回 コーポレート・ファイナンスに関する必読論文の講読・発表 (1) 第2回 コーポレート・ファイナンスに関する必読論文の講読・発表 (2) 第3回 コーポレート・ファイナンスに関する必読論文の講読・発表 (3) 第4回 コーポレート・ファイナンスに関する必読論文の講読・発表 (4) 第5回 まとめ (1) 第6回 博士論文研究テーマの選定と検討 第7回 研究テーマに関する必読論文の講読・発表 (1) 第8回 研究テーマに関する必読論文の講読・発表 (2) 第9回 研究テーマに関する必読論文の講読・発表 (3) 第10回 研究テーマに関する必読論文の講読・発表 (4) 第11回 まとめ (2) 第12回 研究テーマに関する最新の論文の講読・発表 (1) 第13回 研究テーマに関する最新の論文の講読・発表 (2) 第14回 研究テーマに関する最新の論文の講読・発表 (3) 第15回 研究テーマに関する最新の論文の講読・発表 (4) 第16回 まとめ (3) 第17回 論文の構成の検討 第18回 実証分析方法の検討 (1) 第19回 実証分析方法の検討 (2) 第20回 実証分析方法の検討 (3) 第21回 データと実証結果の検討 (1) 第22回 データと実証結果の検討 (2) 第23回 データと実証結果の検討 (3) 第24回 まとめ (4) 第25回 論文源高の提出 第26回 論文の検討・修正 (1) 第27回 論文の検討・修正 (2) 第28回 論文の検討・修正 (3) 第29回 論文の検討・修正 (4) 第30回 博士論文の完成
評価方法・基準	: 発表 (30%)、論文の内容 (70%)
教材など	: 研究テーマに関する文献
備考	:

■ EE262

科目名	: 社会保障論特殊研究
担当者	: 福井 唯嗣
週時間数	: ※
単位数	: ※
配当年次	: ※
開講期間	: ※
授業目標	: 社会保障制度に関する学術論文を複数公表させ、全体として一つのまとまりのある学位論文を作成させる。
授業内容・方法	: 学会報告にあたってはその事前準備についてサポートする。査読誌への投稿にあたっては事前に論文体裁など確認し、査読者からのコメントへの対処の仕方について指導する。
授業計画	: 第1回 年度全体の研究計画および作成する論文テーマ群の確認 第2回 論文執筆の準備状況の報告と指導① 第3回 論文執筆の準備状況の報告と指導② 第4回 論文主要部分となる分析部分の進捗状況報告と指導① 第5回 論文主要部分となる分析部分の進捗状況報告と指導② 第6回 論文主要部分となる分析部分の進捗状況報告と指導③ 第7回 論文執筆の進捗状況報告と指導① 第8回 論文執筆の進捗状況報告と指導② 第9回 論文体裁等の最終確認① 第10回 論文体裁等の最終確認② 第11回 論文執筆の準備状況の報告と指導① 第12回 論文執筆の準備状況の報告と指導② 第13回 論文主要部分となる分析部分の進捗状況報告と指導① 第14回 論文主要部分となる分析部分の進捗状況報告と指導② 第15回 論文主要部分となる分析部分の進捗状況報告と指導③ 第16回 論文執筆の進捗状況報告と指導① 第17回 論文執筆の進捗状況報告と指導② 第18回 論文体裁等の最終確認① 第19回 論文体裁等の最終確認② 第20回 論文の投稿・研究報告状況の確認と指導 第21回 論文執筆の準備状況の報告と指導① 第22回 論文執筆の準備状況の報告と指導② 第23回 論文主要部分となる分析部分の進捗状況報告と指導① 第24回 論文主要部分となる分析部分の進捗状況報告と指導② 第25回 論文主要部分となる分析部分の進捗状況報告と指導③ 第26回 論文執筆の進捗状況報告と指導① 第27回 論文執筆の進捗状況報告と指導② 第28回 論文体裁等の最終確認① 第29回 論文体裁等の最終確認② 第30回 論文の投稿・研究報告状況の確認と指導
評価方法・基準	: 報告(20%)、論文(80%)
教材など	: 参考書: Auerbach, A. J., M. Feldstein ed., Handbook of Public Economics, vol.4 (Elsevier, 2002) Auerbach, A. J., R. Chetty, M. Feldstein and E. Saez ed., Handbook of Public Economics, vol.5 (Elsevier, 2013)
備考	:

■ EE263

科目名	: 労働経済学特殊研究
担当者	: 田中 寧
週時間数	: ※
単位数	: ※
配当年次	: ※
開講期間	: ※
授業目標	: 研究分野を絞り、これに関する参考文献を熟読し、論文テーマを決定する。さらに、実証研究の手法をマスターすることを通し、最終的に博士論文の完成まで指導する。
授業内容・方法	: 原則として、参考文献となる論文や教科書の一部に関して学生が発表する形式をとる。
授業計画	: 第1回 研究分野の決定Ⅰ 第2回 研究分野の決定Ⅱ 第3回 論文テーマの決定Ⅰ 第4回 論文テーマの決定Ⅱ 第5回 参考文献の熟読とデータ分析Ⅰ 第6回 参考文献の熟読とデータ分析Ⅱ 第7回 参考文献の熟読とデータ分析Ⅲ 第8回 参考文献の熟読とデータ分析Ⅳ 第9回 参考文献の熟読とデータ分析Ⅴ 第10回 参考文献の熟読とデータ分析Ⅵ 第11回 参考文献の熟読とデータ分析Ⅶ 第12回 参考文献の熟読とデータ分析Ⅷ 第13回 論文執筆の指導Ⅰ 第14回 論文執筆の指導Ⅱ 第15回 論文執筆の指導Ⅲ 第16回 データ分析結果の確認Ⅰ 第17回 データ分析結果の確認Ⅱ 第18回 データ分析結果の確認Ⅲ 第19回 データ分析結果の確認Ⅳ 第20回 データ分析結果の確認Ⅴ 第21回 章ごとの内容の確認Ⅰ 第22回 章ごとの内容の確認Ⅱ 第23回 章ごとの内容の確認Ⅲ 第24回 章ごとの内容の確認Ⅳ 第25回 章ごとの内容の確認Ⅴ 第26回 博士論文完成のための最終指導Ⅰ 第27回 博士論文完成のための最終指導Ⅱ 第28回 博士論文完成のための最終指導Ⅲ 第29回 博士論文完成のための最終指導Ⅳ 第30回 博士論文完成のための最終指導Ⅴ
評価方法・基準	: 毎授業の発表50%と博士論文50%
教材など	: 学生のレベルおよび選択された研究テーマに基づいて指示する。
備考	:

■ EE264

科目名	: 労働経済学特論B
担当者	: 藤野 敦子
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 実証論文の講読を通じ、仮説等の実証の方法を学ぶ
授業内容・方法	: 英語文献、日本語文献における（女性労働、高齢者労働、若年労働、人口問題）など特定トピックスにおける実証論文を講読し、ディスカッションをする。
授業計画	: 第1回 ガイダンス 第2回 文献講読 第3回 文献講読 第4回 文献講読 第5回 文献講読 第6回 文献講読 第7回 文献講読 第8回 文献講読 第9回 文献講読 第10回 文献講読 第11回 文献講読 第12回 文献講読 第13回 文献講読 第14回 文献講読 第15回 文献講読
評価方法・基準	: 毎回の講義内のプレゼンテーション 100%
教材など	: 適宜教示する。
備考	: